Light you up
DAIHATSU

01999-B2531

Mira TOCOT

取扱説明書
（抜粋版）

よくお読みになってご使用ください。
取扱説明書は車の中に保管しましょう。

本書は安全に関する情報、万一の場合に必要となる情報を抜粋した取扱説明書です。
基本的な操作は、別冊の「クイックガイド」に記載しています。
さらに詳しい取り扱い情報は、スマートフォンでご覧いただける「ダイハツ取扱説明書アプリ」、または「取扱説明書（詳細版）」に記載しています。
お車に乗られる際には、別冊の「クイックガイド」、「ダイハツ取扱説明書アプリ」、または「取扱説明書（詳細版）」も併せてお読みください。

▼ダイハツ取扱説明書アプリのご案内

スマートフォンでご覧いただけるアプリをご提供しています。
ビジュアルから各部の使い方がわかるなど便利な機能を搭載しています。

App Store からダウンロード　　Google Play で手に入れよう

iPhone 用　　Android 用

- アプリケーションは iPhone または Android でご利用いただけます。
- Apple、Apple のロゴ、iPhone は、米国およびその他の国で登録された Apple Inc. の商標です。
- App Store は Apple Inc. のサービスマークです。
- iPhone 商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
- Android、Android ロゴ、Google Play、Google Play ロゴは、Google LLC の商標または登録商標です。

▼取扱説明書（詳細版）のご案内

ダイハツ工業株式会社ホームページにて、取扱説明書（詳細版）を電子データ形式でご提供しています。
取扱説明書の提供ページで「Mira TOCOT」を選択し、閲覧してください。

取扱説明書の提供ページ
https://www.daihatsu.co.jp/service/torisetu/index.htm

なお、取扱説明書（詳細版）の紙書籍をご用意しています。
ご購入を希望される方は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

ご愛車のために

お車をゆずられる際は、次のオーナーのために必ず本書をお車に付けておいてください。

- 車の仕様変更により、本書の内容やイラストがお車と一部異なる場合がございますがご了承ください。
- 本書は別冊の「メンテナンスノート」とともに、いつもお車に保管しておいてください。
- ご不明な点は、ご購入先のダイハツサービス工場（営業スタッフ）におたずねください。

本書の内容について

- お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
- ダイハツサービス工場で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

	イラスト目次	**イラスト**から検索
1	**安全・安心のために**	お客様に**必ずお読みいただきたいこと**
2	**計器の見方**	メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など
3	**各部の操作**	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など
4	**運転**	運転に必要な操作やアドバイス
5	**室内装備・機能**	室内装備の使い方など
6	**お手入れのしかた**	車のお手入れ・メンテナンスの方法
7	**万一の場合には**	故障したときや、緊急時などの対処
8	**車両情報**	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

知っておいていただきたいこと

不正改造について

●ダイハツが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。

●車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

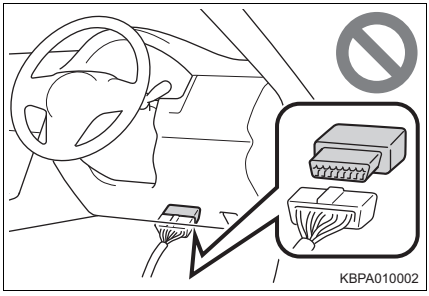
●次の場合はダイハツサービス工場にご相談ください。

- タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
  異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
- 電装品・無線機の取り付け・取りはずし
  電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

●フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。
電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

お車には、車両を制御するためのコンピューターが複数装備されており、車両の制御や操作に関するデータなどを記録しています。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

●データの取り扱いについて

ダイハツおよびダイハツが委託した第三者はコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

【ここでいうダイハツは、ダイハツ工業株式会社を意味しています。】

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生したときに車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

●車両の各システムの作動状況

●アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況

●車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。ダイハツにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

●EDR データの情報開示

次の場合を除き、ダイハツは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ダイハツが訴訟で使用する場合

ただし、ダイハツは

- データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

【ここでいうダイハツは、ダイハツ工業株式会社を意味しています。】

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

●EFI※ コンピューター

●ABS（アンチロックブレーキシステム）

●SRS エアバッグ

●シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずダイハツサービス工場にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をダイハツサービス工場にてご提供します。

※ “EFI” はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方

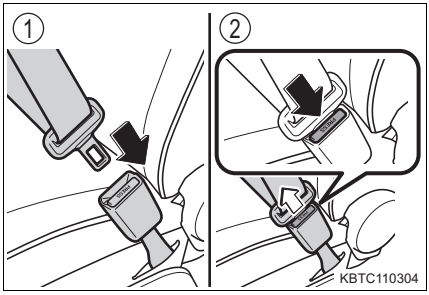
警告 お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意 お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3 … 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

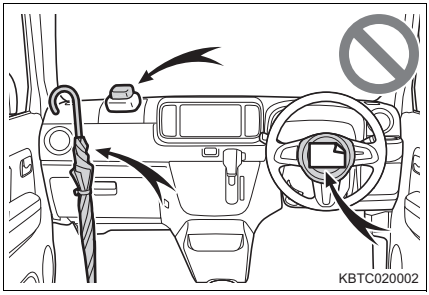
➡: 押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

⇨: フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



➰: 説明の対象となるもの・場所を示しています。

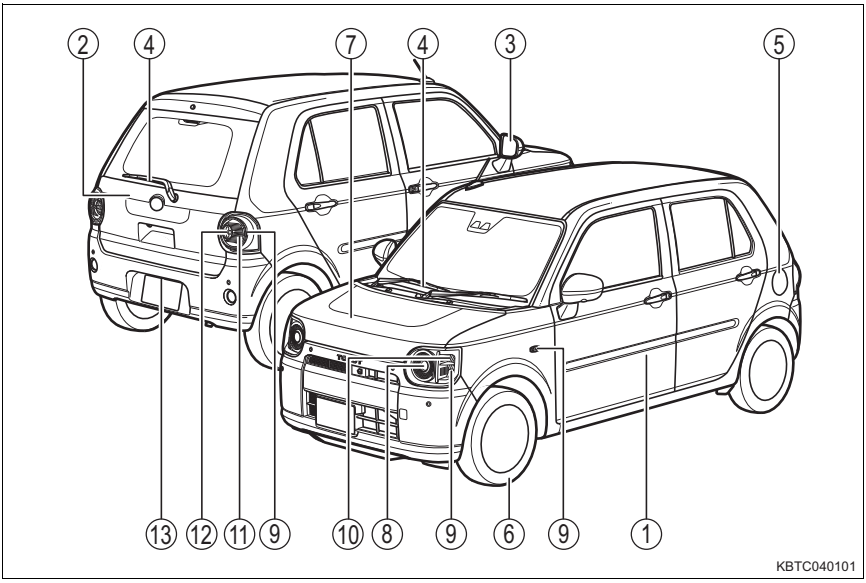
⃠: “してはいけません”
“このようにしないでください”
“このようなことを起こさないでください”という意味です。



知識 機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト目次

▶外観



① **ドア** ……P. 63

施錠／解錠 …… P. 56, 62, 63

ドアガラスの開閉

キーでの施錠／解錠★ …… P. 177

警告灯★・警告メッセージ★…… P. 154, 158

② **バックドア** ……P. 63

施錠／解錠 …… P. 63, 56

警告灯★・警告メッセージ★…… P. 154, 158

③ **ドアミラー** ……P. 69

鏡面の角度調整

ミラーの格納

曇りを取る（ミラーヒーター）★

④ **ワイパー** …… P. 84, 85

冬季の注意

ワイパーゴムの交換

ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

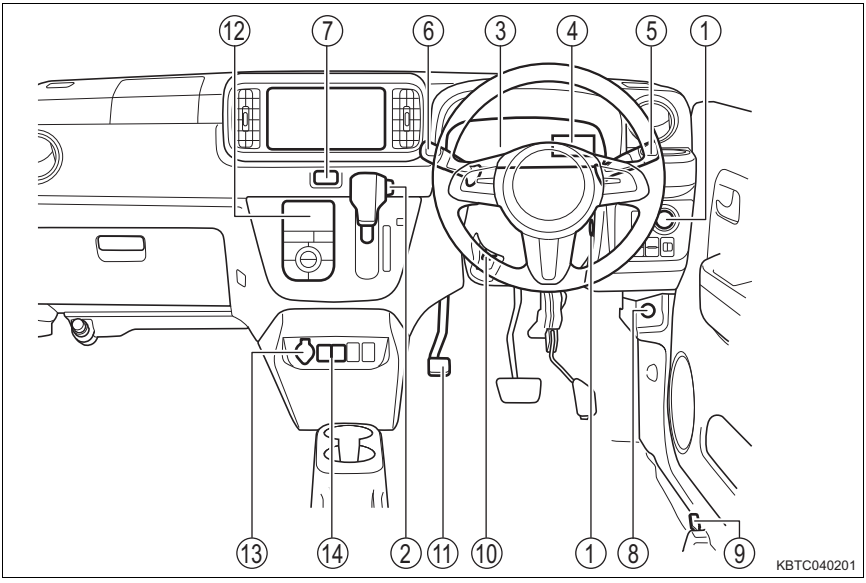
⑤ **給油口** ……P. 85
給油方法
燃料の種類・燃料タンク容量 …… P. 184
⑥ **タイヤ** …… P. 134
サイズ・空気圧 …… P. 187
冬用タイヤ・タイヤチェーン
点検・ローテーション …… P. 134
パンク時の対処 …… P. 167
⑦ **ボンネット** …… P. 132
開け方
エンジンオイル …… P. 184
オーバーヒート時の対処 …… P. 180

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P. 144, ワット数：P. 187）

⑧ **ヘッドランプ** ……P. 79
⑨ **方向指示灯** ……P. 78
⑩ **車幅灯** ……P. 79
⑪ **後退灯**
シフトポジションをＲにする ……P. 77
⑫ **尾灯** ……P. 79
⑬ **番号灯** ……P. 79

ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。

▶インストルメントパネル



① エンジンスイッチ ……P. 75

エンジンの始動・モード切りかえ ……P. 75

エンジンの緊急停止 …… P. 152

エンジンが始動できないときの対処 …… P. 176

警告灯★・警告メッセージ★…… P. 154, 158

② シフトレバー ……P. 77

シフトポジションの切りかえ ……P. 77

けん引時の注意 …… P. 153

シフトレバーが動かないときの対処

③ メーター …… P. 44, 45

見方・明るさの調整

警告灯／表示灯 ……P. 40

警告灯点灯時の対処 …… P. 154

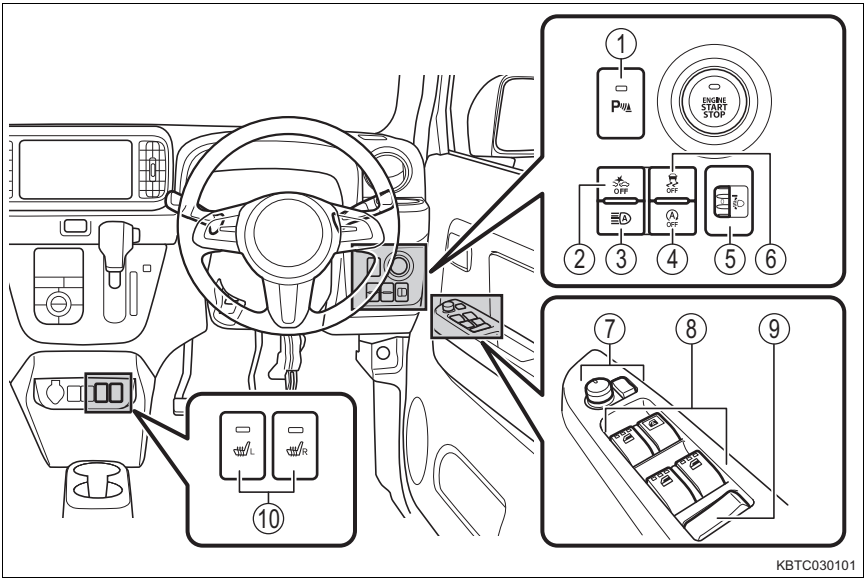
ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

④ **マルチインフォメーションディスプレイ★** ……P. 46
TFT マルチインフォメーションディスプレイ★ ……P. 47
表示内容 …… P. 46, 47
警告メッセージ表示時の対処★ …… P. 158
⑤ **方向指示レバー** ……P. 78
ランプスイッチ ……P. 79
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯 ……P. 79
⑥ **ワイパー＆ウォッシャースイッチ** …… P. 84, 85
使い方 …… P. 84, 85
ウォッシャー液の補充 …… P. 134
⑦ **非常点滅灯スイッチ**
⑧ **ボンネット解除レバー**
⑨ **給油口オープナー**
⑩ **チルトステアリング** ……P. 68
⑪ **パーキングブレーキ**
かける・解除する
冬季の注意 …… P. 124
警告ブザー・警告メッセージ★ …… P. 157, 162
⑫ **エアコン** …… P. 126, 127
操作方法
リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）
⑬ **アクセサリーソケット**
⑭ **USB 電源ソケット★** …… P. 130

ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶スイッチ類



① コーナーセンサースイッチ …… P. 113

② スマートアシスト OFF スイッチ……P. 88

③ オートハイビームスイッチ ……P. 81

④ eco IDLE OFF スイッチ …… P. 108

⑤ 手動光軸調整ダイヤル ……P. 80

⑥ VSC・TRC OFF スイッチ …… P. 122

⑦ ドアミラースイッチ★

⑧ パワーウインドウスイッチ

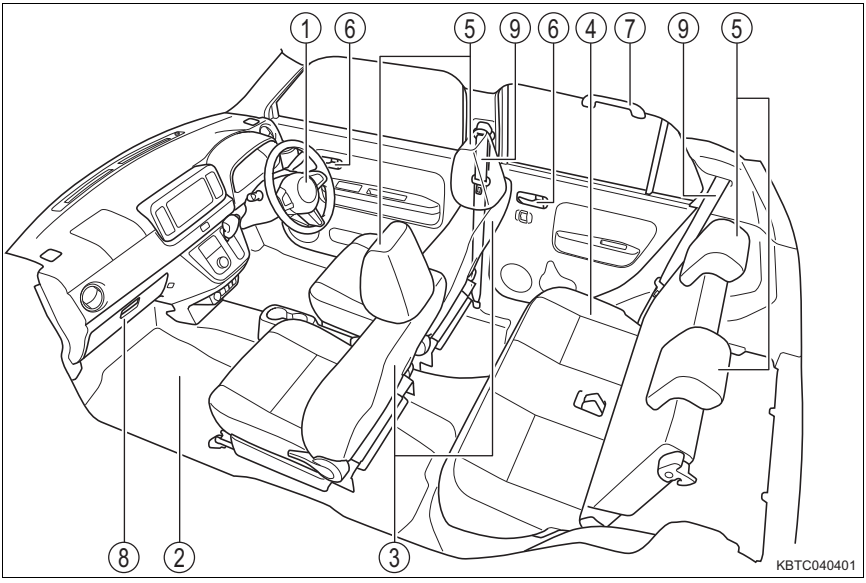
⑨ ウインドウロックスイッチ ……P. 69

⑩ シートヒータースイッチ★ …… P. 128

ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶室内



① SRS エアバッグ ……P. 18

② フロアマット ……P. 14

③ フロントシート ……P. 66

④ リヤシート ……P. 66

⑤ ヘッドレスト ……P. 66

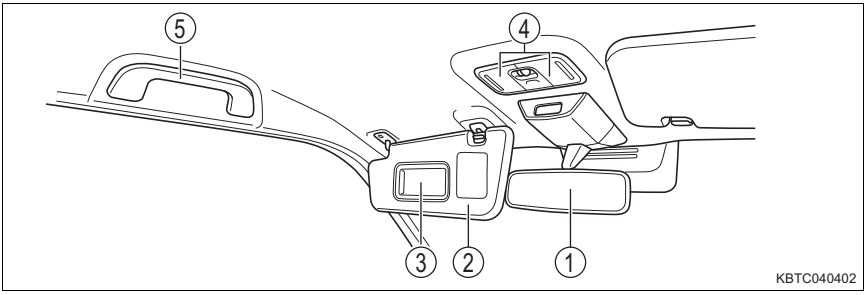
⑥ ロックレバー

⑦ 格納式アシストグリップ …… P. 130

⑧ グローブボックス

⑨ シートベルト ……P. 16

ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。



① インナーミラー ……P. 68

② サンバイザー ※

③ バニティミラー★

④ フロントパーソナルランプ

⑤ 格納式アシストグリップ …… P. 130

※ やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→ P. 25）

ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に …… 14
安全なドライブのために …… 15
シートベルト …… 16
SRS エアバッグ …… 18
排気ガスに対する注意 …… 22
1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは …… 22
チャイルドシート …… 23
1-3. 盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム …… 34
セキュリティアラーム …… 35

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、お車に異常がないことを確認してください。

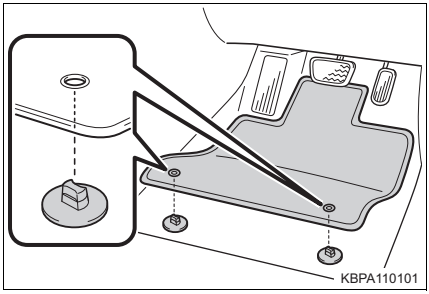
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、ダイハツサービス工場で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

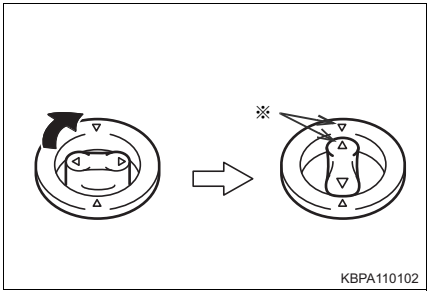
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかり固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

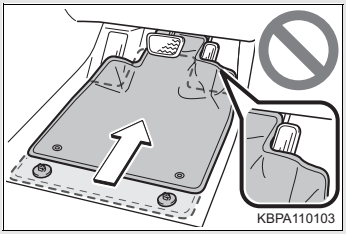
■ 運転席にフロアマットを敷くとき

- ダイハツ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかり固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

⚠ 警告

■ **運転する前に**

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかり固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

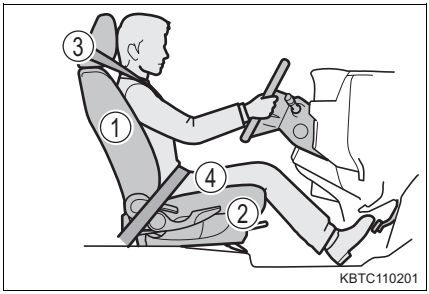


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

① まっすぐ座り、運転操作時に背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する
② ペダルをしっかり踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする
③ 調整式ヘッドレスト装着車：ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 66）
④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 16）



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 16）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→ P. 23）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

⚠ 警告

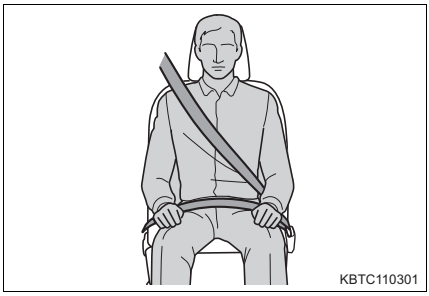
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

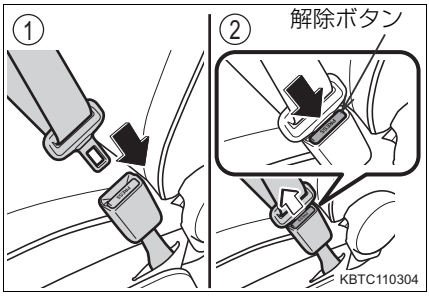
正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける
  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



着け方・はずし方

① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



知識

■ **シートベルトロックの解除方法**

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ **お子さまのシートベルトの使い方**

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 23）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 16）

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがをさけるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまは後席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■ 妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→ P. 16）
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみをさけて胸部にかかるように着用してください。
ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 疾患のあるかたの場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるとき

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

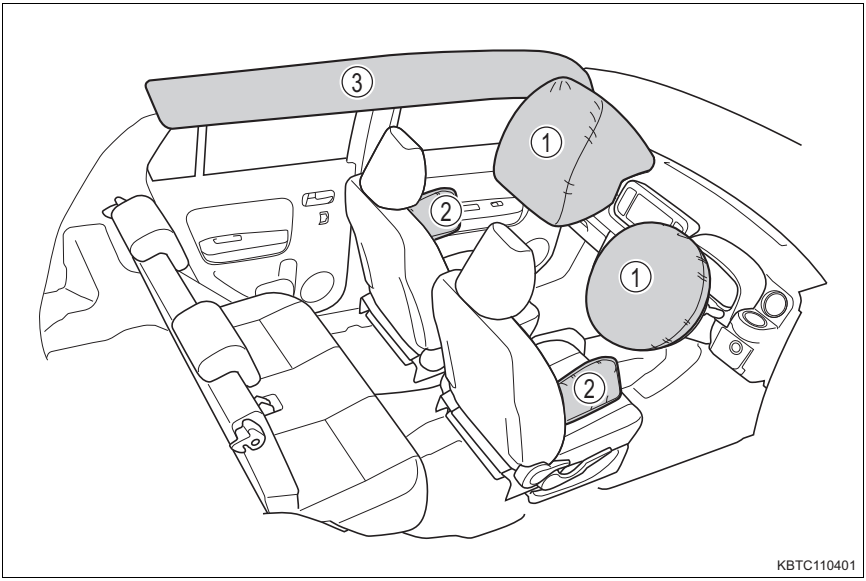
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点滅します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずダイハツサービス工場で交換してください。

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにダイハツサービス工場に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、ダイハツサービス工場以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

◆ SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ

② SRS サイドエアバッグ
（前席乗員の胸などへの衝撃を緩和）
③ SRS カーテンシールドエアバッグ
（前席と後席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

⚠ 警告

■ SRS エアバッグについて

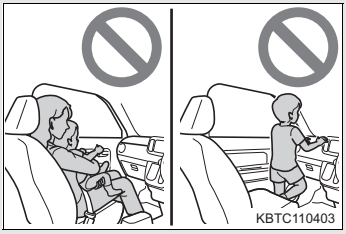
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまは後席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。（→ P. 23）

警告

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

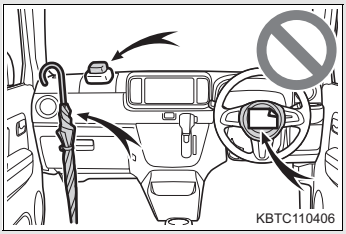
- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

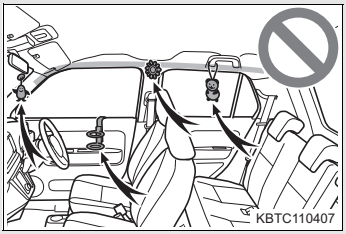
- 助手席や後席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



警告

● ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
（速度制限シールを除く：→ P. 173）



● SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりするおそれがあります。
● SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
● SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
● SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
● SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずダイハツサービス工場で交換してください。

■ **改造・廃棄について**

ダイハツサービス工場への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
● ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
● フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
● グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
● サスペンションの改造
● CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■ **SRS エアバッグが作動するとき**

● SRS エアバッグは高温のガスにより非常に高い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
● 作動音と共に白いガスが発生します。
● フロントシート・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
● フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■ **SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）**

● フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
● 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

知識

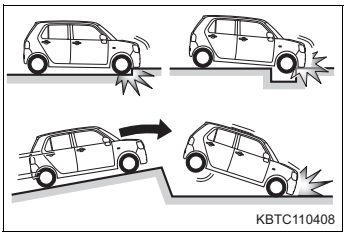
■ SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

● SRS サイド & カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が約 25km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

■ 衝突以外で作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグが作動する場合があります。

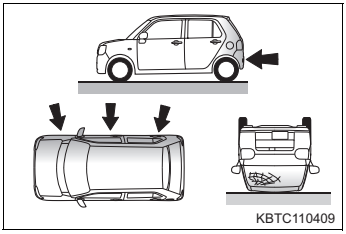
● 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
● 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
● ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき


KBTC110408

■ SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

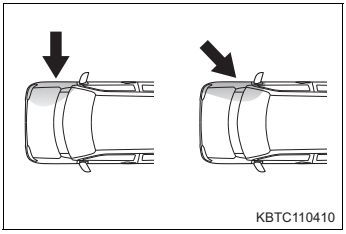
● 側面からの衝突
● 後方からの衝突
● 横転


KBTC110409

■ SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ）

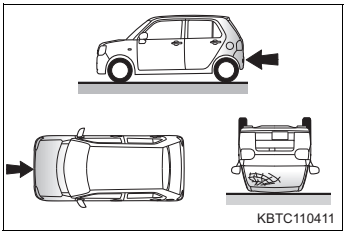
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド & カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

● 客室部分以外の側面への衝撃
● 斜めからの衝撃


KBTC110410

SRS サイド & カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

● 前方からの衝突
● 後方からの衝突
● 横転


KBTC110411

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

⚠ 警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにダイハツサービス工場で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管などの腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずダイハツサービス工場で点検を受けてください。

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→ P. 23）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまは後席に乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター・ウインドウロックスイッチをご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

⚠ 警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた P. 23 を参照してください。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

●シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

●ダイハツでは、より安全にお使いいただくために、ダイハツ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
ダイハツ純正チャイルドシートは、ダイハツ車のために作られたチャイルドシートです。ダイハツサービス工場で購入することができます。

知っておいていただきたいこと

●チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。

●お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。

●お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。

●すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。（→ P. 26）

●この車は 2006 年 10 月 1 日施行の保安基準に適合した ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

チャイルドシートの適合性について

■ 質量グループについて

UN（ECE）R44※ の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次の 5 種類に分類されます。

グループ 0： 10kg まで

グループ 0^{+}：13kg まで

グループⅠ： 9 ～ 18kg

グループⅡ： 15 ～ 25kg

グループⅢ： 22 ～ 36kg

この本では代表的な次の 3 種類のチャイルドシートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ UN（ECE）R44 は、チャイルドシートに関する国際法規です。

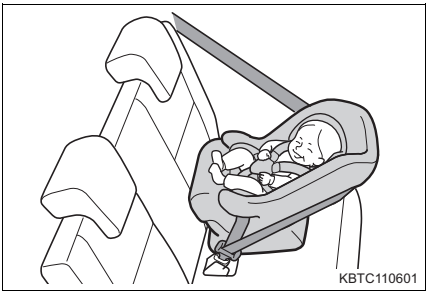
■ サイズ等級、治具について

チャイルドシートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

チャイルドシートの種類

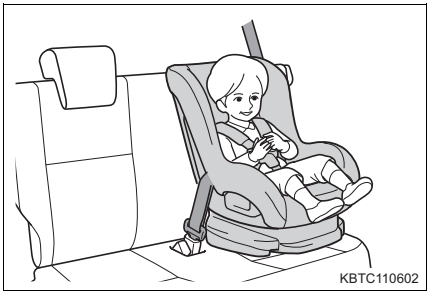
▶ベビーシート

UN（ECE）R44 基準のグループ 0、0^+ に相当



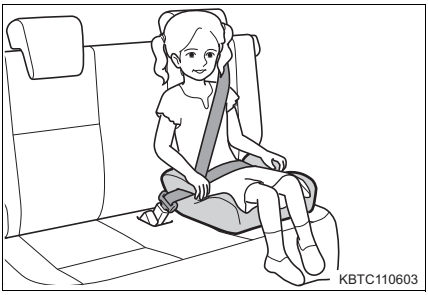
▶チャイルドシート

UN（ECE）R44 基準のグループ 0^+、Ⅰに相当



▶ジュニアシート

UN（ECE）R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当



⚠ 警告

■ お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- ダイハツでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■ チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故などで車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→ P. 26）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかり取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

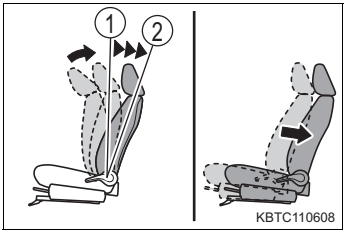
お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを前向きに取り付けてください。

●背もたれをいったん前に倒し、1 段目の固定位置（①）まで起こし、4 段目の固定位置（②）まで調整する

●調整式ヘッドレスト装着車で、ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを最上段に固定するか、ヘッドレストを取りはずす（→ P. 66）

●シートをいちばんうしろに下げる



⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

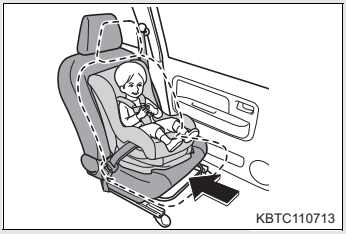
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

● やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



警告

■チャイルドシートを使用するとき

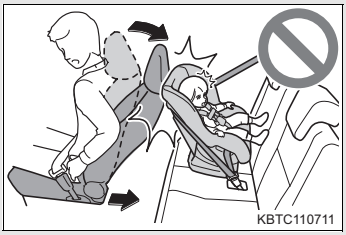
● チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

● 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤシートに取り付けてください。

● 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



シート位置別チャイルドシートの適合性

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 27）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→ P. 29）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

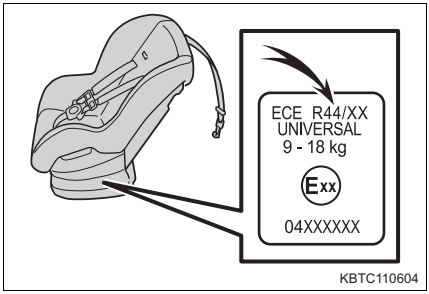
1 チャイルドシートの規格を確認する

UN（ECE）R44※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

▶法規番号の表示例

UN（ECE）R44 認可マーク ※2

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



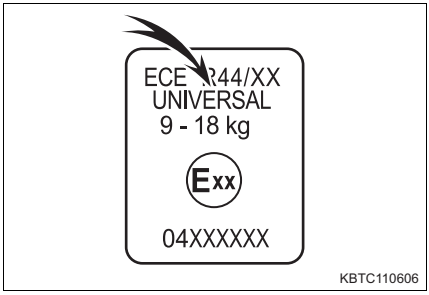
※1 UN（ECE）R44 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※2 表示されているマークは、商品により異なります。

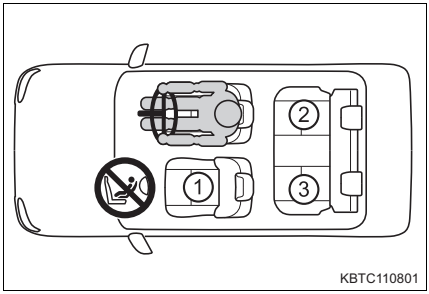
2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。
また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認いただくか、または販売業者へ確認してください。

- ユニバーサル「universal（汎用）」
- セミユニバーサル「semiuniversal（準汎用）」
- リストリクティッド「restricted（限定）」
- ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



■ **シート位置別チャイルドシートの適合性**



①※1、2、3	U ※5
②※4	U L
③※4	U L

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

L ビークルスペシフィック（特定車種用）・リストリクティック（一部制限付き）またはセミユニバーサル（準汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

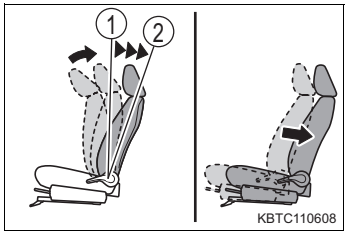
ISOFIX チャイルドシートに適しています。

トップテザーアンカーが装備されています。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1 シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。

※2 背もたれをいったん前に倒し、1 段目の固定位置（①）まで起こし、4 段目の固定位置（②）まで調整してください。



※3 調整式ヘッドレスト装着車で、ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを最上段に固定するか、ヘッドレストを取りはずしてください。

※4 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを最上段に固定するか、ヘッドレストを取りはずしてください。

※5 チャイルドシートは必ず、前向きで使用してください。

■ **チャイルドシート取り付けに関する詳細情報**

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式に適する着座位置（有／無）	有	有	有
ISOFIX 着座位置（有／無）	無	有	有
適する横向きチャイルドシート着座位置の治具（L1 ／ L2）	×	×	×
適するうしろ向きチャイルドシートの治具（R1 ／ R2 ／ R3）	×	R1, R2, R3	R1, R2, R3
適する前向きチャイルドシートの治具（F2X ／ F2 ／ F3）	×	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」と「サイズ等級」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」と「サイズ等級」の関係は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「サイズ等級」を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「サイズ等級」がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

サイズ等級	治具	使用の向き・形状・大きさ
A	F3	全高前向きチャイルドシート
B	F2	低型前向きチャイルドシート
B1	F2X	低型前向きチャイルドシート
C	R3	大型うしろ向きチャイルドシート
D	R2	小型うしろ向きチャイルドシート
E	R1	うしろ向きチャイルドシート
F	L1	左向き寝台式チャイルドシート
G	L2	右向き寝台式チャイルドシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置		
		①	②	③
0、0+ (13kg まで)	ダイハツ純正チャイルドシート (ISOFIX 固定専用)	×	○	○
I (9 ～ 18kg)		×	○ 前向きのみ	○ 前向きのみ

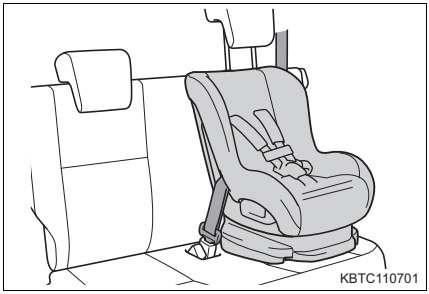
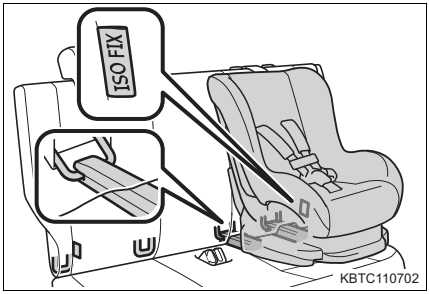
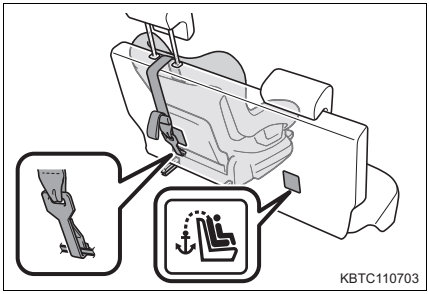
リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子さまやチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。

⚠ 警告

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P. 31
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する		P. 32
テザーベルトを固定する		P. 33

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

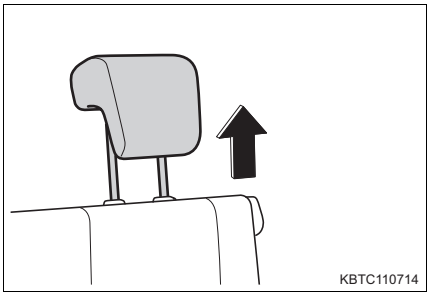
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 27）

1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整する（→ P. 25）

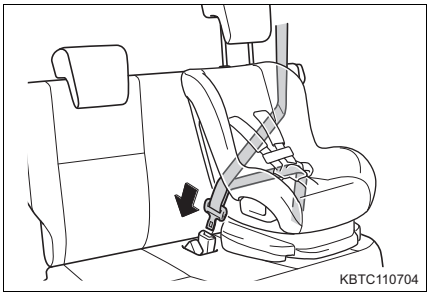
2 調整式ヘッドレスト装着車は、ヘッドレストをいちばん上まで上げる

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを取りはずしてください。（→ P. 66）


KBTC110714

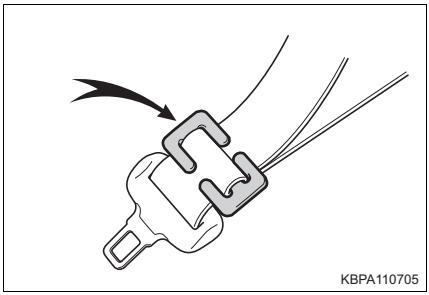
3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込み、ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかり固定させてください。


KBTC110704

4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、ダイハツサービス工場にご相談ください。


KBPA110705

5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する（→ P. 32）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。チャイルドシートを押さえながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

警告

■ **チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。

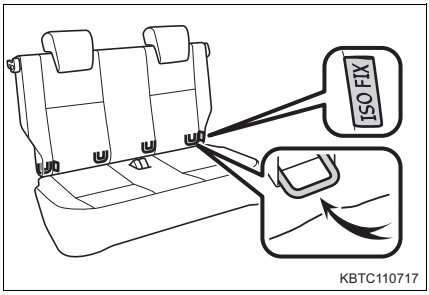
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車はリヤシートに ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーが装備されています。（ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています）



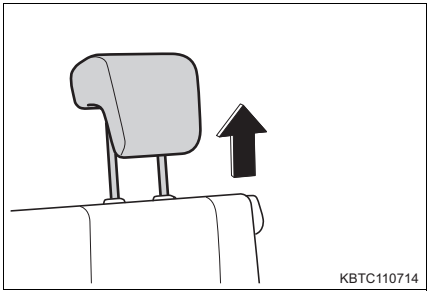
■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 27）

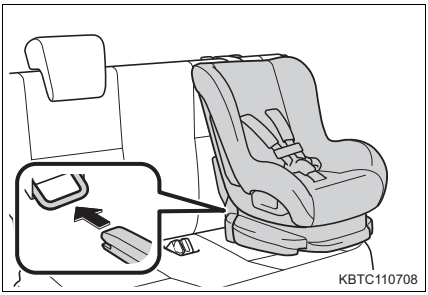
1 ヘッドレストをいちばん上まで上げる

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを取りはずしてください。（→ P. 66）



2 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



3 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→ P. 32）

知識

■ **ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて**

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、UN（ECE）R44 に適合しているチャイルドシート取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

警告

■ **チャイルドシートを取り付けるとき**

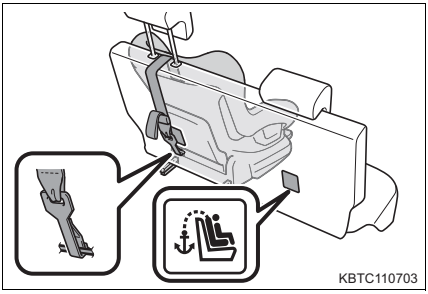
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカーを使用する

■ トップテザーアンカーについて

この車はリヤシートにトップテザーアンカーが装備されています。
テザーベルトを固定するときに使います。

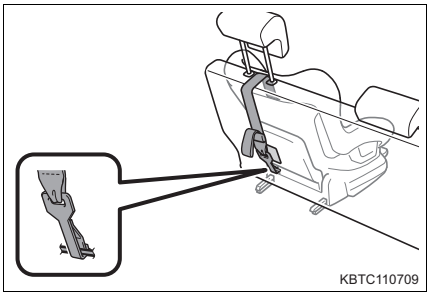


■ テザーベルトをトップテザーアンカーに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。



⚠ 警告

■ **チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカー以外にかけないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

■ **リヤヘッドレストについて**

- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。ヘッドレストの上に掛けると、チャイルドシートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。ヘッドレストを下げると、テザーベルトがヘッドレストに当たってたるみ、衝突したときなどにチャイルドシートが動いて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ヘッドレストの取りはずしが必要な場合は、安全な場所にしっかり固定しておいてください。

1-3. 盗難防止装置

エンジンイモビライザーシステム★

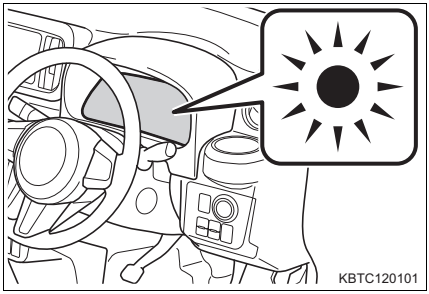
キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

エンジンスイッチを“OFF”にすると、システムの作動を知らせるためにメーター内のセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にするとシステムが解除され、メーター内のセキュリティ表示灯が消灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ **メンテナンスについて**
エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ **システムが正常に作動しないとき**
- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

⚠ 注意

■ **エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために**
システムの改造や取りはずしをしないでください。
システムが正常に作動しないおそれがあります。

セキュリティアラーム

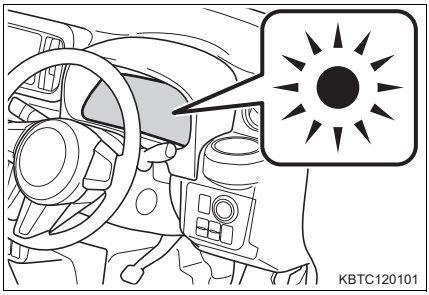
セキュリティアラームとは

セキュリティアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。セキュリティアラームを設定すると、施錠されたドアが、キーフリーシステム★・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠して、開けられたときにセキュリティアラームが作動します。

セキュリティアラームを設定する

すべてのドアを閉め、キーフリーシステム★・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると自動的に設定されます。

セキュリティアラームが設定されると表示灯は点灯から点滅にかわります。



セキュリティアラームの設定を解除する

次のいずれかを行ってください。
- キーフリーシステム★・ワイヤレスリモコンでドアを解錠する
- エンジンスイッチを “ON” にする

セキュリティアラームの作動を停止する

次のいずれかを行ってください。
- ワイヤレスリモコンのロック・アンロックボタンを押す
- キーフリーシステム★で施錠・解錠する
- 電子カードキー★を携帯して乗車する
- エンジンスイッチを “ON” にする

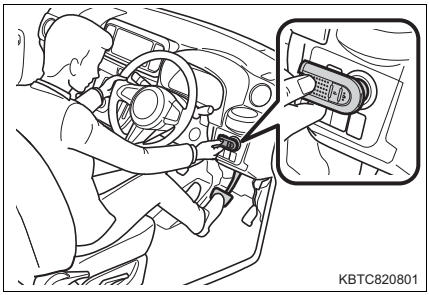
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 電子カードキーが正常に働かないとき（キーフリーシステム装着車）

電池の消耗などで電子カードキーが正常に働かないときは、次の手順でセキュリティアラームの作動を停止してください。

1 ブレーキペダルをしっかり踏む

2 電子カードキーのダイハツエンブレム面でエンジンスイッチにふれる



知識

■ メンテナンスについて

セキュリティアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ ドアを施錠する前の確認

セキュリティアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ セキュリティアラームの設定が中断される場合

セキュリティ表示灯が点灯してから約 30 秒以内に次の操作をしたときは、セキュリティアラームの設定が中断されます。

- 運転席ドアを解錠したとき
- ドアを開けたとき
- キーフリーシステム非装着車で、キーがエンジンスイッチに挿し込まれたとき
- キーフリーシステム装着車で、エンジンスイッチを “ON” にしたとき

■ セキュリティ表示灯について（キーフリーシステム装着車）

エンジンイモビライザーシステムの表示灯を兼ねているため、セキュリティアラームの設定を解除しても、エンジンスイッチを “ACC” にするまで消灯しません。

また、エンジンスイッチを “ACC” から “OFF” にすると点滅します。

■ セキュリティアラームの作動について

- セキュリティアラームは 2 段階で作動します。1 次作動の間に作動が停止されなかった場合、2 次作動に入ります。

  ▶ 1 次作動

  - セキュリティ表示灯が点滅
  - 非常点滅灯が 10 秒間点滅
  - 室内ブザーが 10 秒間断続的に鳴る

  ▶ 2 次作動

  - セキュリティ表示灯が点滅
  - 非常点滅灯が 30 秒間点滅
  - 室内ブザーが 30 秒間断続的に鳴る
  - ホーンが 30 秒間断続的に鳴る

- セキュリティアラーム作動後にドアを閉めると、セキュリティアラームが再び設定状態になりますが、施錠はされません。お車から離れる際は確実に施錠してください。

知識

■ **セキュリティアラームの作動履歴について**

エンジンスイッチの操作で、セキュリティアラームが作動したことをブザーで確認することができます。（2 次作動までした場合のみ）

- エンジンスイッチを “ON” にしたときに、「ピーッピッ」とブザーが鳴ります。
- 作動履歴の確認は、2 次作動後、1 回のみ確認することができます。

⚠ 注意

■ **セキュリティアラームを正常に作動させるために**

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

計器の見方

2

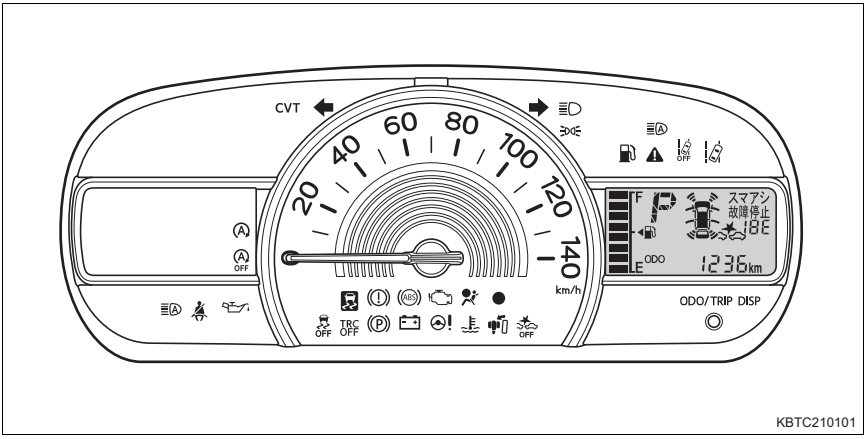
2-1. 計器の見方
警告灯／表示灯 …… 40
計器類 …… 44
マルチインフォメーション
ディスプレイ …… 46
TFT マルチインフォメーション
ディスプレイ …… 47

警告灯／表示灯

メーター内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

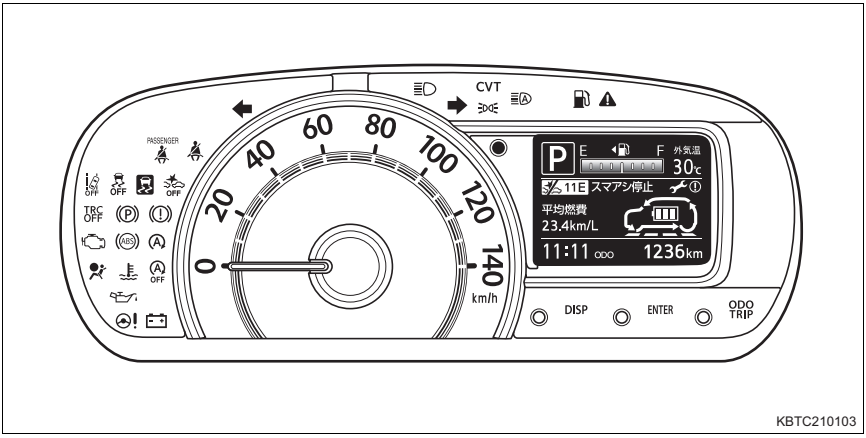
◆ メーター

▶マルチインフォメーションディスプレイ装着車

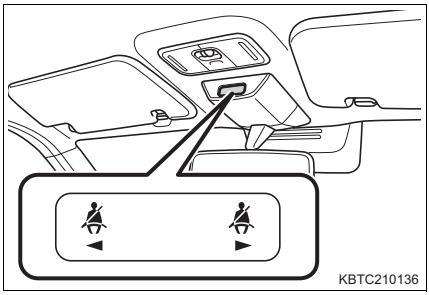


KBTC210101

▶TFT マルチインフォメーションディスプレイ装着車



KBTC210103



警告灯

万一のシステム異常などを警告します。

警告灯			参照先
※1		ブレーキ警告灯	154
※1		充電警告灯	155
※1		油圧警告灯	155
※1		高水温警告灯（赤色）	155
※1		エンジン警告灯	155
※1	CVT	CVT 警告灯（点滅）	155
※1		SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯	155
※1	ABS	ABS 警告灯	155
※1		パワーステアリング警告灯（赤色／黄色）	155
※1		オートハイビーム警告灯（黄色）★	155
※1、2	OFF	スマートアシスト OFF 表示灯	156
※1、3	OFF	車線逸脱警報 OFF 表示灯	156

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯			参照先
※1、4		マスターウォーニング	156
	スマアシ 故障	スマートアシスト故障警告灯	156
	スマアシ 停止	スマートアシスト停止警告灯	165
※5		コーナーセンサー表示灯	156
※1、6		スリップ表示灯	156
※7	OFF	eco IDLE OFF 表示灯（点滅）	156
※1		eco IDLE 表示灯（高速点滅）	158
※1		ブレーキオーバーライドシステム警告灯★	156
		半ドア警告灯★	156
		燃料残量警告灯	156
		シートベルト締め忘れ警告灯（点滅）	157
	PASSENGER	助手席シートベルト締め忘れ警告灯（点滅）★	157
※8		後席シートベルト締め忘れ警告灯	157
		パーキングブレーキ未解除警告灯	157

※1 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

※2 スマートアシストⅢの機能を停止にしたときも点灯します。

※3 車線逸脱警報機能を停止にしたときも点灯します。

※4 スマートアシストⅢが作動したときも点灯します。

※5 コーナーセンサーが作動したときも点灯します。

※6 点滅した場合はシステムが作動していることを示し、点灯した場合はシステム異常のおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※7 eco IDLE を非作動にしたときは点灯します。
※8 インナーミラー上部に点灯します。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

	表示灯		参照先
		方向指示表示灯	78
		ハイビーム表示灯	80
※1		低水温表示灯（青色）	—
		セキュリティ表示灯	34, 35
		尾灯表示灯	79
※2		スリップ表示灯（点滅）	122
※2	OFF	VSC OFF 表示灯	122
※2	TRC OFF	TRC OFF 表示灯	122
※2		eco IDLE 表示灯	107
※3	OFF	eco IDLE OFF 表示灯	108
※2		スマートアシスト作動灯	89, 90
※2、4	OFF	スマートアシスト OFF 表示灯	88
※2		車線逸脱警報作動灯（点滅）	91
※2、4	OFF	車線逸脱警報 OFF 表示灯	88
		オートハイビーム作動灯（緑色）	81

表示灯			参照先
※5		コーナーセンサー表示灯	113

※1 エンジン冷却水温が低いとき点灯します。

※2 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

※3 eco IDLE システムに異常があるときは点滅します。

※4 スマートアシストⅢに異常があるときも点灯します。

※5 コーナーセンサーに異常があるときも点灯します。

警告

■ **安全装置の警告灯が点灯しないとき**

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンスイッチを“ON”にしても点灯しない場合や、数秒後またはエンジンを始動しても点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

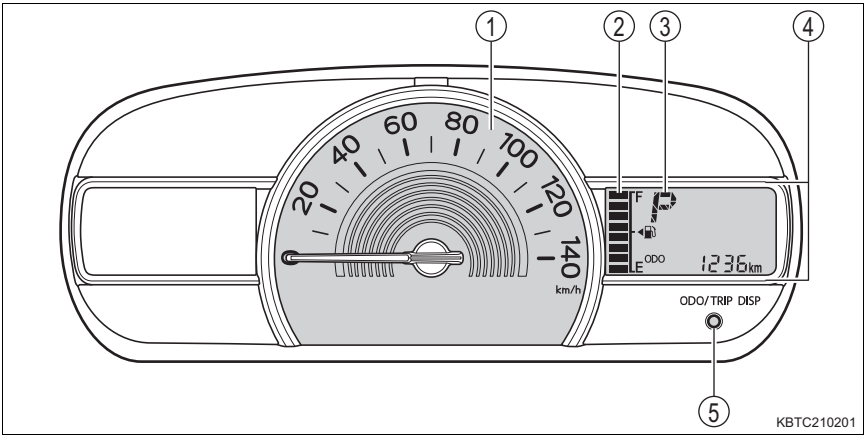
注意

■ **エンジンや構成部品への損傷を防ぐために**

水温計のかわりに高水温警告灯（→ P. 155）が装備されています。高水温警告灯が赤色点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。（→ P. 180）

計器類

▶マルチインフォメーションディスプレイ装着車



① スピードメーター

車両の走行速度を示します。

② 燃料計

燃料残量を示します。

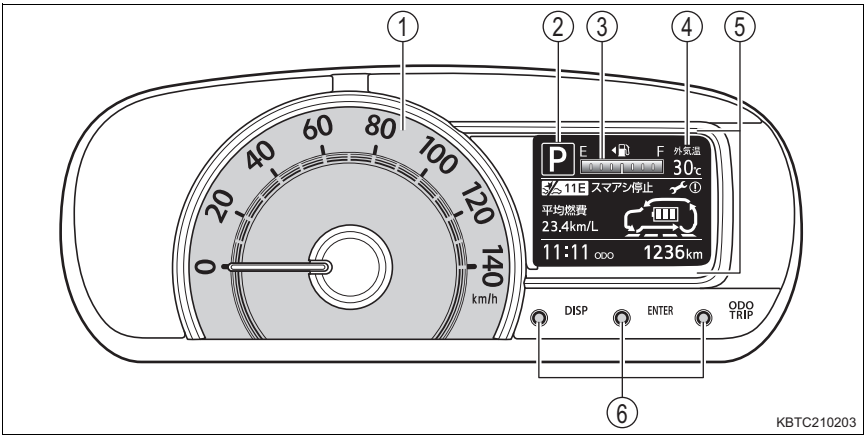
③ シフトポジション表示

選択されているシフトポジションを表示します。（→ P. 77）

④ マルチインフォメーションディスプレイ
車両に関するさまざまな情報を表示・設定します。（→ P. 46）

⑤ 表示切りかえスイッチ
トリップインフォメーションの表示を切りかえます。

▶TFT マルチインフォメーションディスプレイ装着車



① スピードメーター
車両の走行速度を示します。

② シフトポジション表示
選択されているシフトポジションを表示します。（→ P. 77）

③ 燃料計
燃料残量を示します。

④ 外気温
外気温を表示します。

⑤ TFT マルチインフォメーションディスプレイ
車両に関するさまざまな情報を表示・設定します。（→ P. 47）

⑥ 操作スイッチ
TFT マルチインフォメーションディスプレイの画面の表示・設定を切りかえます。（→ P. 47）

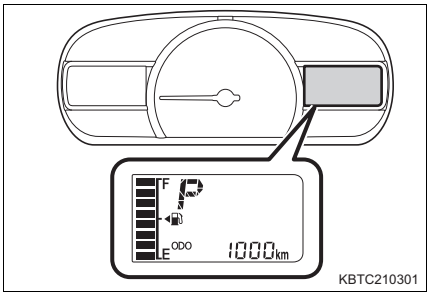
マルチインフォメーションディスプレイ★

表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関するさまざまな情報を表示します。

●トリップインフォメーション
表示される項目は次のとおりです。

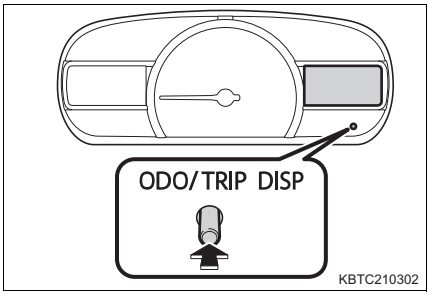
- オドメーター
- トリップメーター A ／ B
- 平均燃費
- 航続可能距離
- 外気温
- アイドリングストップ時間
- アイドリングストップ積算時間
- メーター照度調整



●シフトポジション表示（→ P. 77）
●スマートアシストⅢ機能停止コード表示（→ P. 165）
●コーナーセンサー作動表示（→ P. 113）

表示切りかえ

トリップインフォメーションの表示を切りかえるには、表示切りかえスイッチを押します。



⚠ 警告

■ **走行中の警告**
表示切りかえスイッチを使うときは、安全のため走行中に操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中にディスプレイを見るときは、必要最小限の時間にしてください。

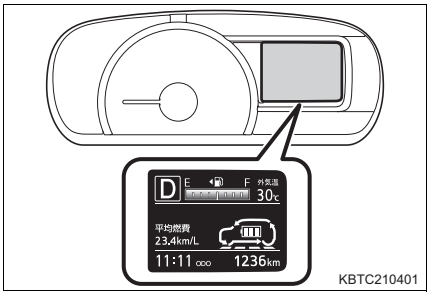
■ **設定を変更するとき**
エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

TFT マルチインフォメーションディスプレイ★

TFT マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関するさまざまな情報を表示します。

表示内容



●トリップインフォメーション
表示される項目は次のとおりです。
- オドメーター
- トリップメーター A ／ B

●ドライブインフォメーション
表示される項目は次のとおりです。
- 平均燃費
- 発電状態表示
- エコリーフゲージ
- 航続可能距離
- 今回燃費
- アイドリングストップ積算時間
- 節約燃料
- メッセージ確認

●外気温
外気温を表示します。

●アイドリングストップ時間／節約燃料（自動表示）

●シフトポジション表示（→ P. 77）

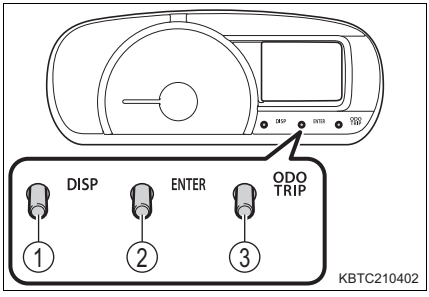
●設定（→ P. 50）
日時の修正や、画面の設定・変更を行います。

●警告メッセージ（→ P. 158）
各システムに異常が発生すると、自動で表示されます。

●スマートアシストⅢ機能停止表示（→ P. 165）

表示切りかえ

操作スイッチを押して、画面の表示切りかえ、設定をします。



① DISP スイッチ
- ドライブインフォメーションの表示を切りかえます。（→ P. 48）
- 画面設定・変更時の下送りをします。（→ P. 50）

② ENTER スイッチ
画面設定・変更時の決定・選択をします。（→ P. 50）

③ ODO/TRIP スイッチ
- トリップインフォメーションの表示を切りかえます。（→ P. 48）
- 画面設定・変更時の上送りをします。（→ P. 50）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

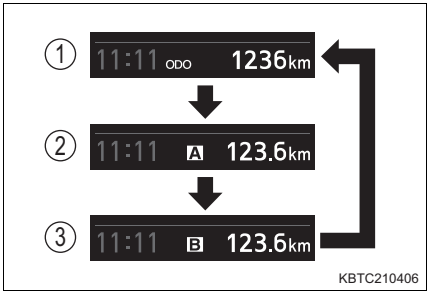
トリップインフォメーション

ODO/TRIP スイッチを押すごとに次のように切りかわります。

① オドメーター
走行した総距離を表示します。

② トリップメーター A※
リセットしてからの走行距離を表示します。
リセットするには、トリップメーター A の表示中に ODO/TRIP スイッチを押し続けます。

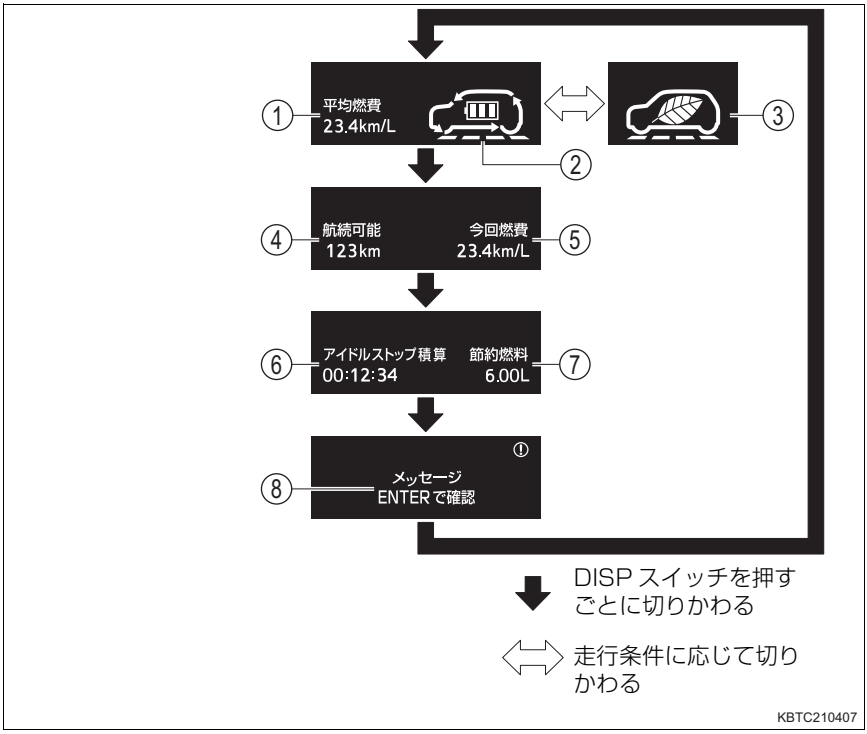
③ トリップメーター B※
リセットしてからの走行距離を表示します。
リセットするには、トリップメーター B の表示中に ODO/TRIP スイッチを押し続けます。



※ 区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

ドライブインフォメーション

DISP スイッチを押すごとに、または走行条件に応じて次のように切りかわります。



① 平均燃費
リセットしてからの平均燃費を約 10 秒ごとに更新して表示します。
- リセットするには、平均燃費表示中に DISP スイッチを押し続けます。
- 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

② 発電状態表示 ※
アクセルペダルから足を離して減速しているときの発電状態を表示します。

③ エコリーフゲージ ※

エコリーフゲージの設定が ON でアクセルペダルを踏んでいるとき、環境に配慮した運転の度合を判定し、エコリーフゲージの目盛りが 3 段階で増減します。

④ 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できる、およその距離を表示します。

- 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

⑤ 今回燃費

エンジンスイッチを“ON”にしてからの平均燃費を約 10 秒ごとに更新して表示します。

⑥ アイドリングストップ積算時間

リセットしてからのアイドリングストップ時間（eco IDLE によるエンジンの停止時間）を通算で表示します。

リセットするには、アイドリングストップ積算時間表示中に DISP スイッチを押し続けます。（節約燃料もリセットされます）

⑦ 節約燃料

リセットしてからのアイドリングストップによる燃料の節約量を通算で表示します。

リセットするには、節約燃料表示中に DISP スイッチを押し続けます。（アイドリングストップ積算時間もリセットされます）

⑧ メッセージ確認

次のとき、「ENTER で確認」と表示されますので、ENTER スイッチを押してメッセージを確認してください。

メッセージを複数記憶している場合は、DISP スイッチを押すと表示が切りかわります。

- 警告メッセージを記憶しているとき（→ P. 158）
- 「スマアシ停止」と表示されているとき（→ P. 165）

メッセージを記憶していないときは「メッセージなし」と表示されます。

※ 発電状態表示とエコリーフゲージは、走行条件に応じて表示が切りかわります。

メッセージアイコン／メンテナンスアイコン

エンジンスイッチが“ON”でお知らせがあるときに点灯します。

① メッセージアイコン

点灯しているときは、DISP スイッチを押してメッセージの内容を確認し、ただちに適切な処置を行ってください。（→ P. 49）

② メンテナンスアイコン

点灯しているときは、設定を確認し、メンテナンスを行ったあとに再度設定をしてください。

オープニング画面

エンジンスイッチを“ON”にしたとき、演出画面を表示したあとに日付とお知らせ画面を数秒間表示します。

次のお知らせ画面を表示することができます。

- ●新年のごあいさつ
- ●誕生日
- ●記念日
- ●車検日
- ●点検日
- ●エンジンオイル交換
- ●オイルフィルター交換
- ●タイヤローテーション

エンディング画面

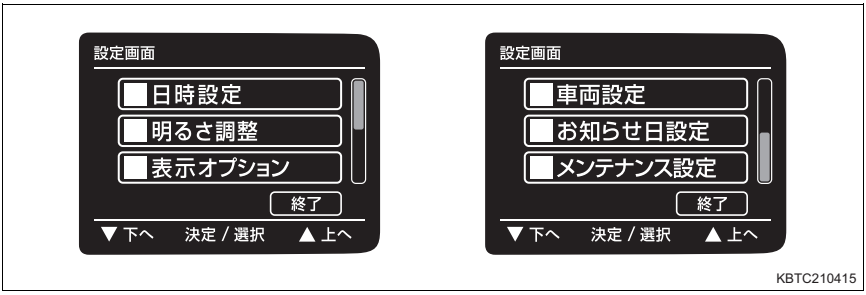
エンジンスイッチを“ON”から“OFF”にするまでの走行の記録を表示します。

■ スコア（燃費）

エンジンスイッチを“ON”から“OFF”にするまでの環境に配慮した運転の度合いを点数で表示します。

設定

エンジンスイッチが“ON”で停車時に、ENTERスイッチを押して「設定画面」を表示し、表示の設定や調整、機能のON/OFFの設定をすることができます。



車両走行中は操作できません。必ず安全な場所に停車して操作してください。

■ **日時**

日時を設定できます。

1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する

2 ODO/TRIP、DISP スイッチを押して「日時設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

- 「日時設定」を表示しているとき、時計機能は作動を停止します。
  「戻る」または「終了」を選択すると、0 秒にリセットされた状態から作動を始めます。

3 ODO/TRIP、DISP　スイッチを押して「時」・「分」・「12H/24H」を選択し、ENTER スイッチを押す

- 時・分は が表示されたあと、ODO/TRIP、DISP スイッチで数値を設定し、再度 ENTER スイッチを押します。
- 12H/24HはENTERスイッチを押すたびに「12H」（12 時間表示）と「24H」（24 時間表示）が切りかわります。
- 12H/24H の設定に関わらず時刻調整時は 24 時間表示になります。

4 ODO/TRIP、DISP スイッチを押し続けるか、数回押して「年」・「月」・「日」の画面に切りかえる

5 ODO/TRIP、DISP　スイッチを押して「年」・「月」・「日」を選択し、ENTER スイッチを押す

が表示されたあと、ODO/TRIP、DISP スイッチで数値を設定し、再度 ENTER スイッチを押します。

■ **メーターの照度**

メーターの昼照度または夜照度を調整できます。

■ **その他の表示オプション設定**

次の機能の ON/OFF を設定することができます。

●オープニング画面、エンディング画面の表示

●エコリーフゲージの表示

●平均燃費の給油時リセット

●アイドリングストップ時間の表示自動切りかえ

●ハンドルポジションモニター（ハンドル位置の警告メッセージの表示）（→ P. 163）

■ **先行車発進、車線逸脱警報ブザー音量設定**

スマートアシストⅢの先行車発進お知らせ機能、車線逸脱警報機能作動時のブザー音量を変更することができます。

1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する

2 ODO/TRIP、DISP スイッチを押し続けるか、数回押して「設定画面」の画面を切りかえ、「車両設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ODO/TRIP、DISP スイッチを押して各機能の「大」、または「小」を選択し、ENTER スイッチを押す
ENTER スイッチを押すごとに「大」、「小」が切りかわります。

■ **表示設定初期化**

表示の設定を初期化（出荷時の状態）することができます。

■ **初期設定一覧**

項目		初期設定
明るさ調整	昼間用	レベル 10
	夜間用	レベル 6
表示オプション	オープニング、エンディング表示	ON
	エコリーフゲージ	ON
	平均燃費給油リセット	OFF
	アイドルストップ表示自動切替	ON
	ハンドルポジションモニター	ON
車両設定	先行車発進ブザー音量	大
	車線逸脱警告ブザー音量	大
お知らせ日設定	設定日 1 ～ 6	未設定
メンテナンス設定	オイル交換お知らせ	OFF
	オイルフィルター交換お知らせ	OFF
	タイヤローテーションお知らせ	OFF

■ お知らせ日設定

オープニング画面で表示される誕生日、記念日、車検日、点検日の通知日を設定できます。

■ メンテナンス設定

オープニング画面で表示されるエンジンオイル交換、オイルフィルター交換、タイヤローテーションの時期を距離で設定できます。

1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する

2 ODO/TRIP、DISP スイッチを押し続けるか、数回押して「設定画面」の画面を切りかえ、「メンテナンス設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

3 ON/OFF を設定する場合は、ODO/TRIP、DISP スイッチを押して各メンテナンス項目の「ON」、または「OFF」を選択し、ENTER スイッチを押す
オイルフィルター交換、タイヤローテーションは、ODO/TRIP、DISP スイッチを押し続けるか、数回押すと表示できます。

▶表示が「OFF」で距離が設定されていない場合は
「設定」の項目が表示されず、「ON」に切りかえると、「設定」の項目が表示されます。

▶すでに距離が設定されている場合は
ENTER スイッチを押すごとに「ON」、「OFF」が切りかわります。

4 距離を設定、リセットする場合は、ODO/TRIP、DISP スイッチを押して各メンテナンス項目の「設定」を選択し、ENTER スイッチを押す
オイルフィルター交換、タイヤローテーションは、ODO/TRIP、DISP スイッチを押し続けるか、数回押すと表示できます。

5 「リセット」が選択されている画面が表示されたら、ENTER スイッチを押す

すでに距離が設定されている場合は、次回お知らせまでの距離が表示されています。

KBTC210434

6 ODO/TRIP、DISP スイッチを押して距離を選択し、ENTER スイッチを押す

が表示されたあと、ODO/TRIP、DISP スイッチで距離を設定し、再度 ENTER スイッチを押します。

KBTC210435

7 ODO/TRIP、DISP スイッチを押して「決定」を選択し、ENTER スイッチを押す

KBTC210436

次回お知らせまでの距離が表示されます。

KBTC210437

⚠ 警告

■ **走行中の警告**

操作スイッチを使うときは、安全のため走行中に操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中にディスプレイを見るときは、必要最小限の時間にしてください。

■ **設定を変更するとき**

→ P. 46

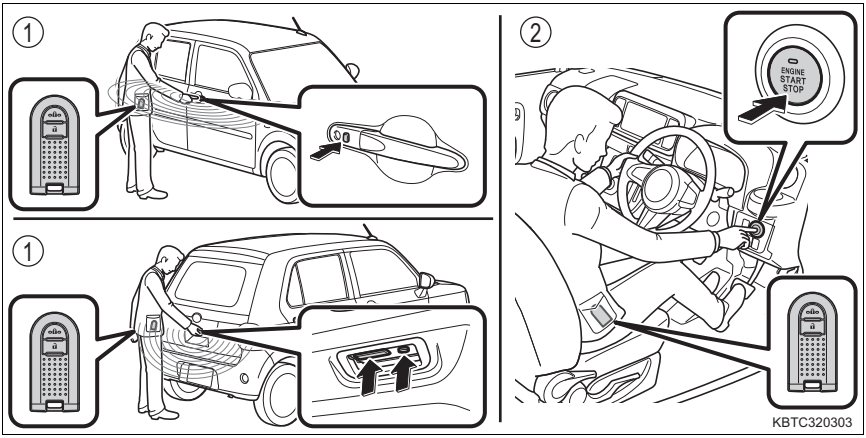
各部の操作 3

3-1. ドアの開閉、ロックのしかた
キーフリーシステム …… 56
ワイヤレスリモコン …… 62
ドア（フロントドア、リヤドア）…… 63
バックドア …… 63
3-2. シートの調整
フロントシート …… 66
リヤシート …… 66
ヘッドレスト …… 66
3-3. ハンドル位置・ミラー
ハンドル …… 68
インナーミラー …… 68
ドアミラー …… 69
3-4. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ …… 69

キーフリーシステム★

機能概要

電子カードキーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。（必ず運転者が携帯してください）



① 全ドアを施錠・解錠する（→ P. 57）
② エンジンを始動する

知識

■ **作動の合図**
ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■ **カスタマイズ機能**
作動の合図を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→ P. 187）

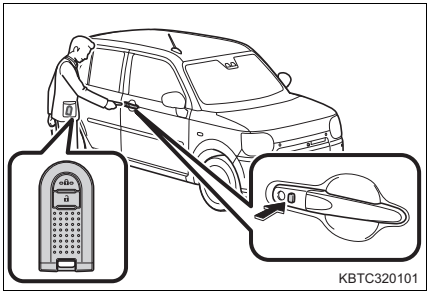
■ **解錠操作のセキュリティ機能**
→ P. 62

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶フロントドアハンドル

リクエストスイッチを押して解錠する

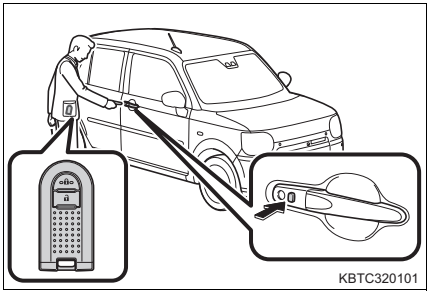
スイッチを確実に押してください。



リクエストスイッチを押して施錠する

スイッチを確実に押してください。

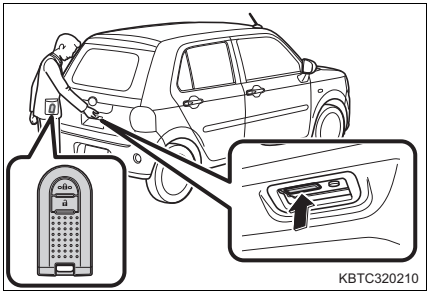
必ず施錠されたことを確認してください。



▶バックドア

バックドアオープンスイッチを押して解錠する

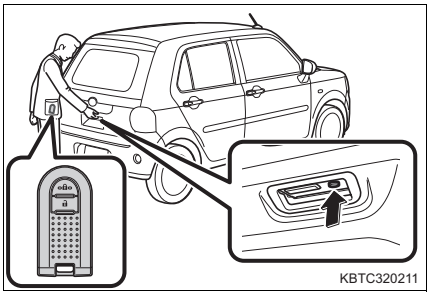
スイッチを確実に押してください。



リクエストスイッチを押して施錠する

スイッチを確実に押してください。

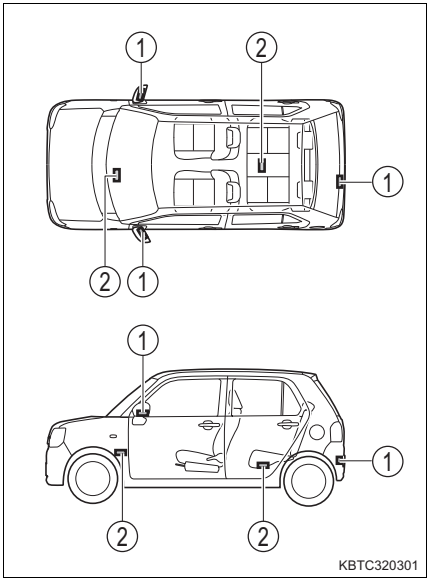
必ず施錠されたことを確認してください。



発信機の位置と作動範囲

■ 発信機の位置

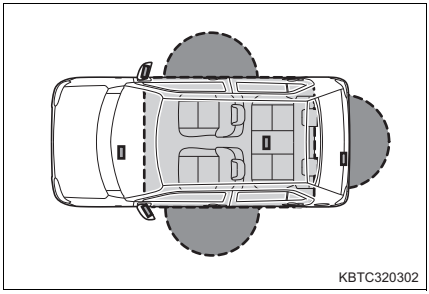
① 車外アンテナ
② 車室内アンテナ



■ 作動範囲（電子カードキーの検知エリア）

●： ドアの施錠・解錠時
ドアハンドルから周囲約80cm以内で電子カードキーを携帯している場合に作動します。
（電子カードキーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

●： エンジン始動時またはモード切りかえ時
車内で電子カードキーを携帯している場合に作動します。



知識

■警告音と警告灯について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴って、警告灯が点灯したり、警告メッセージが表示されることがあります。警告灯が点灯したり、メッセージが表示された場合は、状況に応じて適切に対処してください。（→ P. 154、158）

警告音が鳴る場合の状況と対処方法は次のとおりです。

警告音	状況	対処方法
車内から“ピピピピピ”、車外から“ピッピッピッ”と鳴る	エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、いずれかのドアを開けて電子カードキーを車外に持ち出しドアを閉めた	電子カードキーを携帯して乗車してください

知識

警告音	状況	対処方法
車内から“ピーン ピーン ピーン･･･”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチを“ACC”にした（“ACC”のときに運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチを“OFF”にして、ドアを閉めてください
車外から“ピーッ”と鳴る	エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチで施錠しようとした	エンジンスイッチを“OFF”にして施錠してください
	車内に電子カードキーを置いたまま、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチで施錠しようとした	電子カードキーを携帯して施錠してください
	いずれかのドアが開いているときに、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチやワイヤレスリモコンで施錠しようとした	すべてのドアを閉めて施錠してください
車外から“ピーッ”と鳴って、すべてのドアが解除した	車内に電子カードキーを置いたまま、車内の運転席ドアのロックレバーを施錠側にして運転席のドアハンドルを引いたままドアを閉めた	電子カードキーを携帯して施錠してください
車外から“ピーッ”と鳴って、すべてのドアが解錠した（エンジンスイッチが“ACC”のときは鳴りません）	エンジンスイッチが“ACC”または“OFF”のときに、すべてのドアが施錠されている状態で運転席以外のドアのロックレバーを解錠側にして、ドアを開けて閉めた	電子カードキーを携帯して施錠してください
車内から“ピッピッピッ”と鳴る	電子カードキーの電池切れが近いときに、エンジンスイッチを“OFF”にした※	新しい電池に交換してください
車内から“ピーン ピーン ピーン･･･”と鳴り続ける	運転席ドアが開いているときに、エンジンスイッチを“ON”から“OFF”にした	運転席ドアを閉めてください

※ 電池切れが近い状態を継続すると、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたときも警告ブザーが鳴ります。

知識

■ **機能が正常に働かないおそれのある状況**

キーフリーシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子カードキーと車両間の通信をさまたげ、キーフリーシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→ P. 177）

- 電子カードキーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・コインパーキング・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 電子カードキーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
  - アルミ箔などの金属の貼られたカード
  - アルミ箔を使用したタバコの箱
  - 金属製の財布やかばん
  - 小銭
  - カイロ
  - CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子カードキーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
  - 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
  - 他の車の電子カードキーや電波式ワイヤレスリモコン
  - パソコンや携帯情報端末（電子手帳）
  - デジタルオーディオプレーヤー
  - ポータブルゲーム機器
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- 充電器など電子機器の近くに電子カードキーを置いた場合

■ **ご留意いただきたいこと**

- 電子カードキーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
  - ドアの施錠・解錠時に電子カードキーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
  - エンジン始動時またはモード切りかえ時に電子カードキーがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケットまたはグローブボックス内などに置かれていた場合
- 電子カードキーをポケットに携帯していても、ポケットの位置や形状によっては、正しく作動しないことがあります。（作動範囲：→ P. 58）
- インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子カードキーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外発信機に検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子カードキーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。
- 電子カードキーが作動範囲内にあれば、電子カードキーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子カードキーを検知しているドア以外では、解錠できません。
  場合によっては、解錠操作を行ったドアと反対側のドア付近に電子カードキーがある場合でも、電子カードキーを検知し、解錠されることがあります。
- 車外でもドアガラスに近い位置に電子カードキーがあるときは、エンジンの始動が可能になる場合があります。
- 電子カードキーが作動範囲内にある場合、洗浄などで水圧にてドアハンドルにあるスイッチが押され、ドアが施錠・解錠することがあります。（解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます）
- 車室内または車両に近い位置に電子カードキーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、キーフリーシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレスリモコンで解錠すると復帰します）
- ドアハンドルにあるスイッチは確実に押して、施錠・解錠したことを確認してください。スイッチを早押しした場合、施錠・解錠されないことがあります。
- ドアハンドルにあるスイッチは強い力で押したり、鋭利なもので押さないでください。スイッチが破損するおそれがあります。

知識

■ 施錠時の留意事項

- 電子カードキーを携帯して洗車などで高圧な水をドアハンドルにあるスイッチにかけた場合、施錠・解錠作動を繰り返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。（キーの盗難に注意してください）
- 車内に電子カードキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして高圧な水をドアハンドルにあるスイッチにかけた場合、車内のブザーが鳴ることがあります。
- ドアハンドルにあるスイッチに氷や雪、泥が付着した場合、スイッチが押せない場合があります。押せない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。
- ドアハンドルにあるスイッチを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないように注意してください。

■ 解錠時の留意事項

- ドアハンドルにあるスイッチを押しながらドアハンドルを引いたときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどしてから再度（バックドアを除く）スイッチを押し、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 電子カードキーを携帯して洗車などで高圧な水をドアハンドルにあるスイッチにかけた場合、施錠・解錠作動を繰り返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。（キーの盗難に注意してください）
- 作動範囲内に他の電子カードキーがあるときは、ドアハンドルにあるスイッチを押してから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。
- ドアハンドルにあるスイッチを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないように注意してください。

■ 長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子カードキーを車両から 2m 以上離しておいてください。
- あらかじめキーフリーシステムを非作動にすることができます。
  詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

■ システムを正しく作動させるために

電子カードキーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子カードキーを車両に近付けすぎないようにしてください。作動時の電子カードキーの位置や持ち方によっては、電子カードキーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。：→ P. 63）

■ キーフリーシステムが正常に作動しないとき

- ドアの施錠・解錠：→ P. 177
- エンジンの始動：→ P. 177

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- ワイヤレスリモコンを使用しなくても電池は消耗します。また、電子カードキーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
  - キーフリーシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
  - 作動範囲が狭くなった
  - 電子カードキーの LED が点灯しない
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告ブザーが鳴ります。（→ P. 164）
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子カードキーを保管しないでください。
  - TV
  - オーディオ
  - パソコン
  - AC アダプター
  - 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
  - 電気スタンド

知識

- 低周波治療器などの医療用電気機器
- 液晶表示器
- モーター類
- 電磁調理器

■ **販売店で設定可能な機能**

キーフリーシステムを非作動にすることができます。

（カスタマイズ一覧：→ P. 187）

■ **販売店でキーフリーシステムを非作動にしたとき**

● ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはエマージェンシーキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 62, 177）

● エンジンの始動・エンジンスイッチモードの切りかえ：→ P. 177

● エンジンの停止：→ P. 76

警告

■ **電波がおよぼす影響について**

● 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されているかたは、アンテナ（→ P. 58）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

● 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

キーフリーシステムを非作動にすることもできます。

詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

ワイヤレスリモコン

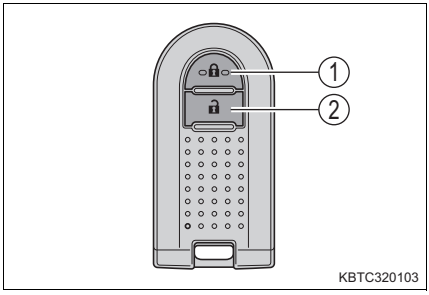
機能概要

▶キーフリーシステム装着車

① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する



知識

■ **解錠操作のセキュリティ機能**

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

● 施錠後、30 秒以上経過すると、セキュリティアラームが設定されます。（→ P. 35）

知識

■ キー閉じ込み防止機能

● キーを車内に残したまま、施錠することを防ぐ機能です。次の状態で作動します。

▶ キーフリーシステム装着車

・ エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき
・ 車内に電子カードキーがあるとき

ドア（フロントドア、リヤドア）

知識

■ セキュリティアラームがセットされている場合

キーフリーシステム★やワイヤレスリモコンを使わずに解錠しドアを開けるとセキュリティアラームが作動します。作動した場合は、ただちにセキュリティアラームを停止してください。（→ P. 35）

警告

■ 事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● シートベルトを必ず使用する
● すべてのドアを確実に閉め、施錠する
● 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
● お子さまを後席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときの留意事項

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

バックドア

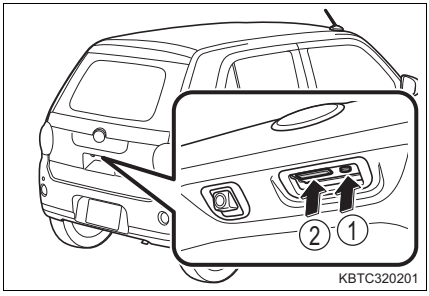
車外からの施錠／解錠

■ キーフリーシステム★

電子カードキーを携帯して操作します。

① 全ドアを施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する
バックドアが半ドア状態になります。



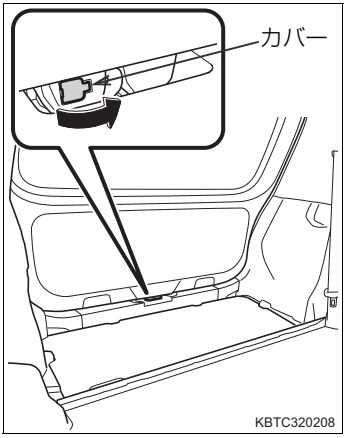
知識

■ **バックドアが開かなくなったら**

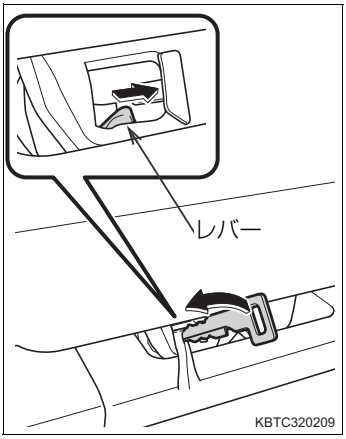
バックドアを内側から開けることができます。

1 リヤシートの背もたれを前に倒す

2 カバーを開ける



3 キー、またはエマージェンシーキーなどを使ってレバーを矢印の方向に動かす
傷が付くのを防ぐため、キーなどの先端に布などを巻いて保護してください。



警告

■ **走行中の警告**

- 走行中はバックドアを閉めてください。
  開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■ お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

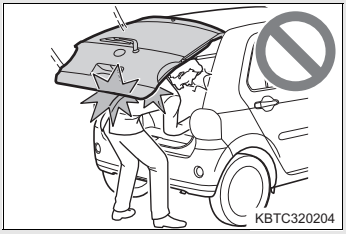
- ラゲージルームの中でお子さまを遊ばせないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
  不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ バックドアの使用にあたって

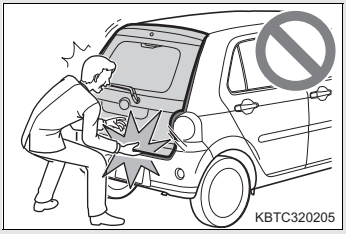
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- バックドアを開ける前に、バックドアに張り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。


KBTC320204

- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアインナーハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。


KBTC320205

- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
  手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、ダイハツ純正品を使用することをおすすめします。

3-2. シートの調整

フロントシート

⚠ 警告

■ シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■ リクライニング調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

リヤシート

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 背もたれを前に倒すときは

- 走行中にリヤシートを操作しない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする
- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する
- 倒した背もたれやラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

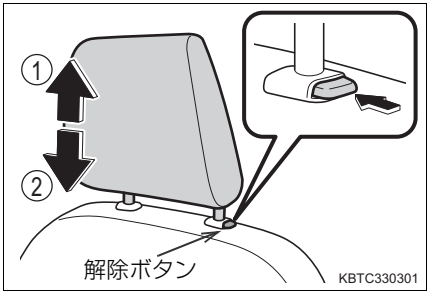
■ 背もたれをもとにもどしたあとは

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する
- シートのあいだにシートベルトが挟み込まれていないか確認する

ヘッドレスト

フロントシート★

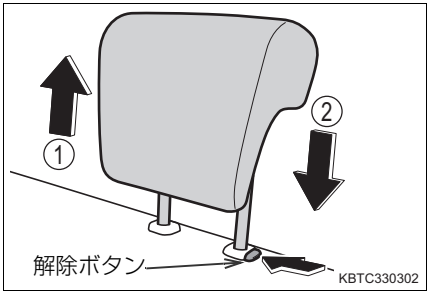
① 上げる
② 下げる
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤシート

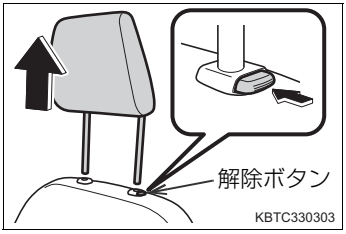
① 上げる
② 下げる
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



知識

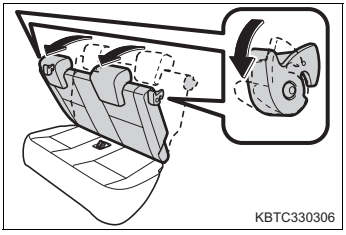
■ **フロントシートヘッドレストを取りはずすとき**

解除ボタンを押しながら取りはずします。

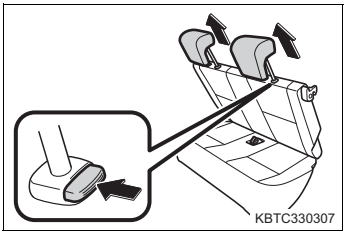


■ **リヤシートヘッドレストを取りはずすとき**

1 シートバックフックを引いて、背もたれを前に倒すヘッドレストをはずすことができる位置まで前に倒してください。



2 解除ボタンを押しながら、ヘッドレストをはずす

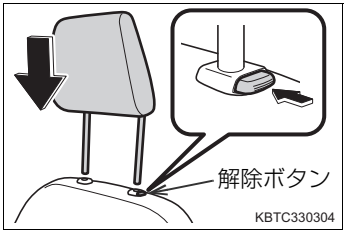


■ **ヘッドレストを取り付けるとき**

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。※

さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。

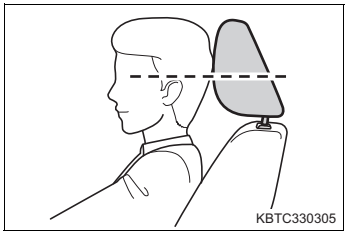
※ 押し下げにくいときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



知識

■ フロントシートヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■ リヤシートヘッドレストの使用について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

警告

■ ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

3-3. ハンドル位置・ミラー

ハンドル

警告

■ 走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

インナーミラー

警告

■ 走行中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

⚠ 警告

■ **走行中の留意事項**

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ **ミラーが動いているとき（電動タイプ）**

手をふれないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ **ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）**

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

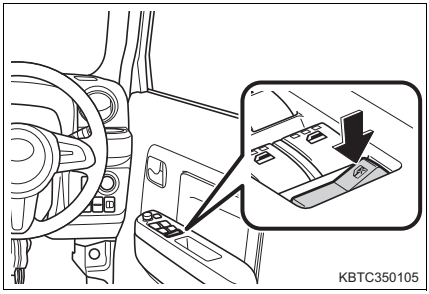
3-4. ドアガラスの開閉

パワーウインドウ

ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■ **挟み込み防止機能（運転席のみ）**

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

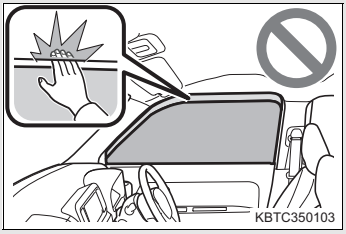
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
  また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。
- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- 車から離れるときはエンジンスイッチを“OFF”にし、キーを携帯してお子さまも一緒に連れて行ってください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能（運転席のみ）

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

運転 4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって …… 72

荷物を積むときの注意 …… 74

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ（キーフリーシステム非装着車）…… 75

エンジン（イグニッション）スイッチ（キーフリーシステム装着車）…… 75

CVT 車の運転 …… 77

方向指示レバー …… 78

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ …… 79

オートハイビーム …… 81

ワイパー＆ウォッシャー（フロント） …… 84

ワイパー＆ウォッシャー（リヤ） …… 85

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 …… 85

4-5. 運転支援装置について

スマートアシストⅢ …… 86

衝突警報機能（対車両・対歩行者）、衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）…… 93

誤発進抑制制御機能（前方・後方） …… 99

車線逸脱警報機能 …… 104

先行車発進お知らせ機能 … 106

アイドリングストップシステム（eco IDLE）… 107

コーナーセンサー …… 113

バックカメラ …… 117

パノラマモニター …… 118

運転を補助する装置 …… 121

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転 …… 124

運転にあたって

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するとき

- 踏み間違いをさけるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。
  - アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
  - 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
  - ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。

  排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

  なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 152 を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→ P. 77）
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。

  運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- オフロード走行をしないでください。

  やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

  また、フルタイム 4WD 車はオンロード専用です。オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした 4WD ですので、無理な運転はしないでください。
- 河を渡るなどの水中走行はしないでください。

  電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。

  急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出して乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 大きな段差がある場所や、輪止めなどがある場所では慎重に走行してください。バンパーを損傷するおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

⚠ 警告

■ シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーを N にすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
  シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くダイハツサービス工場で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。

必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。
  シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
  排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
  放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
  - プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
  - 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターを収納装備などに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

■ 駐車するとき

- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
  吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
  直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、エンジンを停止し、施錠してください。
  エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
  パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
  やけどをするおそれがあります。

■ **仮眠するとき**

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **ブレーキをかけるとき**

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
  ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブをさけてください。
  この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。
  ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ **万一脱輪したときは（4WD 車）**

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動系部品に無理な力が加わり焼き付きなどの損傷を受けたり、焼き付きにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

脱出できないときは、ダイハツサービス工場または専門業者へご連絡ください。

荷物を積むときの注意

⚠ 警告

■ **積んではいけないもの**

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ **荷物を積むとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
  - 運転席足元
  - 助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
  - インストルメントパネル
  - ダッシュボード
  - フタのない小物入れ／トレイ
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかり安定させてください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
  急ブレーキや事故の際に、投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。
- リヤシートの背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけフロントシートの背もたれの真うしろには積まないでください。

警告

- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
  お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **荷物の重量・荷重のかけ方について**

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ（キーフリーシステム非装着車）

警告

■ **エンジンを始動するとき**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **走行中の警告**

走行中はエンジンスイッチを“OFF”にしないでください。
走行中にエンジンを停止すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながります。

■ **緊急時のエンジン停止方法**

走行中にエンジンを緊急停止したいときは、エンジンスイッチを“ACC”にしてエンジンを停止してください。（→ P. 152）緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。
走行中にエンジンを停止するとハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

エンジン（イグニッション）スイッチ（キーフリーシステム装着車）

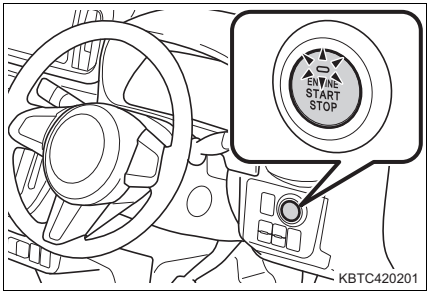
エンジンのかけ方

1 正しい運転姿勢（→ P. 15）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する

2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

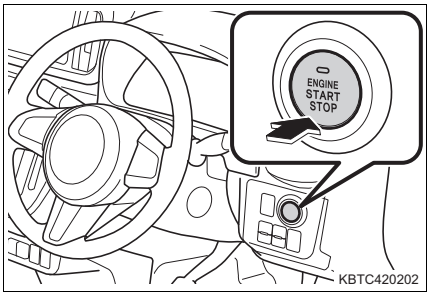
3 シフトレバーが P にあることを確認する

4 ブレーキペダルをしっかり踏む
エンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯します。
緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。



5 エンジンスイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。
エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。
完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
エンジンスイッチのどのモード（→ P. 76）からでもエンジンを始動できます。



エンジンの停止のしかた

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかけて、シフトレバーを P にする

3 エンジンスイッチを押す

4 ブレーキペダルから足を離して、エンジンスイッチの表示灯が消灯していることを確認する

エンジンスイッチモードの切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

“OFF”※

非常点滅灯が使用できます。

“ACC”

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

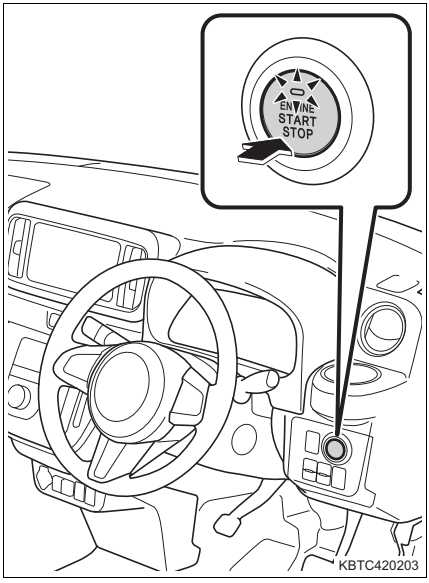
エンジンスイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

“ON”

すべての電装品が使用できます。

エンジンスイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

※ シフトレバーがP以外のときは“ACC”になり、“OFF”になりません。



シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチモードは “OFF” になりません。次の手順で OFF にしてください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーを P にする

3 エンジンスイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅していることを確認し、エンジンスイッチを 2 回押す

4 エンジンスイッチの表示灯が消灯していることを確認する

知識

■ ハンドルロックについて

エンジンスイッチを "OFF" にしたあとにバックドアを除くいずれかのドアを開閉すると、ハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ハンドルロックは自動で解除されます。

警告

■ エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ハンドルロックが作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

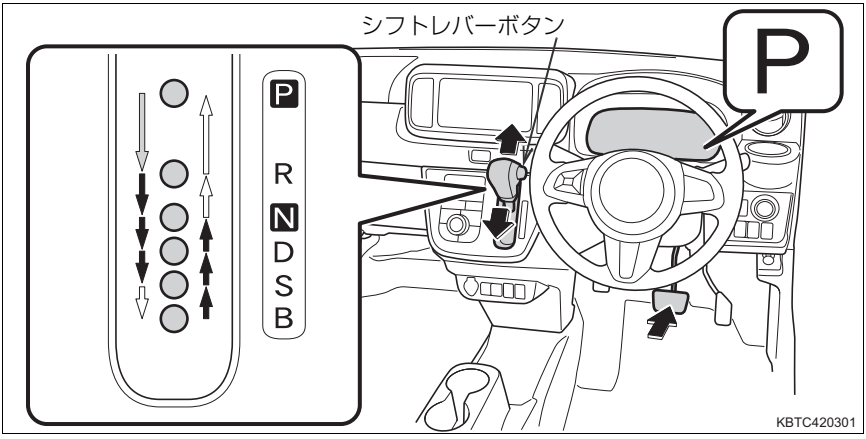
■ 緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 3 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→ P. 152)

ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

CVT 車の運転

シフトレバーの動かし方



：エンジンスイッチが "ON" の状態で、ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーボタンを押して操作します。

：シフトレバーボタンを押して操作します。

：シフトレバーボタンを押さずに操作します。

警告

■ すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作やシフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

警告

■ **シフトロック解除時の事故を防ぐために**

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作したあと、すぐにもとの位置にもどります。

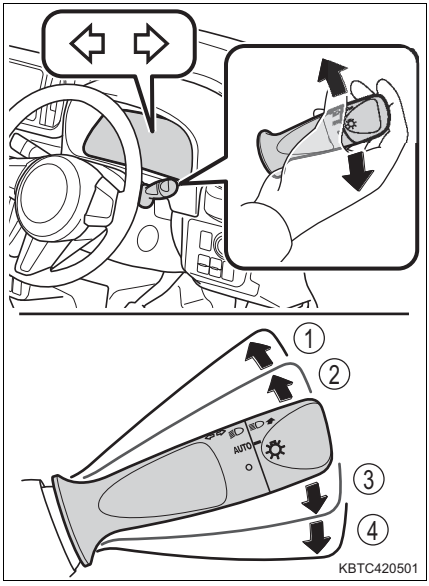
① 左折

② 左側へ車線変更（レバーを途中で保持 ※）
レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

③ 右側へ車線変更（レバーを途中で保持 ※）
レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

④ 右折

※ ② または ③ の位置にレバー操作し、すぐに離したときは方向指示灯が 3 回点滅します。



■ **右左折後に方向指示灯の点滅が停止しない場合や、点滅を中止させたいとき**

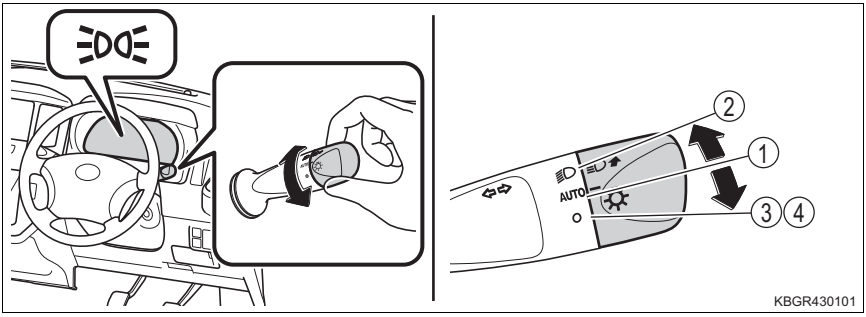
レバーを逆方向の ② または ③ の位置に操作してください。レバーを ① または ④ の位置まで操作すると、選択した方向指示灯が点滅します。

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ

操作のしかた

エンジンスイッチが“ON”のとき、次のように スイッチを操作すると、次の表の通りランプ類が点灯・消灯します。



スイッチ位置		点灯・消灯するランプ	
		ヘッドランプ	車幅灯 番号灯 尾灯
①	AUTO	自動点灯・消灯	
②		点灯 ※1	
③※2、3	○	消灯	点灯
④※2、4		消灯	

※1 エンジンスイッチが“ACC”または“OFF”のときも点灯します。

※2 スイッチを ○ の位置に操作して手を離すと、**AUTO** の位置に戻ります。

※3 車速が約 3km/h 以下で自動点灯しているとき

※4 車速が約 3km/h 以下で スイッチを約 1 秒以上操作したとき

■ **ランプ類の再点灯について**

スイッチを ○ の位置に操作してランプ類を消灯したあと、次のいずれかの場合、ランプ類が再点灯します。

●車速が約 3km/h を超えたとき

● 再度 スイッチを ○ の位置に操作したとき

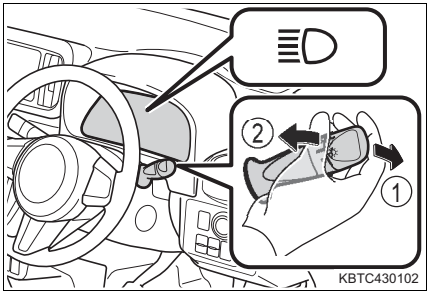
●エンジンスイッチを再度“ON”にしたとき

●車速が約 3km/h 以下（停車時を除く）の状態のまま約 30 秒経過したとき

ハイビームにする

① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

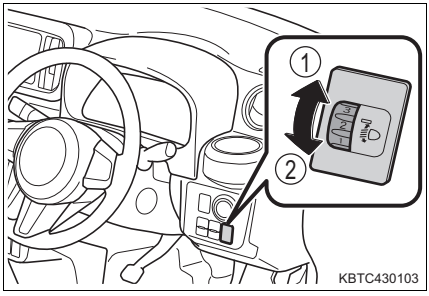
② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



手動光軸調整ダイヤル

乗車人数や荷物の量などによる姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

① 上向きに調整
② 下向きに調整



■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
全乗員	なし	1.5
全乗員	ラゲージルーム満載時	2
運転者	ラゲージルーム満載時	3

オートハイビーム

オートハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラにより対向車または先行車のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

⚠ 警告

■ **安全にお使いいただくために**

オートハイビームを過信しないでください。オートハイビームは運転者の視界確保を補助、支援することを目的としていますが、状況によってはハイビームとロービームが切りかわらない場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

⚠ 注意

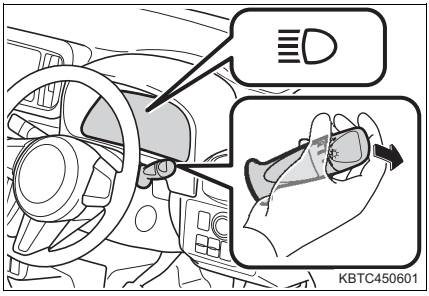
■ **オートハイビームを正しく作動させるために**

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 車両を改造しないでください。

オートハイビームの使い方

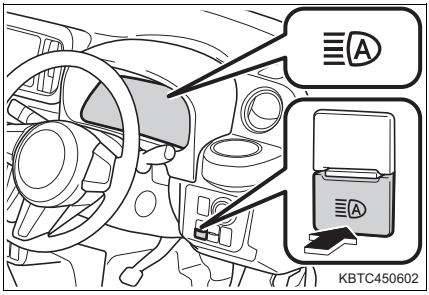
1 エンジンスイッチが“ON”で、ランプスイッチが **AUTO** または の位置のときレバーを前方へ押す

ハイビーム表示灯が点灯します。



2 オートハイビームスイッチを押す

オートハイビームが作動すると、オートハイビーム作動灯が点灯します。



ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯します。

●車速が約 25km/h 以上

●車両前方が暗い

●対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない

●前方の街路灯が暗い

次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

●車速が約 20km/h 以下

●車両前方が明るい

●対向車または先行車がランプを点灯している

●前方の街路灯が明るい

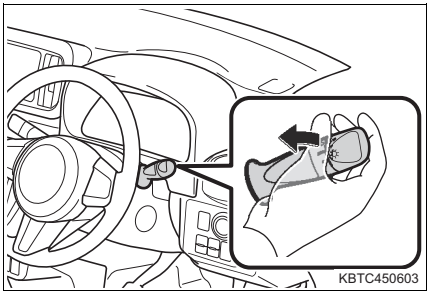
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートハイビーム作動灯が消灯します。

オートハイビームにもどすには、再度レバーを前方に押します。

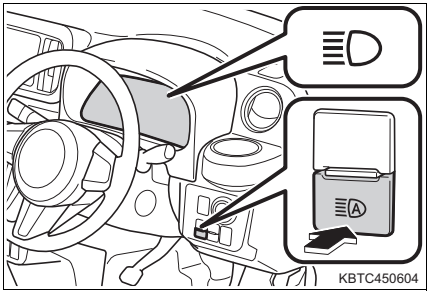


■ ハイビームへの切りかえ

オートハイビームスイッチを押す

オートハイビーム作動灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが "ON" のとき

■ オートハイビームについて

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

- 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
- 他車が前方を横切ったとき
- 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

知識

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

- 対向車または先行車のランプの明るさ
- 対向車または先行車の動きや向き
- 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
- 対向車または先行車が二輪車のとき
- 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
- 乗車人数や荷物の量

●オートハイビームは車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識します。従って、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雨粒、シールなどでステレオカメラ前方が覆われているとき
- ステレオカメラの温度が高いとき
- 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
- 対向車や先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変形があったり光軸がずれているとき
- 急激な明るさの変化が連続するとき
- 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
- パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- 著しくぬれた路面か圧雪路など、光を強く反射する路面のとき

■**オートハイビーム警告灯★が点灯、または TFT マルチインフォメーションディスプレイ★に「オートハイビーム故障」の警告メッセージが表示されたとき**

システムに異常があるおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

車速感応式間欠ワイパー装着車は を選択しているとき、車速に応じて間欠作動の時間がかわります。

① ○ ：停止

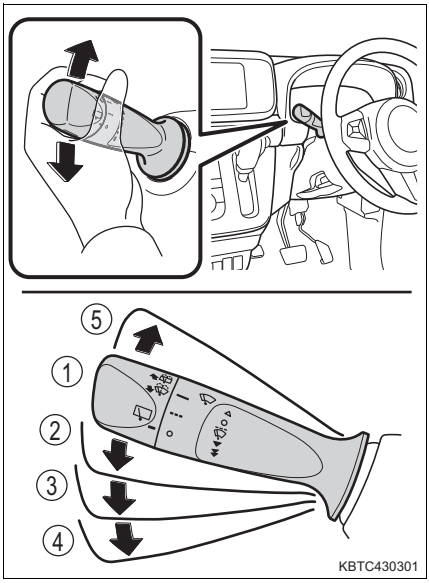
② ：間欠作動

車速感応式間欠ワイパー装着車は、車速が高くなると、作動頻度が増えます。

③ ▼ ：低速作動

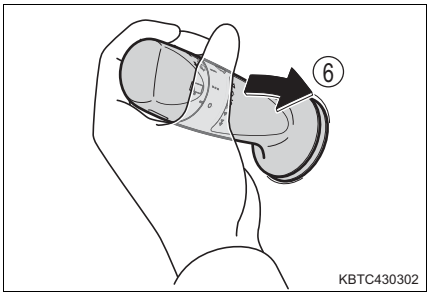
④ ▼▼ ：高速作動

⑤ △ ：一時作動



⑥ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。



⚠ 警告

■ **ウォッシャー使用時の警告**

寒冷時はフロントウインドウガラスが温まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）★

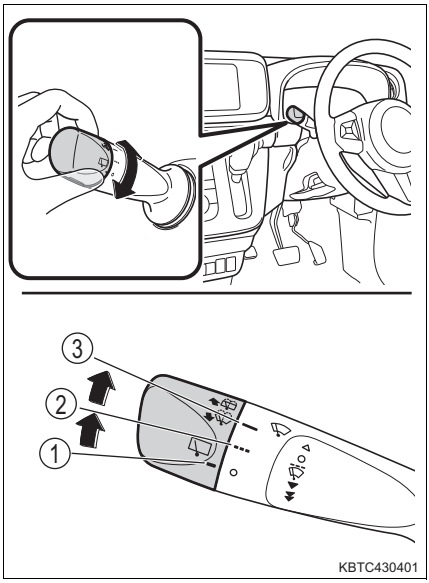
操作のしかた

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

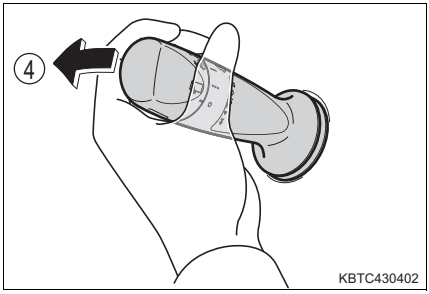
① ○ ：停止

② ━━━：約４秒間低速作動したあと、間欠作動

③ ━━：通常作動



④ ウォッシャー液を出す



4-4. 給油のしかた

給油口の開け方

給油する前に

⚠ 警告

■ **給油するときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

⚠ 警告

- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
  すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 携帯電話などを使用しないでください。
- ふきこぼれを防ぐため次の点に注意してください。
  - 給油口にノズルを確実に挿入する
  - 継ぎ足し給油をしない
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

給油口を閉める

⚠ 警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずダイハツサービス工場へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

4-5. 運転支援装置について

スマートアシストⅢ

スマートアシストⅢは、次の機能によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

◆ 衝突警報機能（対車両・対歩行者）

→ P. 93

◆ 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

→ P. 93

◆ 誤発進抑制制御機能（前方・後方）

→ P. 99

◆ 車線逸脱警報機能

→ P. 104

◆ 先行車発進お知らせ機能

→ P. 106

◆ オートハイビーム

→ P. 81

⚠ 警告

■スマートアシストⅢについて

- スマートアシストⅢは運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。スマートアシストⅢは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

警告

●次の状況ではシステムは正しく作動しません。スマートアシストⅢの機能を停止してください。（→ P. 88）

- タイヤの空気圧が適正でないとき
- スペアタイヤやタイヤチェーンを装着しているとき
- 摩耗したタイヤ、摩耗差の激しいタイヤを装着しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤパンク応急修理セットを使用したとき
- サスペンションを改造したとき
- ステレオカメラの視界をさまたげるようなものを車両に取り付けたとき
- ヘッドランプの汚れなどで、対象物を正しく照射できず、認識しづらいとき
- ヘッドランプの光軸がずれているとき
- ヘッドランプなどのランプ類を改造したとき
- 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
- 車両を改造・架装したとき
- けん引されるとき
- キャリアカーに積載するとき
- シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
- リフトアップし、エンジンをかけタイヤを空転させたいとき
- 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、ビニールカーテン、草むらや茂みなどに触れながら通過するとき
- サーキットなどでスポーツ走行するとき
- 脱輪したときやぬかるみから脱出するとき
- 冠水した道を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- ブレーキ警告灯が点灯しているとき

車両データの記録について

スマートアシストⅢには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

●アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況

●ハンドルおよびシフトレバーの操作状況

●車速などの車両情報

●スマートアシストⅢの各機能の作動状況

●先行車や障害物との距離、相対速度などの情報

●ステレオカメラの画像情報（2 次ブレーキ作動時のみ）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

■ データの取り扱いについて

ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は、コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は、取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

●お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合

●警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合

●ダイハツが訴訟で使用する場合

●統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

【ここでいうダイハツは、ダイハツ工業株式会社を意味しています。】

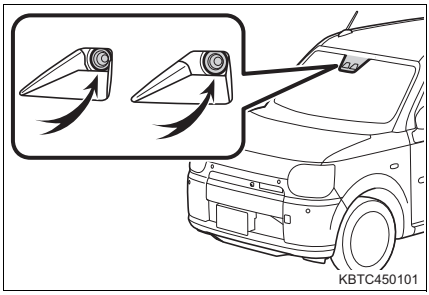
記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。詳しくは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

ステレオカメラ

ステレオカメラは、次の機能で必要な情報を認識します。

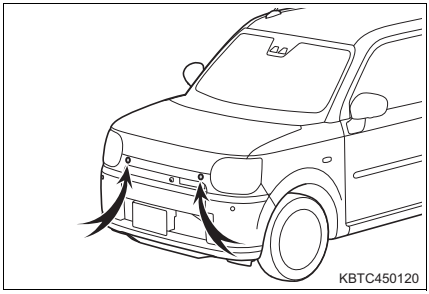
●衝突警報機能（対車両・対歩行者）
●衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
●誤発進抑制制御機能（前方）
●車線逸脱警報機能
●先行車発進お知らせ機能
●オートハイビーム



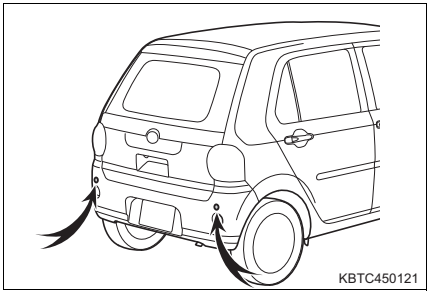
ソナー

ソナーは、誤発進抑制制御機能（前方・後方）で必要な情報を認識します。

▶フロントソナー



▶リヤソナー



スマートアシストⅢの機能を停止するには

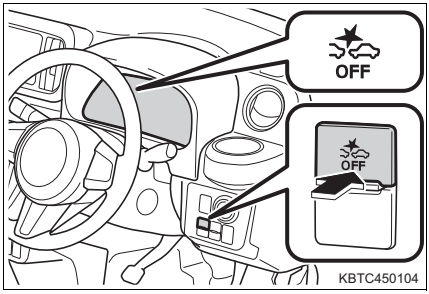
スマートアシスト OFF スイッチを押すことにより、スマートアシストⅢの機能を停止することができます。

■ 衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能・誤発進抑制制御機能（前方・後方）・先行車発進お知らせ機能を停止するとき

スマートアシストOFFスイッチを２秒以上押し続ける

“ピピッ” とブザーが鳴り、スマートアシスト OFF 表示灯が点灯します。

もう一度 2 秒以上押し続けると、“ピピッ” とブザーが鳴りスマートアシスト OFF 表示灯が消灯し、作動可能状態にもどります。

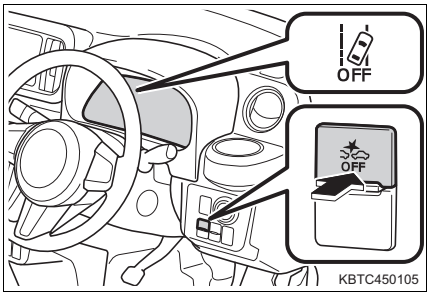


■ **車線逸脱警報機能を停止するとき**

スマートアシスト OFF スイッチを押す

“ピピッ” とブザーが鳴り、車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。

もう一度押すと、“ピピッ” とブザーが鳴り車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯し、作動可能状態にもどります。



知識

■ **スマートアシストⅢの自動復帰について**

次の機能は機能を停止した場合でも、エンジンスイッチを “ON” にすると自動的に作動可能状態にもどります。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 誤発進抑制制御機能（前方・後方）
- 先行車発進お知らせ機能

■ **車線逸脱警報機能について**

車線逸脱警報機能の作動可能状態または停止状態は、エンジンを再始動しても維持されます。

■ **スマートアシストⅢの作動状態について**

ブザーとメーター、ディスプレイの表示でスマートアシストⅢの作動状態をお知らせします。

ブザー	メーター	ディスプレイ	作動状態
“ピピピピピピッ”	–	※1 （点滅） ※2 スマートアシスト作動 前方注意！！	衝突警報機能が作動
“ピピピピピ” と鳴り続ける		※1 （点滅） ※2 スマートアシスト作動 前方注意！！	衝突回避支援ブレーキ機能の 1 次ブレーキ、または 2 次ブレーキが作動

ブザー	メーター	ディスプレイ	作動状態
“ピピピッ”と鳴り続ける	–	※1 （点滅） ※2 スマートアシスト作動 前方注意！！	衝突回避支援ブレーキ機能の 2 次ブレーキが作動したあと、車両が停止 運転者の操作でブザーとディスプレイの表示が終了します。
“ピピピピピピッ”	–	※1 （点滅） ※2 スマートアシスト作動 前方注意！！	誤発進抑制制御機能（前方）の警報が作動
“ピピピピピ”と鳴り続ける	⚠	※1 （点滅） ※2 スマートアシスト作動 前方注意！！	誤発進抑制制御機能（前方）の警報が作動するとともにエンジン出力を抑制
“ピピピピピッ”	–	※1 （点滅） ※2 スマートアシスト作動 後方注意！！	誤発進抑制制御機能（後方）の警報が作動
“ピピピピピ”と鳴り続ける	⚠	※1 （点滅） ※2 スマートアシスト作動 後方注意！！	誤発進抑制制御機能（後方）の警報が作動するとともにエンジン出力を抑制

知識

ブザー	メーター	ディスプレイ	作動状態
“ピピピピッピピピピッ”	※1 （点滅）	※2 スマートアシスト作動 車線逸脱警報が作動しました	車線逸脱警報機能が作動
“ピピピッ”	–	※1 （点滅） ※2 スマートアシスト作動 先行車が発進しました	先行車発進お知らせ機能が作動
–		–	オートハイビームが作動

※1 マルチインフォメーションディスプレイ装着車
※2 TFT マルチインフォメーションディスプレイ装着車

■ **スマートアシストⅢが作動しない場合**

次のいずれかの場合、スマートアシストⅢの機能は作動しません。

- ●エンジン始動直後
- ●スマートアシスト OFF スイッチでシステムを停止しているとき
- ●スマートアシスト OFF 表示灯が点灯しているとき
- ●「スマアシ故障」が表示されているとき（システム異常）
- ●「スマアシ停止」が表示されているとき ※（機能停止）

※ 機能停止コード「11E」のみが表示されているときは、「スマアシ停止」が表示されていても、ソナーの認識による誤発進抑制制御機能（前方）は作動します。

⚠ 警告

■ **ステレオカメラについて**

- ●ステレオカメラは人の目と似た特性を持っています。そのため、運転者にとって前方が見えにくい状況では、ステレオカメラも同様に前方車両や歩行者、障害物、車線を認識しづらくなります。
- ●ステレオカメラによる前方車両や歩行者、障害物、車線の認識は視野範囲内に限られています。また、視野範囲に対象物が入ってから制御・警報の対象となるまでは数秒間かかります。

■ **ステレオカメラの故障や誤作動を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ステレオカメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ステレオカメラ前面のフロントウインドウガラスは常にきれいにしてください。
  - ・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
  - ・フロントウインドウガラスにダイハツが指定したガラスコーティング剤以外は使用しないでください。フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、ステレオカメラ前面に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
  - ・フロントウインドウガラス内側のステレオカメラ取り付け部が汚れた場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

警告

- フロントウインドウガラスのステレオカメラ前面に、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしないでください。やむを得ず取り付けなければならない（車検ステッカーなど）ときは、ステレオカメラの前面に重ならないようにしてください。
- フロントウインドウガラスが曇った場合は曇りを取ってください。（→ P. 126, 127）
- フロントウインドウガラスのステレオカメラ前部の水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換してください。
  - ワイパーブレードの交換が必要な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らないでください。
- 事故などでステレオカメラ周辺が変形した場合はダイハツサービス工場にご相談ください。
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換してください。特にステレオカメラ前面のフロントガラスに傷、ひびなどの損傷や部分修正があると、システムが正しく作動しなくなることがあります。
  フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- ダイハツ純正品以外のフロントウインドウガラスに交換しないで下さい。
- ステレオカメラに液体をかけないでください。
- ステレオカメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしないでください。レンズに汚れ、傷がある場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- ステレオカメラに強い衝撃を加えないでください。
- ステレオカメラ取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしないでください。
- ステレオカメラを分解しないでください。
- ステレオカメラ付近に電子機器やアンテナなど、強い電波を発信する機器を取り付けないでください。
- インナーミラーなどのステレオカメラ周辺部品や天井を改造しないでください。
- インストルメントパネル上部に物を置かないでください。フロントウインドウガラスに反射してシステムが正しく作動しなくなる場合があります。
- インストルメントパネル上面をケミカル剤などで光沢を持たせた場合、フロントウインドウガラスへの映りこみにより、ステレオカメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーなどに、ステレオカメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けないでください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積むときは、ステレオカメラの視界をさえぎらないようにしてください。
- ダイハツ純正品以外のインナーミラー（ワイドタイプミラーなど）、サンバイザーを装着しないでください。

■ ソナーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ソナーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ソナーは常にきれいにしてください。
  - 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着した場合は、取り除いてください。
  - お手入れする際は、ソナーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- ソナーにウォッシャー液やオイルが付着した場合は、すみやかにふき取ってください。
- ソナーにワックスや撥水剤などを塗らないでください。
- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、ソナー部に直接水をあてないでください。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付けすぎないようにしてください。
- ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えないでください。強い衝撃を受けたときは、必ずダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- ソナーを取りはずしたり、分解したりしないでください。
- ソナーの取り付け位置を変更したり、周辺構造物を改造したりしないでください。また、ソナーを塗装したりしないでください。
- ソナー、およびその周辺部分にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしないでください。
- バンパー部分に腰掛けたり、寄りかかったりしないでください。

⚠ 警告

●バンパーを交換・修理する場合や、事故などでソナー周辺が変形した場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

■ **汚れ検知機能について**

●ステレオカメラとソナーは汚れ検知機能を備えていますが、万全ではありません。
汚れを検知した場合は、スマートアシストⅢの機能が自動的に停止します。

⚠ 注意

■ **スマートアシストⅢの機能停止について**

次のようなときは、状況によってはスマートアシストⅢの認識性能が下がる場合や一時停止状態になる場合があります。（→ P. 165）

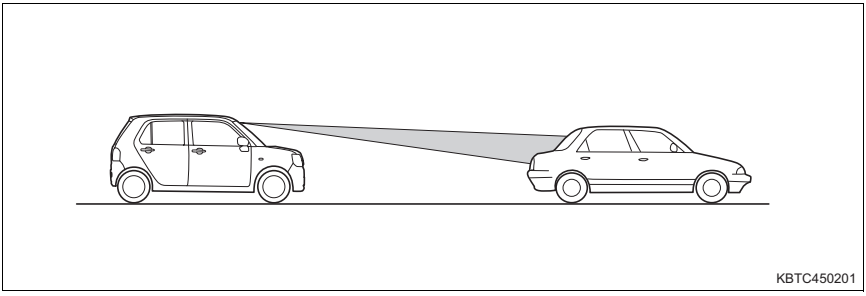
状況が改善されれば再び機能は作動します。

●悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
●お車を炎天下で放置したあとなど、ステレオカメラの温度が極端に高くなった場合
●エンジン始動直後
●前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
●街灯などがなく、真っ暗で周囲に建物や車両などが無い場合
●ステレオカメラ、ソナー部に雪や汚れ、霜などが付着して覆っているとき
●重い荷物を積んでいるとき
●水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
●排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき

機能によって認識性能の低下する条件が異なります。詳しくは各機能の説明をお読みください。

衝突警報機能（対車両・対歩行者）、衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラで前方車両、歩行者を認識して、衝突の危険性が高い場合に作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行い、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。



◆ 衝突警報機能（対車両・対歩行者）

次の場合にブザーとディスプレイの表示（→ P. 89）で注意をうながします。

●車速約 4 ～ 100km/h で走行中、前方車両に対し自車との速度差が約 4 ～ 100km/h で衝突のおそれがあるとき
状況によっては、二輪車、壁、ガードレールなどの障害物に対しても衝突警報は作動します。

●車速約 4 ～ 50km/h で走行中、前方の歩行者に対し自車との速度差が約 4 ～ 50km/h で衝突のおそれがあるとき

◆ 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

次の場合にブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示（→ P. 89）で注意をうながし、衝突の直前で緊急ブレーキが作動して、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

●車速約 4 ～ 80km/h で走行中、前方車両に対し自車との速度差が約 4 ～ 80km/h で衝突のおそれがあるとき

●車速約 4 ～ 50km/h で走行中、前方の歩行者に対し自車との速度差が約 4 ～ 50km/h で衝突のおそれがあるとき

◆ 被害軽減ブレーキアシスト

緊急ブレーキ作動中、次の場合にブレーキペダルを踏み込むと、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

●車速約 30 ～ 80km/h で走行中、前方車両に対し自車との速度差が約 30 ～ 80km/h で衝突のおそれがあるとき

●車速約 30 ～ 50km/h で走行中、前方の歩行者に対し自車との速度差が約 30 ～ 50km/h で衝突のおそれがあるとき

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
衝突回避支援ブレーキ機能を日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。衝突回避支援ブレーキ機能はあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。機能に頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●衝突回避支援ブレーキ機能は、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。衝突がさけられないと判断した段階で緊急ブレーキが作動し、衝突直前で強いブレーキをかけるように設定していますが、常に同じ性能を発揮できるものではありません。その効果はさまざまな条件によりかわるため、システムを過信せず安全運転に努めてください。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
- 衝突の可能性がなくても機能が作動するおそれがあるとき：→ P. 98
- 機能が正常に作動しないおそれがあるとき：→ P. 97, 98

●安全のため、お客様ご自身で衝突回避支援ブレーキ機能の作動テストを行わないでください。止まりきれないことや作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能について

●衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラが認識した前方車両や歩行者に作動します。二輪車や電柱、壁などに対しても作動することがありますが、これらへの衝突を回避することを目的とはしていません。

●緊急ブレーキが作動したとき、アクセル操作をしても、緊急ブレーキを継続します。ただし、アクセルを全開に踏み込むと衝突回避支援ブレーキを解除します。

●運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、衝突警報や衝突回避支援ブレーキが作動しない場合があります。

●衝突回避支援ブレーキ機能は、作動車速内であっても、前方車両との速度差が約 30km/h を超える場合、スマートアシストⅢの性能限界から衝突を回避することはできません。また、前方車両との速度差が約 80km/h（対歩行者の場合は速度差が約 50km/h）を超える場合は、衝突回避支援ブレーキ機能は作動しません。

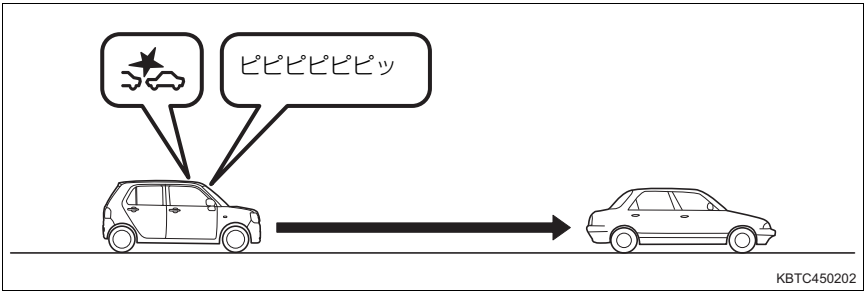
●シートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトを正しく着用しないと、衝突回避支援ブレーキが作動したときに危険な場合があります。（→ P. 16）

衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能・被害軽減ブレーキアシストの作動

1～4の順にシステムが作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行います。

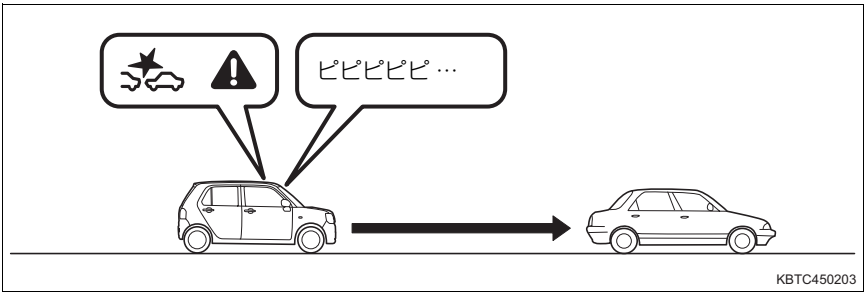
- システム作動中は、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示で運転者に注意をうながします。
- ブレーキ制御中は制動灯、ハイマウントストップランプが点灯します。
- ブレーキ制御中にブレーキペダルを踏み込むと、被害軽減ブレーキアシストが作動し、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

1 衝突警報



前方車両・歩行者に対し、衝突の危険性があると判断したときに、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 89）で運転者に注意喚起して衝突回避操作をうながします。

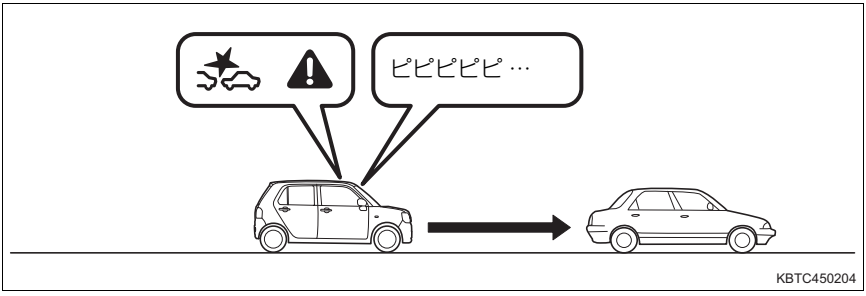
2 1 次ブレーキ



前方車両･歩行者を認識して、衝突の可能性が高いと判断したときに、ブザーを変化させブレーキ制御を行います。

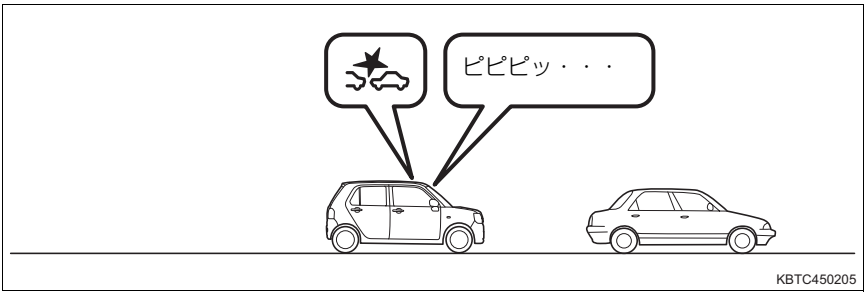
- 前方車両・歩行者と認識していない場合、またはブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離をとった場合は、ブレーキ制御を行いません。
- 運転者の衝突回避操作（ブレーキペダル・ハンドルなど）の操作量により、衝突する可能性が低くなったと判断した場合、作動を解除します。

3 2 次ブレーキ



前方車両・歩行者に対し、衝突の危険性が非常に高いと判断したときに、1 次ブレーキより強くブレーキ制御を行います。

4 停止保持



停止後にブザーが鳴り、ブレーキ制御を最長約 1.5 秒間継続したあと、ブレーキ制御を解除します。

停止保持後にブレーキ制御が解除されると、クリープ現象により車両がゆっくりと動き出します。停車状態を継続するには、ブレーキペダルをしっかり踏み続けてください。

知識

■ **衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能、被害軽減ブレーキアシストの作動条件**

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチが "ON"
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯
- 「スマアシ停止」が表示されていない
- 「スマアシ故障」が表示されていない
- シフトポジションが P・R 以外
- 次の表に示す機能のいずれかの作動車速および速度差で走行しているとき

機能	対象	作動車速、速度差 ※1
衝突警報機能	対車両	約 4 ～ 100km/h
	対歩行者	約 4 ～ 50km/h
衝突回避支援ブレーキ機能	対車両	約 4 ～ 80km/h
	対歩行者	約 4 ～ 50km/h
被害軽減ブレーキアシスト ※2	対車両	約 30 ～ 80km/h
	対歩行者	約 30 ～ 50km/h

※1 自車と前方車両、歩行者との速度差は作動車速の数値と同じです。

※2 緊急ブレーキ作動中にブレーキペダルを踏み込んだ場合

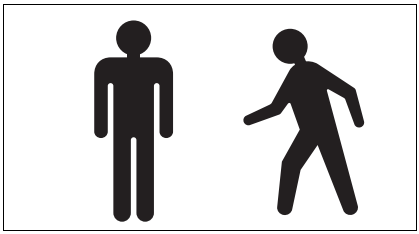
■ **衝突回避支援ブレーキについて**

- 状況によっては、1 次ブレーキや 2 次ブレーキから作動することがあります。
- 衝突回避支援ブレーキ中に音が聞こえることがありますが、制御によるものであり異常ではありません。
- 衝突回避支援ブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。

⚠ 注意

■ **ステレオカメラについて**

ステレオカメラは歩行者を認識します。歩行者認識は対象物の大きさや形状、動きから行っています。頭部、両肩の輪郭が明瞭であるときに認識します。



■ **衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動しないおそれのある状況**

次のような場合は、衝突警報機能が作動しなかったり、衝突回避支援ブレーキ機能が作動せず、止まりきれないことがあります。

- 前方車両や歩行者との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（自車の正面にいないなど）
- 車両の状態（積載量・乗員など）
- 路面の状態（勾配・滑りやすさ・形状・凹凸など）
- 前方の視界が悪いとき（豪雨、吹雪、濃霧、土ぼこりなど）
- 運転者の操作状態（アクセルペダル・ブレーキペダル・ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- エンジン始動直後
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
  - フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面が覆われているとき
  - ダイハツ指定以外のガラスコーティング剤を使用したとき
  - フロントウインドウガラスにフィルムを貼ったとき
  - フロントウインドウガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
  - フロントウインドウウォッシャーの使用中または使用後で、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
  - フロントウインドウガラスに傷、ひびなどが生じたとき
  - ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んだりして、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
  - ダイハツ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
  - 雨滴やウインドウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、対象物の認識が不完全になったとき
  - ステレオカメラの前を手でふさぐなどしたとき
  - ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれやゆがみが生じたとき
  - 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
  - 夜間または、トンネル内、屋内の駐車場など暗い場所で前方車両、歩行者に接近するとき
  - トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
  - ステレオカメラ前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車両のヘッドランプの光など）を受けているとき
  - 強い光が車両や歩行者、路面に反射しているとき
  - カーブ、うねった道路、坂道のとき
  - 路面に水たまりや水膜があるとき
  - 雪道や未舗装路など、凸凹やわだちのある道路のとき
  - 前方車両や歩行者との距離が極端に短いとき
  - 自車の前方に車両や歩行者が急に割り込んだり、飛び出したりしたとき
  - 急加速やハンドル操作をしながら、前方車両、歩行者に接近したとき
  - 前方車両の一部しかステレオカメラの認識範囲内に入っていないとき

⚠ 注意

- 小さい速度差で接近する場合（接近してから制御を行うため、対象物の形状・大きさによっては最後面がステレオカメラの視野範囲から外れる場合があります）
- 前方車両や対向車両による水しぶきや雪などの巻上げ、排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなどがあるとき
- 自車が車線変更を行い、前方車両のすぐうしろに接近したとき
- 前方車両が急ハンドル、急加速、急減速したとき
- 特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）のとき
- 前方車両の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
- 車両背面のガラスが大きく前が見えてしまうような前方車両に接近したとき
- 荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなどが前方車両のとき
- 後端から積荷が飛び出している車両などのとき
- 車両が斜め、または横向きに停まっているとき
- 対向車やバックしてくる車両などのとき
- 車高の低い車両などのとき
- 停車している車両の前に壁などがあるとき
- 重い荷物を積むなど、前方車両が傾いているとき
- 歩行者の一部（頭や手足など）が荷物や傘、帽子、車両、建物などに隠れているとき
- 歩行者が背景にまぎれて、ステレオカメラが歩行者を認識できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、横たわっているとき、手を振ったり走っているとき
- 身長の低い子供や高身長の歩行者のとき（接近してから制御を行うため、歩行者の体形によってはステレオカメラの視野範囲から外れてしまい、作動しなかったり、作動が解除されたりすることがあります）
- 歩行者が大きな荷物を背負っていたり、抱えたり、自転車やカートなどを押しているとき
- 歩行者が長いスカートや和服などを着用していて足元が見えないとき
- 集団で歩いているときなど、ステレオカメラが歩行者として認識できないとき
- ヘッドランプ照射範囲外に対象物がある場合
- 周囲一面が同じような色合いのとき（一面雪景色など）
- 対象物と背景のコントラストが少ないとき（森の中の黒車両、白壁前の白服歩行者など）

■ **衝突の可能性がなくても衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動する場合**

次のような場合は、衝突の可能性がなくても衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能が作動することがあります。

- 狭い橋、小トンネル、田舎道、ETC ゲート、狭いガードレール、雪だまりなど、両脇に壁や障害物がある細い道を走行するとき
- 前方車両に接近して走行するときや、前方の壁や前方車両の寸前まで接近して停止するとき
- 停止車両などの横を至近距離で通過するときや対向車が自車に向かって接近するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- 水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 前方車両および対向車両の排気ガスや水、雪などの巻上げ、排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなどで前方の視界が悪いとき
- ステレオカメラの光軸がずれているとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 路面上に大きなペイントなどがある場合
- カーブの入口や交差点にガードレールや看板、木立などの路側物があるとき
- カーブですれ違う対向車両があるとき
- 駐車場のバーや遮断機のバーが上がりきる前のとき
- 下り坂走行中、路面にキャッツアイやマンホール、路面電車のレールなどがあるとき
- バンプや段差を乗り降りしたときに、目の前に標識の影や、路面の継ぎ目などがあった場合
- 複数台の前方車両などが重なって見えるような場合
- 上り坂走行中、上方に看板や樹木の枝があるとき
- 縦縞フェンス、タイル壁、縦縞服など、連続する縦模様があるとき
- 先行車両の方向指示／非常点滅灯、制動灯が点灯したとき
- 水たまり、濡れた路面、ボデー鏡面への風景写り込みやランプ反射があるとき

⚠ 注意

- 外部から光の差し込みがあるとき
- 車両と車両、車両と歩行者、歩行者と歩行者、遠方のランプ群など、並進物があるとき
- 進路脇に歩行者、または歩行者と同じような大きさの物が並んでいるとき
- すれ違う歩行者、先行車両の二車線変更など、二つの物が交差して入れかわるとき
- ダンプカー、空荷トラック、スーツケースを持った人など、背面に前後差があるとき
- 複雑な形状の車両のとき
- 横断歩行者が自車正面に差し掛かる前に立ち止まったとき
- 風に揺れる旗や木の枝、衣服の揺れがあるとき

■ **衝突回避支援ブレーキについて**

緊急ブレーキ作動時は、強いブレーキがかかります。緊急ブレーキは車両が停止してから約 1.5 秒後に解除されるため、必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

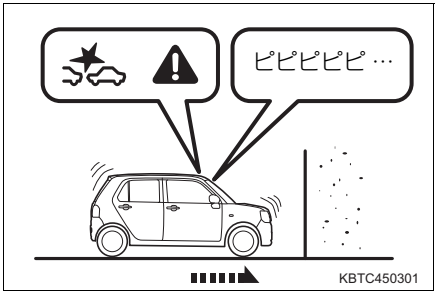
誤発進抑制制御機能（前方・後方）

誤発進抑制制御機能は、前方、または後方に障害物を認識している場合、停車または徐行（車速約 10km/h 以下）状態で、ペダルの踏み間違いなどにより必要以上にアクセルペダルが踏み込まれたとシステムが判断したときに、ブザーとメーター、ディスプレイの表示（→ P. 89）による運転者への警報とエンジン出力の抑制制御を行い、発進をゆるやかにすることで、衝突時の被害を軽減します。

◆ 前方

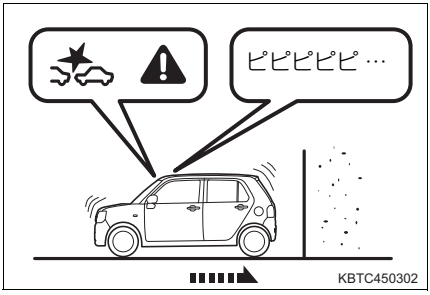
次の場合に作動します。

- ステレオカメラが前方約 4m 以内に障害物を認識している場合
- フロントソナーが前方約 2 ～ 3m 先までの壁などの障害物を認識している場合



◆ 後方

リヤソナーが後方約 2 ～ 3m 先までの壁などの障害物を認識している場合に作動します。



警告

■ **誤発進抑制制御機能について**

- 誤発進抑制制御機能を過信しないでください。誤発進抑制制御機能は衝突を回避するものではありません。発進時はシフトレバーやペダルの位置および周囲の安全を十分に確認して操作してください。機能に頼っていると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 誤発進抑制制御機能は停止状態を保つものではありません。
- 誤発進抑制制御機能はあらゆる状況で発進をゆるやかにするものではありません。
- 誤発進抑制制御機能は前方、または後方に障害物を認識している場合に作動するものであり、崖など対象物が見えない状況で発進をゆるやかにするものではありません。
- 故意に対象物の近くでアクセルペダルを過剰に踏み込まないでください。アクセルの調節を誤発進抑制制御機能に頼っていると衝突事故を起こす場合があります。
- 前方と後方では、認識できる障害物が異なります。
- 誤発進抑制制御機能とコーナーセンサーでは作動の対象とする障害物が異なります。コーナーセンサーのブザーが鳴っていても誤発進抑制制御機能が作動しなかったり、コーナーセンサーのブザーが鳴っていなくても、誤発進抑制制御機能が作動する場合があります。
- 万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、ステレオカメラ、またはソナーが遮断機を対象物と認識し、誤発進抑制制御機能が作動することがあります。遮断機を押しのけて進む場合は、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、スマートアシストⅢを停止してください。（→ P. 88）
- 運転者がハンドル操作をしていると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、誤発進抑制制御機能が作動しない場合があります。
- TRC を停止、または VSC・TRC を停止にした場合、誤発進抑制制御機能は作動しません。
- エンジン出力の抑制制御をしたときに、アクセルペダルを約 8 秒以上踏み続けると、作動を解除します。また、すばやく 3 回以上、全開まで踏みなおすと、誤発進抑制制御機能は作動しません。

誤発進抑制制御機能の作動

■ 警報

車速が約 4km/h 以下で、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 89）で警報し、運転者に衝突回避操作をうながします。

●後方で作動したとき、ブザーはリバース警告ブザーよりも早い間隔で鳴ります。（→ P. 89）

■ エンジン出力の抑制制御

車速が約 10km/h 以下で、アクセルペダルをすばやく、かつ必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示（→ P. 89）で運転者に警報するとともに、エンジン出力の抑制制御を行います。

●エンジン出力の抑制制御はアクセルペダルを踏み続けている間、最長約8秒間継続します。

●エンジン出力の抑制制御中は、メーター内のマスターウォーニングが点灯します。

知識

■ **誤発進抑制制御機能の作動条件**

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジン回転中
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯
- 「スマアシ停止」が表示されていない ※1
- 「スマアシ故障」が表示されていない
- ブレーキペダルを踏んでいない
- 車速が 0 ～約 10km/h
- 方向指示表示灯が消灯
- メーター内の TRC OFF 表示灯・VSC OFF 表示灯が消灯
- 前方の場合は、シフトポジションが D・S・B
- 後方の場合は、シフトポジションが R

知識

- フロントワイパーを“高速”で作動させていない※2

※1 機能停止コード「11E」のみが表示されているときは、「スマアシ停止」が表示されていても、ソナーの認識による誤発進抑制制御機能（前方）は作動します。

※2 フロントワイパーを“高速”で作動させていても、ステレオカメラの認識による誤発進抑制制御機能（前方）は作動します。

⚠ 注意

■ **誤発進抑制制御機能（前方）が作動しないおそれのある状況**

次の条件の違いにより、誤発進抑制制御機能（前方）が作動しないことがあります。

- 前方障害物との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 車両の状態（積載量・乗員など）
- 路面の状態（勾配・滑りやすさ・形状・凹凸など）
- 運転者の操作状態（アクセル・ブレーキ・ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- 車両の整備状態（ブレーキ関係・タイヤの摩耗・空気圧・スペアタイヤなど）
- 車両や二輪車などの急な割込み、歩行者の飛び出し
- エンジン始動直後
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合
- 前方障害物との距離や向き、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
  - 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
  - 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
  - フロントウインドウガラスに曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこりなどが付着して覆っているとき
  - ステレオカメラの温度が極端に高いとき
  - 夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に障害物に接近するとき
  - 屋内の駐車場など暗い場所で障害物に接近するとき
  - ヘッドランプ照射範囲外に障害物が存在するとき
  - 雨滴やウインドウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、障害物の認識が不完全になったとき
  - ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んだりして、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
  - 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
  - 前方車両などの水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
  - 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
  - 凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき
  - 障害物が道路標識やポールなどの細い棒状のもの
  - 車両に非常に近い位置で車両中央からずれた位置に障害物が存在するとき
  - 自車が進路変更して障害物のすぐうしろに接近したとき
  - 急なカーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合
  - ステレオカメラの認識エリア外に障害物が存在するとき
  - 障害物の高さが低いとき（低い壁、低いガードレール、車高の低い車両、縁石など）
  - しゃがんでいる人や横たわっている人などのとき
  - 障害物が小さいとき（小動物、幼児など）
  - 障害物や前方車両（トレーラーや対向車など）の自車からいちばん近い面および最後面が小さいときや、障害物に接近しすぎたとき（自車からいちばん近いところではない部分を認識して作動し、効果が十分でないこともあります）
  - 障害物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁やシャッターなどのとき
  - 障害物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
  - 自車の前方に車、二輪車、自転車、歩行者などが横から割り込んだり、飛び出してきたとき

⚠ 注意

- ソナーが認識できない障害物（特に次のようなもの）
  - 背の低い障害物
  - 小さい障害物（小動物・幼児など）、幅の狭い障害物
  - 針金・金網・ロープ・道路標識やポールなどの細い障害物
  - 急に前方に現れたもの
  - 車両前方を横切るもの
  - 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
  - 地面に対して垂直でない壁、車両前面に対して斜めの壁
  - 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁
  - ソナーの認識エリア外に存在する障害物
- ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）
  - バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
  - 動いているもの
  - スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
  - 障害物の面が車両の前方に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき
  - 障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
  - 壁から柱や配管などが突き出しているとき
  - 認識できる障害物と車両とのあいだに、認識できない障害物がある場合
  - 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
  - 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
  - どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
  - 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど）
  - ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
  - 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

■ **衝突の可能性がなくても誤発進抑制制御機能（前方）が作動する場合**

次のような場合は、衝突の可能性がなくても誤発進抑制制御機能（前方）が作動することがあります。

- 前方車両に接近して走行するときや、前方障害物の寸前まで接近して停止するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- 水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 前方車両および対向車両の排気ガスや水、雪などの巻上げ、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなどを通過するとき
- 停止車両などの横を至近距離で通過するときや対向車両が自車に向かって接近するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 路面上に大きなペイントや段差、縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- カーブの入口にガードレールや看板などの路側物があるとき
- カーブですれ違う対向車両があるとき
- カーブや交差点に障害物があるとき
- 縦列駐車から本線に合流するとき
- 駐車場ゲートや遮断機のバーが上がりきるまえのとき
- キャリアカーに積載するとき
- 河川敷や生い茂った草むらや木立の中を走行するとき
- 縦列駐車をするとき
- 前方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- 車両側面の近くに障害物があるとき
- 狭いスペースに進入するとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 霧・雪・砂嵐など悪天候の状況
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき

⚠ 注意

- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）の上や砂利道を走行するとき

■ **誤発進抑制制御機能（後方）が作動しない場合**

次のような障害物に対しては、誤発進抑制制御機能（後方）は作動しません。

- 背の低い障害物
- 小さい障害物（小動物・幼児など）、幅の狭い障害物
- 針金・金網・ロープ・道路標識やポールなどの細い障害物
- 急に後方に現れたもの
- 車両後方を横切るもの
- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
- 地面に対して垂直でない壁、車両後面に対して斜めの壁
- 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁
- ソナーの認識エリア外に存在する障害物

■ **誤発進抑制制御機能（後方）が作動しないおそれのある状況**

次のような場合は、誤発進抑制制御機能（後方）が作動しないことがあります。

- 運転者の操作状態（アクセル・ブレーキ・ハンドルなど）
- 路面の状態（勾配・凹凸など）
- 車両の状態（積載・乗員など）
- 悪天候時（豪雨・吹雪・濃霧など）
- エンジン始動直後
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合
- 後方障害物との距離や向き、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）
  - バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
  - 動いているもの
  - スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
  - 障害物の面が車両の後面に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき
  - 障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
  - 壁から柱や配管などが突き出しているとき
  - 認識できる障害物と車両とのあいだに、認識できない障害物がある場合
  - 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
  - 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
  - どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
  - 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど）
  - ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
  - 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

■ **衝突の可能性がなくても誤発進抑制制御機能（後方）が作動する場合**

次のような場合は、衝突の可能性がなくても誤発進抑制制御機能（後方）が作動することがあります。

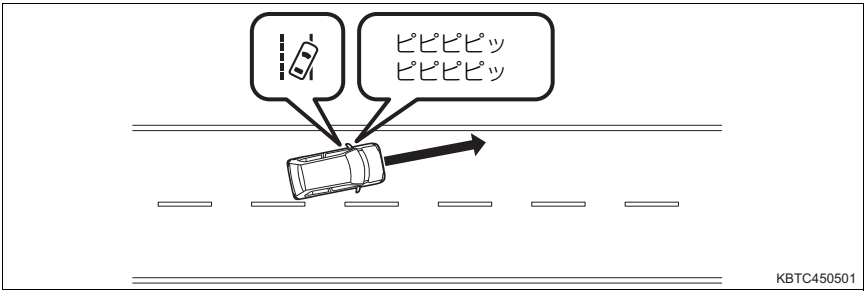
- 障害物の寸前まで接近して停止するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- ビニールカーテン・旗などをもぐって通過するとき
- 水しぶき・雪などの巻上げがあったとき

⚠ 注意

- 障害物の横を至近距離で通過するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 縦列駐車をするとき
- 後方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- 車両側面の近くに障害物があるとき
- 路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- 狭いスペースに進入するとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 霧・雪・砂嵐など悪天候の状況
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）の上や砂利道を走行するとき

車線逸脱警報機能

車線逸脱警報機能は、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラによって左右の白線または黄線を認識し、車速が約 60km/h 以上で、運転者が意図せず走行車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーとメーター内の表示灯★、またはディスプレイの表示★（→ P. 89）で運転者に注意をうながします。



⚠ 警告

■ 車線逸脱警報機能について

- 車線逸脱警報機能は、車線逸脱を防止するものではありません。また、わき見運転やぼんやり運転などの前方不注意、および雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。車線の維持を車線逸脱警報機能に頼っていると、車線逸脱による事故につながるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車線逸脱警報機能が作動した場合は、周囲の状況に応じてハンドル操作を行うなどの適切な操作をしてください。
- 車線逸脱警報機能は路肩や側溝などの道路の端を認識して警報する機能ではありません。

■ 車線逸脱警報を作動させない場合

次のような条件では、車線逸脱警報を作動させない場合があります。

- 車線内を走行していないとき
- カーブ内側にはみ出して走行してしまっているとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

- 車線幅が狭いとき
- 方向指示器を使用しているとき
- 急な操舵などにより、運転者に回避の意思があるとシステムが判断したとき
- 車線逸脱警報が作動してから約 2 秒間

知識

■ **車線逸脱警報機能の作動条件**

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチが “ON”
- 車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯
- 「スマアシ停止」が表示されていない
- 「スマアシ故障」が表示されていない
- 車速が約 60km/h 以上
- 方向指示表示灯が消灯（方向指示表示灯が消灯してから約 4 秒間は作動しません）
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行している

注意

■ **車線逸脱警報機能が適切に作動しないおそれのある状況**

次の条件では白（黄）線を正確に認識できず、車線逸脱警報機能が適切に作動しないことがあります。

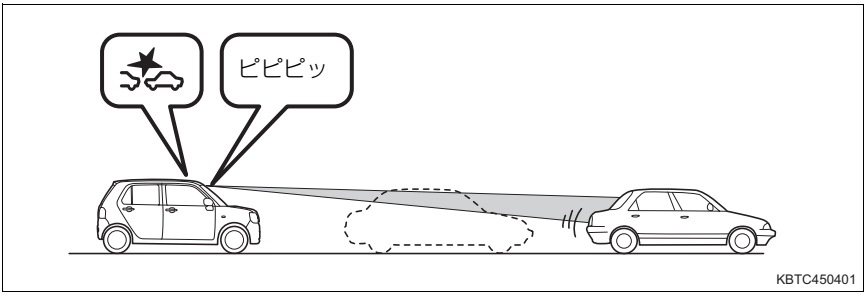
- 白（黄）線と道路表面の区別ができないときや、かすれたり汚れたりして見えにくいとき
- 悪天候（豪雨・吹雪・濃霧など）により白（黄）線が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車両のヘッドランプの光など）を受けているときや、強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや、水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき、ガードレールなどの影が道路上に映っているとき
- 夜間で街灯のついていない道路を走行しているとき
- 道路の状態（特に次のような場合）
  - 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
  - 道路の修復や古い白（黄）線のため、アスファルトの継ぎ目や線状の補修痕、白（黄）線のかすれや重複、タイヤ痕などがあるとき
  - 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
  - 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
  - 車両などが白（黄）線の一部を隠しているとき、または幅が細いとき
  - 坂道や丘の頂上に近付いているとき
  - 段差などにより車両が大きく揺れたとき
  - 路上のもの（縁石・ガードレール・パイロンなど）を白（黄）線と認識したとき
  - 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
  - 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
  - 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
  - 濡れた路面や積雪路でのタイヤの跡などがあるとき
  - 分岐・合流路などを走行するとき
  - 急なカーブのある道路を走行するとき
  - 道路の補修跡や雪とアスファルトの境目などがあるとき
  - ガードレールの影などがあるとき
  - 区画線が二重に描かれているとき
  - 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき

⚠ 注意

- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
  - フロントウインドウガラス外側が汚れ、泥、湿った雪に覆われているとき
  - ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んだりして、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
  - フロントウインドウガラス内側が曇っているとき
  - フロントウインドウウォッシャーの使用中、または使用後などで、フロントウインドウガラスが十分に拭き取れていないとき
  - 重い荷物を積んで車両が傾いているとき
  - 先行車との車間距離が短いとき
  - 自車が白線（黄線）に対してまっすぐに走行していないとき
  - ステレオカメラが高温になったとき

先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能は、先行車の発進後に自車が停止し続けた場合に、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 89）で運転者にお知らせします。
先行車に続いて停車中（車間距離が約 10m 以内、かつ自車がしばらく停車中）、先行車が発進して約 3m 以上進んでも自車が発進しないときに作動します。



⚠ 警告

■ **先行車発進お知らせ機能について**

安全に発進できる状態を知らせたり、あらゆる状況での先行車の発進を知らせたりするものではありません。先行車発進お知らせ機能に頼らず、十分に安全を確認して運転してください。

知識

■ **先行車発進お知らせ機能の作動条件**

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチが “ON”
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯
- 「スマアシ停止」が表示されていない
- 「スマアシ故障」が表示されていない
- シフトポジションが D・S・B でブレーキペダルを踏んでいる、またはシフトポジションが N
- 停止してから数秒経過

■ **先行車発進お知らせ機能が正常に作動しない場合**

次のような場合は、先行車が発進していなくても機能が働いてしまう場合や、発進していても作動が遅れたり、機能が働かない場合があります。

- 停止した先行車との間にオートバイなどが割り込んできたとき
- 停止した先行車との間を歩行者などが通過した場合

知識

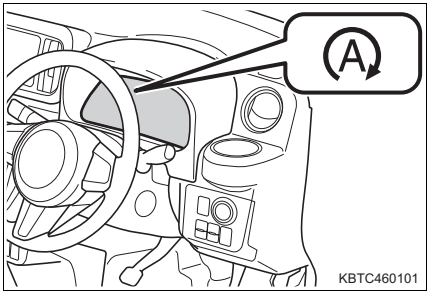
- 天候や道路形状などにより先行車を認識できないとき
- ステレオカメラが先行車を見失ったとき
- 横方向のずれ具合（自車の正面にいないなど）
- 自車が停止したときに先行車が動いている場合
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が急発進や急旋回した場合
- 先行車が特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）の場合
- 先行車の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
- 車両背面のガラスが大きく、前が見えてしまうような先行車のとき
- 荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなどが先行車のとき
- 後端から積荷が飛び出している先行車のとき
- 車高の低い先行車のとき
- 車両が斜め、または横向きに停まっているとき
- ハンドルを大きく切った状態で停止しているとき
- 凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき

アイドリングストップシステム（eco IDLE）

赤信号や交差点などで減速した際、停車前（約 11km/h）もしくは停車後に燃費向上やアイドリング騒音低下のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

エンジンが停止する

1 シフトレバーを D で走行中、エンジン停止が可能な状態になると、eco IDLE 表示灯が点灯する（→ P. 109）



2 ブレーキペダルを踏み減速すると、停車前もしくは停車後にエンジンが自動的に停止する

eco IDLE 表示灯は点灯したままです。

エンジンが再始動する

ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動する

eco IDLE 表示灯が消灯します。

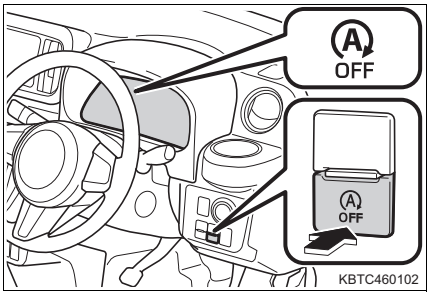
しばらく走行して、再びエンジン停止が可能な状態になると、eco IDLE 表示灯が点灯します。

eco IDLE を非作動にするには

eco IDLE を非作動にするには eco IDLE OFF スイッチを押す

eco IDLE OFF 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、作動可能状態にもどり、eco IDLE OFF 表示灯が消灯します。



■ eco IDLE OFF スイッチを押したとき

●eco IDLE によるエンジン停止中、eco IDLE OFF スイッチを押すとエンジンが再始動します。

●eco IDLE が非作動のとき、もう一度 eco IDLE OFF スイッチを押すと、eco IDLE が作動可能状態にもどりますが、エンジンは停止しません。
次に車両が停止したときに（eco IDLE が作動可能状態にもどる）、eco IDLE によって、エンジンが停止します。

ヒルスタートシステム

eco IDLE によって坂道でエンジン停止後の発進の際、ブレーキペダルを離してエンジンを再始動し駆動力が発生するまでのあいだ、ブレーキ油圧（ブレーキの効き）を最長約 2 秒間保持して車両が後退するのを抑制し坂道発進を容易にします。

駆動力が発生すると、保持していたブレーキ油圧（ブレーキの効き）を自動的に解除します。

知識

■eco IDLE の作動条件

●次の条件がすべて満たされたとき、eco IDLE 表示灯が点灯し、エンジン停止が可能な状態になります。

- エンジンが十分温まっているとき
- トランスミッションオイルが十分に温まっているとき
- エンジン冷却水温が高すぎないとき
- エンジン始動後に約 10km/h 以上でしばらく走行したあと
（走行せずにアイドリング状態を続けていても、エンジンは停止しません）
- バッテリー状態（充電・温度など）が良好であるとき
- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- ボンネットが閉まっているとき
- 外気温が約 0 ℃以上のとき（メーター内に表示されている外気温と異なる場合があります）
- シフトレバーが D のとき
- FRONT が OFF のとき（オートエアコン装着車）
- 車内温度が快適なとき（オートエアコン装着車の冷房時）
- システム（eco IDLE・エンジン電子制御・CVT 電子制御・ABS・VSC・エアコン・パワーステアリング・車両通信）が正常なとき

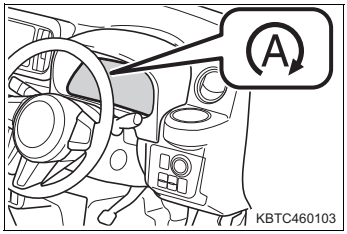
●次の状況では、エンジン停止が可能な状態になるまで時間がかかる場合があります。

- バッテリーが放電しているとき
- バッテリー交換などにより、バッテリー端子をはずしたあと
- 冷房初期（オートエアコン装着車）

知識

■ eco IDLE 表示灯について

走行中に eco IDLE の作動条件が満たされると、eco IDLE 表示灯が点灯し、停止時に eco IDLE が作動可能状態であることをお知らせします。



■ 停車前のエンジン停止条件

● eco IDLE 表示灯が点灯して、次の条件が満たされたとき、停車前にエンジン停止します。

- 車速が約 11km/h 以下になったとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- アクセルペダルを踏んでいないとき
- 車幅灯が消灯しているとき
- フロントワイパーが作動していないとき
- ハンドルの切れ角が小さいとき
- 急減速していないとき
- ABS、VSC が作動していないとき
- 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき
- ブレーキオーバーライドシステムが作動していないとき

● 次の状況では、停車前にエンジン停止しない場合がありますが、異常ではありません。

- ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
- ゆるやかに減速しているとき

■ 停車後のエンジン停止条件

● eco IDLE 表示灯が点灯して、次の条件が満たされたとき、停車後にエンジン停止します。

- 停車しているとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- アクセルペダルを踏んでいないとき
- ハンドル操作をしていないとき
- ABS、VSC が作動していないとき
- 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき

● 次の状況では、停車後にエンジン停止しない場合がありますが、異常ではありません。

- ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
- 勾配が急な坂道で停車したとき
- ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき

■ エンジン停止中の操作について

● 右左折や合流時など、エンジン停止中に事前に発進準備をしたいときは、次の操作で事前にエンジンを再始動することができます。

- ブレーキペダルをさらに強く踏み込む
- ハンドル操作をする
- eco IDLE OFF スイッチを押す（→ P. 108）

● エンジン停止中にシフトレバーを D から N、または S・B にしてもエンジン停止は継続します。ただし、シフトレバーを N にしたあと他のシフトポジションにすると、エンジンが再始動します。

● 給油時はシフトレバーを P にし、エンジンスイッチを “OFF” にしてエンジンを停止します。

知識

■ エンジンの再始動について

● エンジン停止中に次のいずれかの操作を行うと、エンジンが自動的に再始動します。
- ブレーキペダルから足を離したとき
- ブレーキペダルをさらに強く踏み込んだとき
- アクセルペダルを踏んだとき
- ハンドル操作をしたとき
- シフトレバーを R・P にしたとき
- シフトレバーを N にしたあと、他のシフトポジションにしたとき
- eco IDLE OFF スイッチを押したとき
- FRONT を押したとき（オートエアコン装着車）
- 運転席ドアを開けたとき
- 運転席シートベルトをはずしたとき

● エンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。（eco IDLE 表示灯は点滅後、消灯します）
- ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
- バッテリーの放電量が多いとき
- 傾斜などで車両が動き出したとき
- 停車前にエンジンを停止したあと、下り坂で加速したとき
- 警告灯が点灯（→ P. 154）、警告メッセージ★（→ P. 158）が表示されるなど、各システム（エンジン電子制御・CVT 電子制御・ABS・VSC・TRC・エアコン・パワーステアリング）に異常が発生したとき
- 冷房時、エアコン吹き出し口の風の温度が上昇したとき（オートエアコン装着車）
- エンジン停止してから約 3 分経過したとき

● エンジン停止中に eco IDLE システムに異常が発生したり、スターターやバッテリーが交換時期になったときは、eco IDLE OFF 表示灯が点滅、および「アイドリングストップ故障」の警告メッセージ★（→ P. 161）が表示され、エンジンが自動的に再始動します。

● 次の状況では、エンジン停止の時間が短くなる場合があります。
- 外気温が高く、エアコンを使用している状態で頻繁にエンジン停止をしたとき
- 電装品などの消費電力が大きいとき

● オーディオの音量が大きいなど、エンジン停止中の消費電力が大きい場合、エンジン再始動時にオーディオの電源が一時的に OFF になることがあります。

● エンジンが再始動すると、アクセサリーソケットの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に OFF になることがあります。

■ eco IDLE の自動再開

eco IDLE を eco IDLE OFF スイッチによって非作動にしていても、一度エンジンスイッチを “OFF” にしてから “ON” にすることによって、eco IDLE は自動的に作動可能状態にもどります。

■ ボンネットを開けたときは

エンジン停止中にボンネットを開けた場合、エンジンは自動で再始動しません。エンジンスイッチでエンジンを始動させてください。

■ ヒルスタートシステムについて

● 坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。

● ヒルスタートシステムの作動により、次の状態になることがありますが、異常ではありません。
- ブレーキペダルの踏みごたえがかわる
- ブレーキペダルが振動する
- ブレーキから音が発生する

■ eco IDLE について

eco IDLE は赤信号や交差点などの一時的な停車のときに使用し、長時間停車する場合などには、エンジンを停止してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ **警告ブザーについて**

eco IDLE によるエンジン停止中、次のようになったときは警告ブザーが鳴ると同時に eco IDLE 表示灯が高速で点滅、および警告メッセージ★（→ P. 158）が表示されます。

- 運転席ドアが開いたとき
- 運転席シートベルトをはずしたとき
- ボンネットが開いたとき ※

※ ボンネットが開いたときは、警告メッセージ★が表示されません。

■ **eco IDLE OFF 表示灯が点滅、および「アイドリングストップ故障」の警告メッセージ★（→ P. 161）が表示されたままのときは**

スターターの交換時期、またはシステムに異常がある場合があります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ **エンジン始動中に eco IDLE OFF 表示灯が数秒間点滅、および「アイドリングストップ故障」の警告メッセージ★（→ P. 161）が数秒間表示されたときは**

バッテリーの交換時期です。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ **エンジン停止中のエアコンについて**

- エンジン停止中はエアコン（冷房、除湿機能）がオフになり、送風になります。エアコンを作動させるときは、ブレーキペダルをさらに強く踏むか、eco IDLE OFF スイッチを押してエンジンを再始動させてください。
- AUTO を押してエアコンをオート設定にしているときは、エンジン停止中に風量が少なくなったり送風を停止することがあります。エンジンが再始動すると、風量は自動調整にもどります。（オートエアコン装着車）

■ **エンジン停止中にフロントウインドウガラスが曇ったとき**

ブレーキペダルをさらに強く踏むか、eco IDLE OFF スイッチを押してエンジンを再始動させてください。

マニュアルエアコン装着車は A/C を押してエアコンを作動させ、吹き出し口を に切りかえる、オートエアコン装着車は FRONT を押して曇りを取ってください。

断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、eco IDLE OFF スイッチを押し、eco IDLE を非作動にしてください。

⚠ 警告

■ **eco IDLE が作動しているとき**

- エンジン停止中はブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。（eco IDLE 表示灯が点灯しているあいだ）
  エンジンが自動的に始動するため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジン停止中は車から離れないでください。（eco IDLE 表示灯が点灯しているあいだ）
  次の操作を行うと、エンジンが自動的に始動するため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  - ブレーキペダルから足を離す
  - 運転席ドアを開ける
  - 運転席シートベルトをはずす

⚠ 警告

■ヒルスタートシステムについて

- ヒルスタートシステムは坂道で停車させる装置ではありません。装置が正常に作動していても、坂道で停車中にブレーキペダルをゆるめると車が動き出すおそれがありますので、停車中はブレーキペダルをしっかり踏み続けてください。
- ヒルスタートシステムを過信しないでください。発進するときに車が不意に動き出すなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。常に周囲の状況を確認して、適切にシフトレバー・ブレーキペダル・アクセルペダル・パーキングブレーキを操作して発進してください。
- ブレーキペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行ってください。坂道などで惰性で後退した場合、エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。
- ゆるやかな上り坂で停車前にエンジン停止したあと、車が停止する前にアクセルペダルを踏んで再加速しようとした場合、車が後退することがあります。車が惰性で後退したときは、周囲の状況に応じてブレーキペダル、アクセルペダルを操作し、安全に発進してください。
- 重い荷物を車内に積んでいるとき、または勾配が急な上り坂では、ヒルスタートシステムが作動していても車が後退することがあります。パーキングブレーキをかけたりするなどして発進してください。

⚠ 注意

■eco IDLE が作動しているとき

エンジン停止中は、ブレーキペダルを踏んだまま、アクセルペダルを踏むとエンジンが再始動しますので、車両の発進には十分ご注意ください。

■eco IDLE を正常に作動させるために

- 次のようなときは eco IDLE が正常に作動しないおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
  - 運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内の運転席シートベルト締め忘れ警告灯が点滅する、および TFT マルチインフォメーションディスプレイに「シートベルトを装着してください」の警告メッセージ★（→ P. 161）が表示されたとき
  - 運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内の運転席シートベルト締め忘れ警告灯が点滅しない、および TFT マルチインフォメーションディスプレイに「シートベルトを装着してください」の警告メッセージ★（→ P. 161）が表示されないとき

  ▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車
  - 運転席ドアを閉めているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯する、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯するとき
  - 運転席ドアを開けているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯しない、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯しないとき

  ▶ TFT マルチインフォメーションディスプレイ装着車
  - 運転席ドアを閉めているときに、TFT マルチインフォメーションディスプレイに「ドアが開いてます」の警告メッセージ★（→ P. 161）が表示される、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯するとき
  - 運転席ドアを開けているときに、TFT マルチインフォメーションディスプレイに「ドアが開いてます」の警告メッセージ★（→ P. 161）が表示されない、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯しないとき
- バッテリーの端子から電化製品の電源をとらないでください。eco IDLE が正常に作動しなくなります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

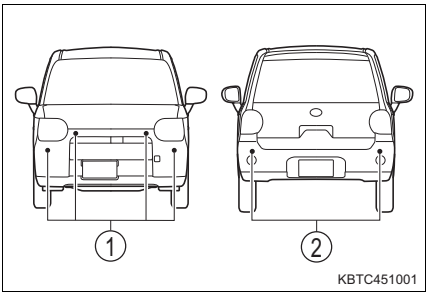
コーナーセンサー

コーナーセンサーは車速が約 10km/h 以下のときに、車両と障害物とのおおよその距離をソナーによって認識してブザーとディスプレイの表示で運転者にお知らせする装置です。

ソナーの位置・種類

① フロントソナー
フロントコーナーセンサーで必要な情報を認識します。

② リヤソナー
リヤコーナーセンサーで必要な情報を認識します。

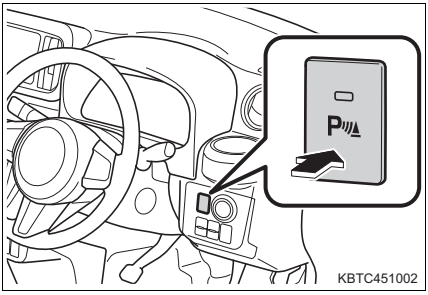


コーナーセンサーの切りかえ

スイッチを押す

スイッチを押すとコーナーセンサーは ON になり、作動灯が点灯します。

OFF にするには再びスイッチを押します。

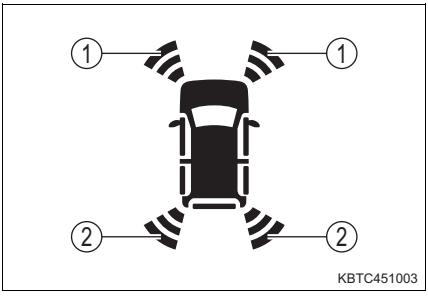


コーナーセンサーの表示のしかた

障害物を認識すると自動的に表示されます。

① フロントコーナーセンサー作動表示

② リヤコーナーセンサー作動表示



ブザーについて

作動条件をすべて満たした状態で、パーキングブレーキがかかっていないときに障害物を認識すると、ブザーが鳴ります。

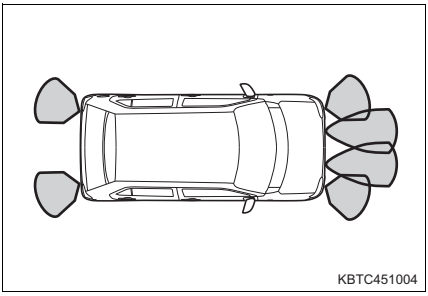
●障害物との距離が短くなると、ブザーが次の表のとおり変化します。

ブザー	ソナーと障害物との距離	
	フロントソナー（中央 2 個）	フロントソナー（左右 2 個） リヤソナー
ピッピッピッ … （断続音）	約 100 ～ 45cm	約 60 ～ 45cm
ピピピ … （断続音）	約 45 ～ 30cm	
ピー （連続音）	約 30cm 以内	

●ソナーが複数の障害物を同時に認識しているときは、もっとも近い障害物との距離のブザーが鳴ります。

ソナーが障害物を認識できる範囲

認識できる範囲は右図のとおりです。
ただし、障害物がソナーに近付きすぎると認識できません。
障害物の形状・条件によっては認識できる距離が短くなることや、認識できないことがあります。



知識

■ **作動条件**

●フロントコーナーセンサー：
- エンジンスイッチが “ON” のとき
- コーナーセンサースイッチが ON のとき
- シフトレバーが P 以外で、車両の速度が約 10km/h 以下のとき

●リヤコーナーセンサー：
- エンジンスイッチが “ON” のとき
- コーナーセンサースイッチが ON のとき
- シフトレバーが R で、車両の速度が約 10km/h 以下のとき

●作動条件を満たした状態で、パーキングブレーキがかかっていないときに障害物を認識すると、ブザーが鳴ります。

■ **ソナーの認識について**

●ソナーの認識範囲は車両前部、および後部のバンパーのソナー周辺に限られます。

●障害物を認識してから、コーナーセンサーが作動するまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でもブザーが鳴る前に、障害物に近付きすぎると、ブザーが鳴らない場合があります。

●オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーが聞き取りづらくなる場合があります。

知識

■ **ブザーが「ピピピ、ピピピ、ピピピ」と鳴り、コーナーセンサーの作動表示が前方 2 箇所または後方 2 箇所（もしくは 4 箇所すべて）同時に表示されたときは**

- コーナーセンサーの機能が低下しています。
  コーナーセンサーの機能が一時停止しますので、雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着していないか確認し、取り除いて正常復帰させてください。
- マスターウォーニングが同時に点灯したときは、システムに異常があるおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- TFT マルチインフォメーションディスプレイ装着車は、状態により「コーナーセンサー機能低下」、「コーナーセンサー故障」の警告メッセージが表示されます。

⚠ 警告

■ **コーナーセンサーをお使いになる前に**

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車両の速度が約 10km/h をこえないようにしてください。
- ソナーの認識範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）ソナーの認識範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。
- ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリー用品などを取り付けないでください。
- TFT マルチインフォメーションディスプレイ装着車は、「コーナーセンサー機能低下」の警告メッセージが表示された場合、ソナーの状態を確認してください。雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着していないのに警告メッセージが表示されている場合は、コーナーセンサーの異常が考えられますのでダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ **コーナーセンサーについて**

次のとき、コーナーセンサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- 路面の状態（勾配、凹凸など）
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧、スペアタイヤなど）
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化したとき
- 障害物との距離や向き、位置（車両中央付近に障害物がある）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）
  - ソナーに非常に近い障害物のとき（障害物に接近しすぎると、ブザーが連続音から断続音になる場合があります）
  - 地面から高い位置に存在する障害物のとき
  - 背の低い障害物のとき
  - 小さい障害物（小動物、幼児など）、幅の狭い障害物のとき
  - 動いているもの（急に現れたり、車両を横切るものなど）
  - スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物のとき
  - 障害物の面が車両に対して斜めのとき
  - 地面に対して垂直でない壁のとき
  - 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁のとき
  - 針金、金網、ロープ、道路標識、電柱やポールなどの細い障害物のとき
  - 壁から柱や配管などが突き出しているとき
  - 認識できる障害物と車両とのあいだに、認識できない障害物があるとき
  - ソナーの認識エリア外に存在する障害物のとき
  - 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温のとき
  - 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
  - どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき

⚠ 警告

- 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど）
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

■ コーナーセンサーと誤発進抑制制御機能の作動について

● コーナーセンサーと誤発進抑制制御機能では作動の対象とする障害物が異なります。コーナーセンサーが作動していても誤発進抑制制御機能が作動しなかったり、コーナーセンサーが作動していなくても、誤発進抑制制御が作動する場合があります。

⚠ 注意

■ コーナーセンサーについて

次のような場合は、障害物が作動範囲になくても作動することがあります。

● 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
● ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
● 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
● 障害物の横を至近距離で通過するとき
● 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
● 付近に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
● 車両側面の近くに障害物があるとき
● 路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
● 狭いスペースに進入するとき
● どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
● 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
● 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
● ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
● 車両姿勢が大きく傾いたとき
● 積載状況などにより車高が著しく変化したとき
● 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
● 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき

■ コーナーセンサーの異常について

次のとき、ソナーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

● 障害物を認識していない状態で、コーナーセンサーが作動したとき
● ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えたとき
● 事故などでソナー周辺が変形したとき
● スマートアシストⅢに異常があるとき、または「スマアシ停止」、「スマアシ故障」が表示されているとき（→ P. 156、165）

■ 洗車時の注意

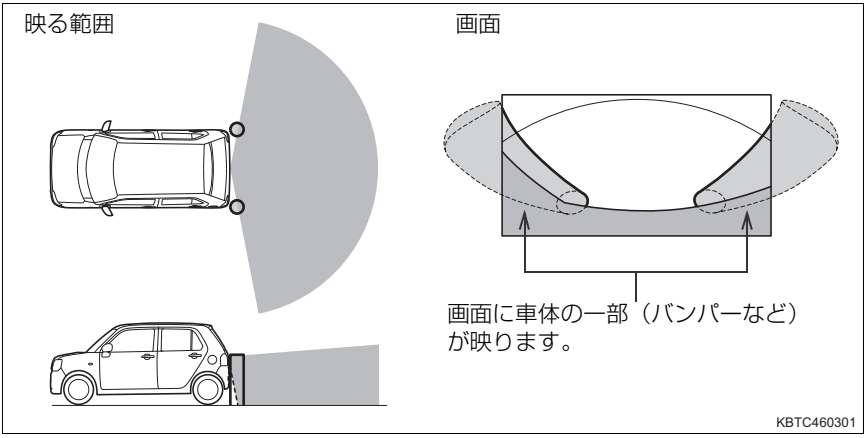
● 高圧洗車機を使用して洗車するときは、ソナー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
● スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

バックカメラ★

バックカメラは車両を後退させるとき、ナビゲーションの画面上に車両後方の映像を表示させることで、駐車時などの運転を補助する装置です。
装着されているナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の取扱説明書をご覧ください。

バックカメラの注意点について

■ 画面の映る範囲について



⚠ 警告

■ バックカメラについて

次のことをお守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●バックカメラを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物、人などに接触しないようにしてください。
- ●後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。
- ●画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。

  画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。また、カメラの映し出す範囲は限られていますので、画面だけを見て、後退することは絶対にしないでください。車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意したうえで運転してください。
- ●次のような状況では、使用しないでください。
  - ・凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
  - ・タイヤチェーン、スペアタイヤを使用しているとき
  - ・バックドアが完全に閉まっていないとき
  - ・坂道など平坦でない路面
- ●外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

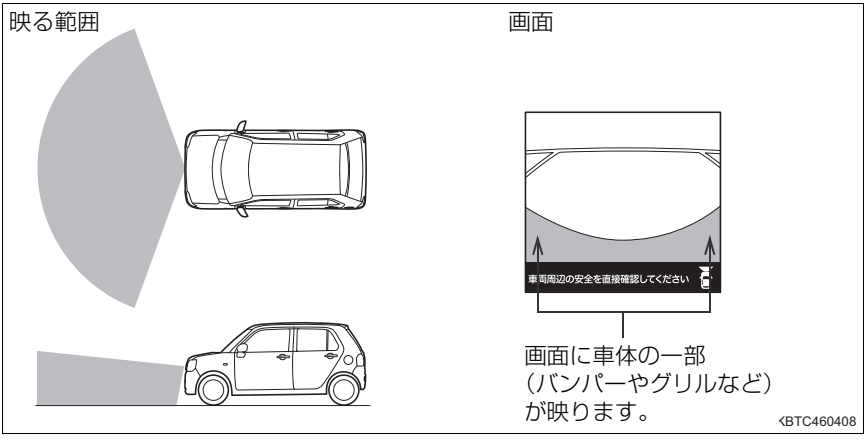
パノラマモニター★

パノラマモニターは、車両に取り付けたフロント、サイド、バックカメラの映像を合成してナビゲーションの画面上に表示させることで、低速時の運転を補助する装置です。
画面を左右2分割して表示し、左側にトップビュー、右側にはフロント、リヤビューが表示されます。
また、レフト＆ライトサイドビューやレフトサイド＆リヤビュー、フロントワイドビュー、リヤワイドビューでも、車両周辺の障害物を確認できます。
画面の映像、映る範囲はビューによって異なります。（→ P. 118）
装着されているナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の取扱説明書をご覧ください。

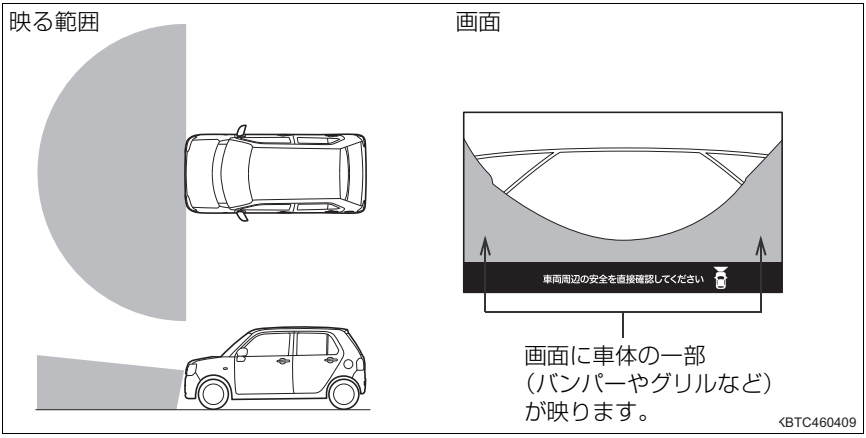
パノラマモニターの注意点について

■ 画面の映る範囲について

▶フロントビュー

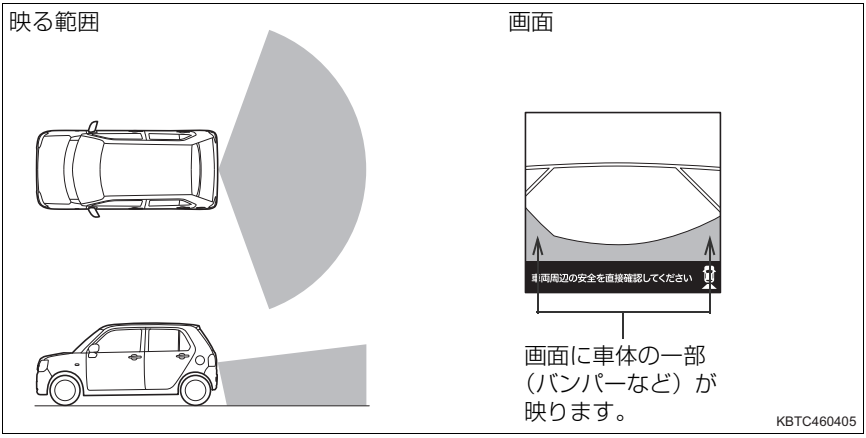


▶フロントワイドビュー

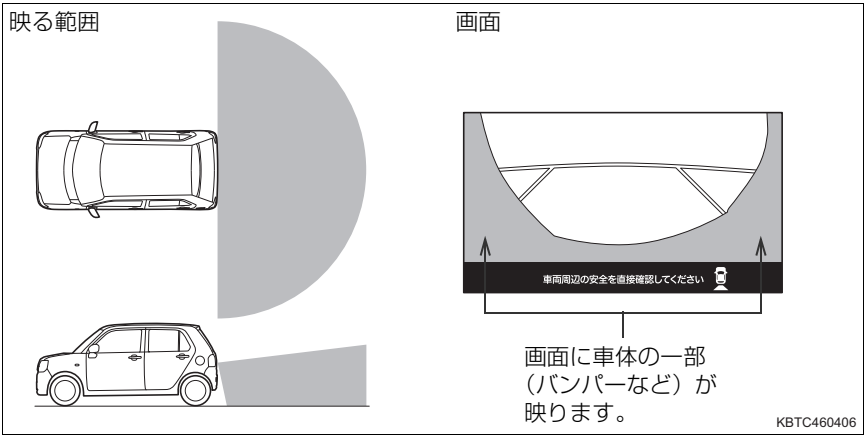


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

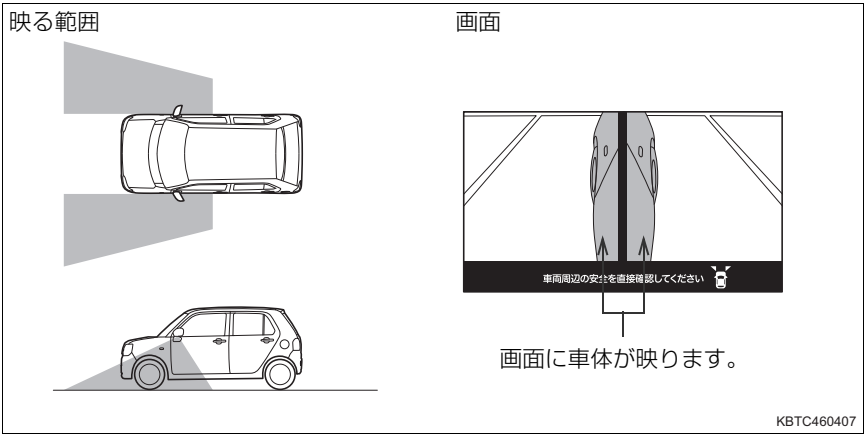
▶リヤビュー



▶リヤワイドビュー

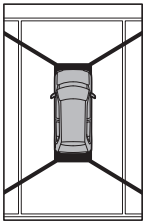


▶サイドビュー



▶トップビュー

画面



KBTC460410

警告

■パノラマモニターについて

次のことをお守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●パノラマモニターを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物、人などに接触しないようにしてください。

●運転操作時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。

●画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。

画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。また、カメラの映し出す範囲は限られていますので、画面だけを見て右左折、後退することは絶対にしないでください。車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意したうえで運転してください。

●次のような状況では、使用しないでください。

・凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
・タイヤチェーン、スペアタイヤを使用しているとき
・フロントドア・バックドアが完全に閉まっていないとき
・坂道など平坦でない路面
・ドアミラーを格納しているとき

●外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらのシステムは補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロック防止に貢献し、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC※

急なハンドル操作やすべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC※

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力の確保に貢献します。

◆ ヒルホールドシステム

上り坂で発進するときに車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ フルタイム 4WD★

オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした 4WD です。すべりやすい雪道や上り坂などでスムーズな発進、加速に貢献します。

通常の直進走行では FF（前輪駆動）に近い状態で走行します。

前・後輪に回転差が生じるとビスカスカップリングにより、その回転速度の差に応じた最適なトルクを後輪へ配分します。

◆ スマートアシストⅢ

→ P. 86

◆ エマージェンシーストップシグナル

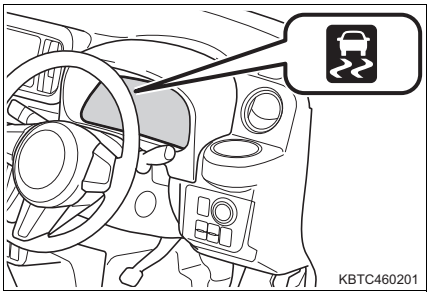
急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

※ “VSC”、“TRC” はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

VSC・TRC が作動しているとき

VSC・TRC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



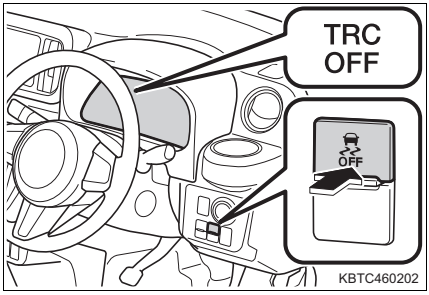
TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに OFF を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF を押す

TRC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度 OFF を押すと、システム作動可能状態にもどります。



知識

■ **VSC と TRC を停止するには**

VSC と TRC を停止するには、停車時に OFF を 3 秒以上押し続けてください。

TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度 OFF を押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ **VSC や TRC の自動復帰について**

VSC や TRC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

- エンジンスイッチを "OFF" にしたとき
- （TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
  ただし、VSC と TRC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

⚠ 警告

■ **ABS の効果を発揮できないとき**

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

警告

■ **ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき**

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ **TRC の効果を発揮できないとき**

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ **ヒルホールドシステムの効果を発揮できないとき**

- ヒルホールドシステムを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルホールドシステムが効かないことがあります。
- ヒルホールドシステムはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ **スリップ表示灯が点滅しているときは**

VSC・TRC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ **VSC や TRC を OFF にするとき**

VSC や TRC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は VSC・TRC を作動停止状態にしないでください。VSC や TRC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ **フルタイム 4WD について★**

- この車の 4WD（フルタイム 4WD）は、オンロード専用です。オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした 4WD ですので、無理な運転はしないでください。
- 脱輪などにより、いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。

  前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動系部品に無理な力が加わり焼き付きなどの損傷を受けたり、焼き付きにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ **タイヤまたはホイールを交換するとき**

4 輪とも指定されたサイズで、同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、指定された空気圧にしてください。（→ P. 187）

異なったタイヤを装着すると、ABS・VSC・TRC・フルタイム 4WD ★が正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、ダイハツサービス工場に相談してください。

■ **タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

警告

■ **冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用する
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しない
- 空気圧を指定値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ **タイヤチェーン装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低いほうをこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴をさける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用はさける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

■ **駐車時の警告**

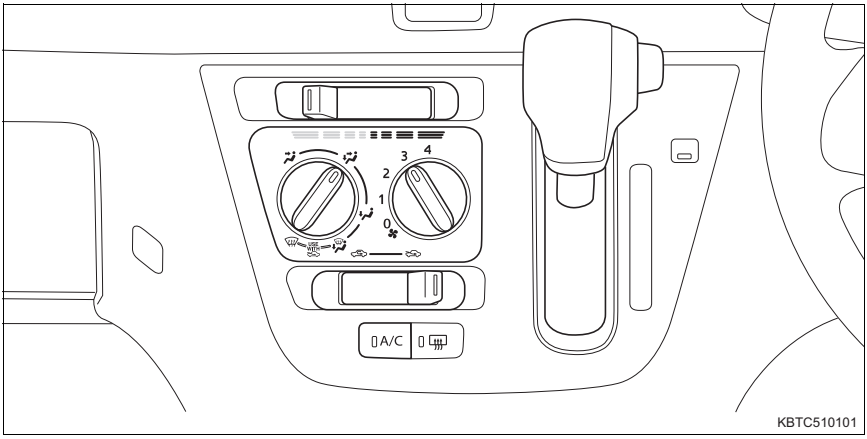
パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

室内装備・機能

5

5-1. エアコンの使い方
マニュアルエアコン …… 126
オートエアコン …… 127
シートヒーター …… 128
5-2. オーディオの使い方
ステアリングスイッチ …… 128
5-3. 収納装備
収納装備一覧 …… 129
ラゲージルーム内装備 …… 130
5-4. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備 …… 130

マニュアルエアコン★



その他の機能

■ **フロントウインドウガラスの曇りを取るには**

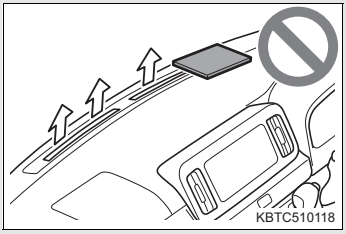
吹き出し口切りかえダイヤルを にまわし、内外気切りかえレバーを に操作する

A/C を押してエアコンを ON にすると曇りが早く取れます。

警告

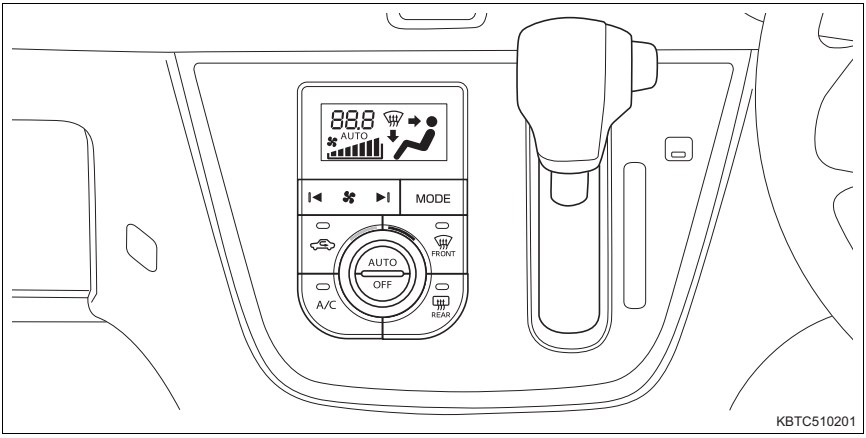
■ **フロントウインドウガラスの曇りを防止するために**

- 湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、吹き出し口切りかえダイヤルを の位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。
- フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなることがあります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オートエアコン★



その他の機能

■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには

FRONT を押す

エアコンが作動し、自動的に外気導入に切りかわります。

曇りが取れたら再度 FRONT を押すと、前のモードにもどります。

知識

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は A/C を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- A/C を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

警告

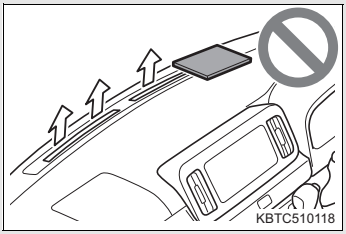
■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

- 湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、FRONT を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

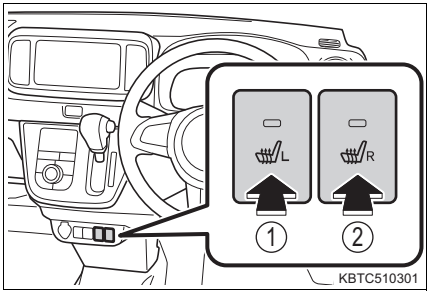
● フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなることがあります。



■ **リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター★作動中の警告**
ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

シートヒーター★

① 助手席をあたためる
② 運転席をあたためる
シートヒーター作動中は、作動表示灯が点灯します。
再度押すと OFF になり、作動表示灯が消灯します。



警告

● 低温やけどを負うおそれがあるため、次のかたがシートヒーターに触れないようにご注意ください。
- 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた

● 異常過熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
- 長時間連続で使用しないでください。
- 毛布・クッションなどを使用しないでください。

5-2. オーディオの使い方

ステアリングスイッチ★

ハンドルにあるスイッチで、オーディオや、ナビゲーションシステムを操作することができます。
装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。
詳しくは製品に付属の取扱説明書をご覧ください。

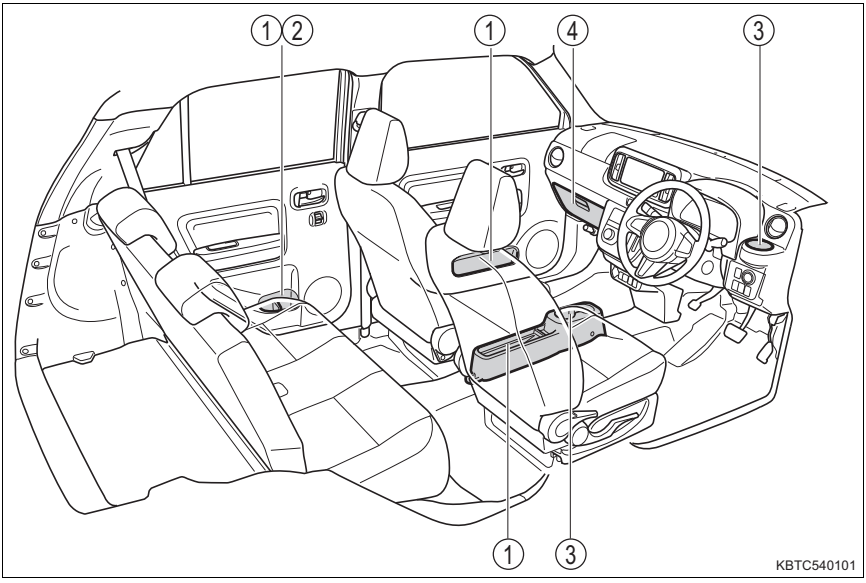
警告

■ **事故を防ぐために**
運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

5-3. 収納装備

収納装備一覧



① オープントレイ
② ボトルホルダー
③ カップホルダー
④ グローブボックス

警告

- メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
  放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
  - 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
  急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

カップホルダー／ボトルホルダー

警告

- カップホルダーには、カップ・缶・ペットボトル以外のものを置かないでください。
  急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
- ボトルホルダーには、ペットボトル以外のものを置かないでください。
  急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
- やけどを防ぐために、カップホルダー・ボトルホルダーに温かい飲み物を置くときはフタを閉めておいてください。
- 運転席側のカップホルダーを使用するとき、背の高いカップを置くと、運転者の視界をさまたげ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

オープントレイ

⚠ 警告

トレイ内に転がりやすいものや凹面より高さがあるものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ラゲージルーム内装備

⚠ 警告

■ **デッキボードを操作するときは**
荷物を載せた状態で操作しないでください。
指をはさんだり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備

USB 電源ソケット★

⚠ 警告

- USB 電源ソケットに指や金属類などの異物、液体が入ると故障やショートの原因になったり、感電するおそれがあります。
- 接続したケーブルに足をとられないように注意してください。機器が故障したり、転倒するなどして思わぬけがをするおそれがあり危険です。

ショッピングフック

⚠ 警告

■ **助手席シートバックのショッピングフック★を使用しないときは**
けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

格納式アシストグリップ

⚠ 警告

格納式アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。
格納式アシストグリップが破損し、転倒などしてけがをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ …… 132

内装の手入れ …… 132

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット …… 132

ガレージジャッキ …… 133

ウォッシャー液の補充 …… 134

タイヤについて …… 134

タイヤの交換 …… 135

タイヤ空気圧について …… 140

キーの電池交換 …… 141

ヒューズの点検・交換 …… 144

電球（バルブ）の交換 …… 144

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ

警告

■ **洗車をするとき**

エンジンルーム内に水をかけないでください。

電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ **排気管について**

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

内装の手入れ

知識

■ **シートベルト**

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。

シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■ **車両への水の浸入**

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。

  電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。（→ P. 18）

  電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）**

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **シート周辺の注意**

車内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分注意してください。シートレール、シートの土台部分などにあたり、けがをするおそれがあります。

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット

警告

■ **走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。

ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **けがを防ぐために**

走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ **エンジンルーム点検後の確認**

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。

点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

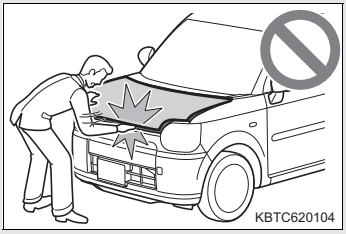
⚠ 警告

■ **オイルを点検・交換するとき**

オイルがオルタネーターなどに付着しないように行ってください。オイルが付着したときは、ただちにふき取ってください。オイルが付着していると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ **ボンネットを閉めるとき**

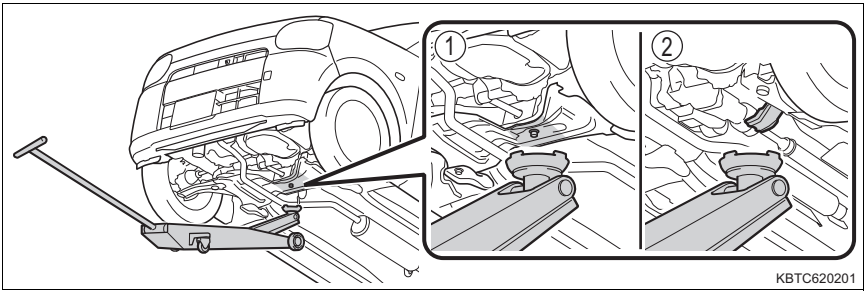
手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



ガレージジャッキ

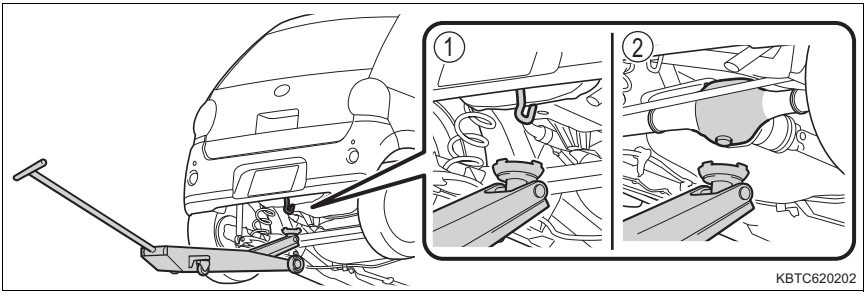
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

◆ フロント側



① FF 車（前輪駆動）
② 4WD 車（4 輪駆動）

◆ リヤ側



① FF 車（前輪駆動）
② 4WD 車（4 輪駆動）

ウォッシャー液の補充

⚠ 警告

■ **ウォッシャー液を補充するとき**

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

●タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

●タイヤの亀裂・損傷の有無

●タイヤの溝の深さ

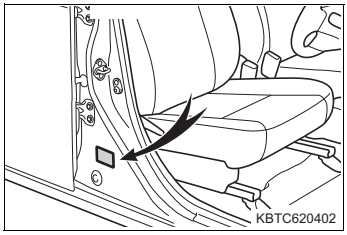
●タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

知識

■ **タイヤ空気圧の数値**

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
	前輪	後輪
155/65R14 75S	260（2.6）	260（2.6）

タイヤの指定空気圧は、運転席側ドア開口部のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



■ **タイヤ空気圧の点検**

● 1ヶ月に 1 回程度は、空気圧ゲージによる点検をおすすめします。

● 空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

⚠ 警告

■ 点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）で、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ（マッド＆スノータイヤ）・冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を混在使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない。
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない

  以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

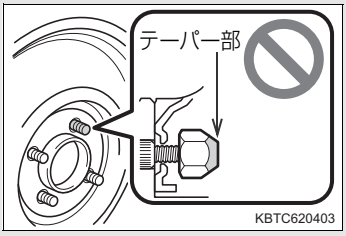
■ 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■ タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。

  ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したりディスクホイールが損傷するおそれがあります。

  またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

■ 異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。

走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

タイヤの交換

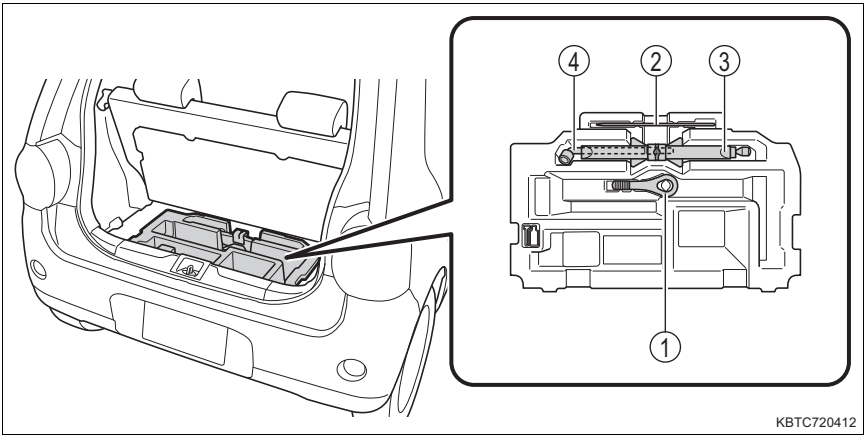
ジャッキを使用してお車を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを取り付けてください。
正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

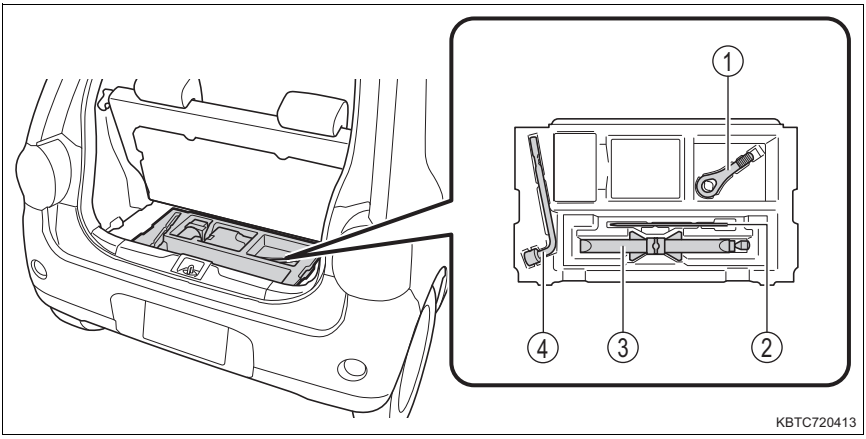
- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する

工具とジャッキの位置

▶FF 車（前輪駆動）



▶4WD 車（4 輪駆動）



① けん引フック
② ジャッキハンドル
③ ジャッキ
④ ホイールナットレンチ

⚠ 警告

■ **ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、お車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

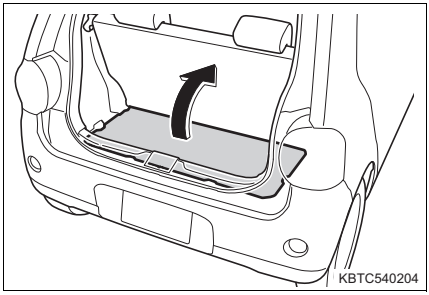
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様のお車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様のお車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置（切り欠きと切り欠きの間）に正しくかける
- ジャッキで支えられているお車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたりお車を走らせない
- 車内に人を乗せたままお車を持ち上げない

⚠ 警告

- お車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- お車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- お車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- お車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキと工具の取り出し方

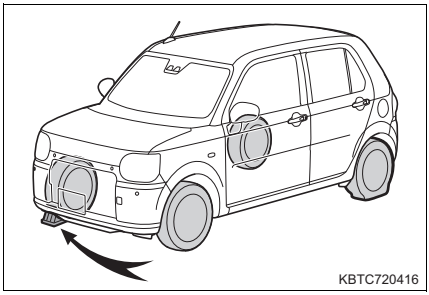
1 デッキボードを持ち上げる



2 ジャッキと工具を取出す（→ P. 136）

タイヤの交換

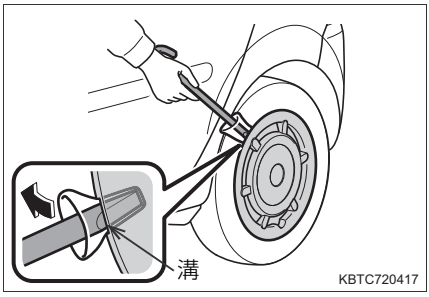
1 輪止めをする



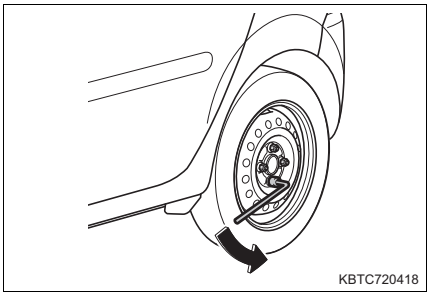
交換するタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

2 ホイールキャップをはずす

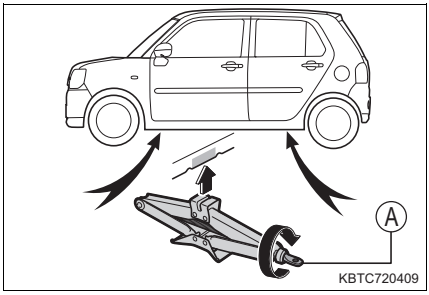
- 傷が付くのを防ぐため、ジャッキハンドルの先端に布などを巻いて保護してください。
- ジャッキハンドルを溝に差し込んではずします。



3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

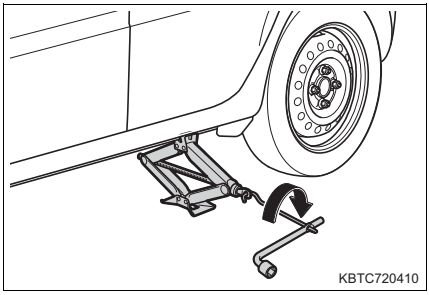


4 ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置（切り欠きと切り欠きの間）にしっかりかける



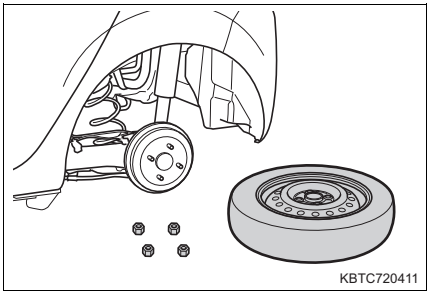
5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体をあげる

ジャッキハンドルとホイールナットレンチを図のように組み合わせて使用してください。



6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



⚠ 警告

■ **タイヤ交換について**

● 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。

走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

警告

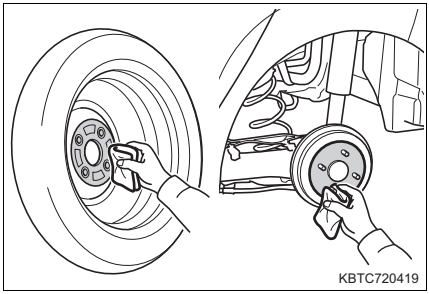
●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ねじ部やナットのテーパー部にオイルやグリースを塗らない
  ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
- ホイールの交換後は、すぐに 103N・m（1050kgf・cm）の力でナットを締める
- タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、ダイハツサービス工場で点検を受ける
- ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける（→ P. 135）

タイヤの取り付け

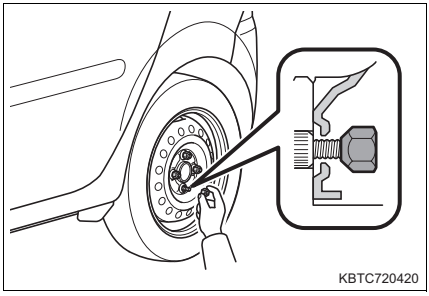
1 ホイール接触面の汚れや異物をふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

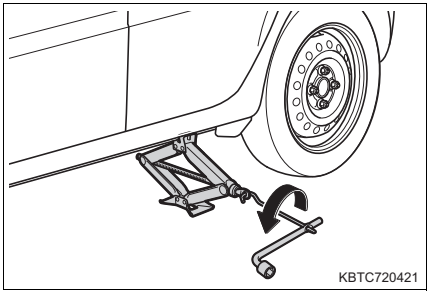

KBTC720419

2 タイヤを取り付け、がたつかない程度まで手でナットを仮締めする

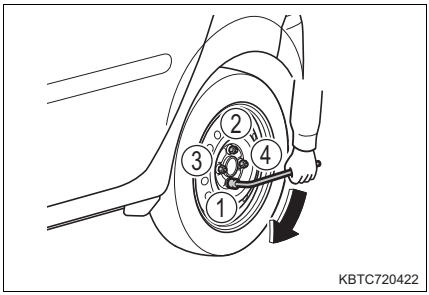
ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす


KBTC720420

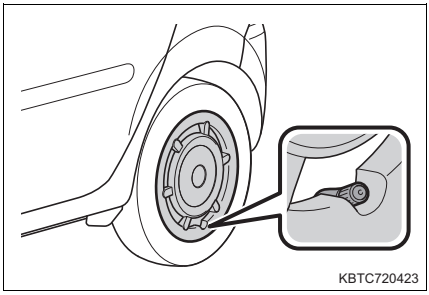
3 車体を下げる


KBTC720421

4 図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける
締め付けトルク：103N・m（1050kgf・cm）



5 車両に装着されていたホイールにもどしたときは、ホイールキャップを取り付ける
タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けます。



6 すべての工具・ジャッキを収納する

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1回以上実施してください。（→ P. 187）

警告

■ **タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

●薄刃のマイナスドライバーなど（くぼみに入る程度の幅のもの）

●リチウム電池

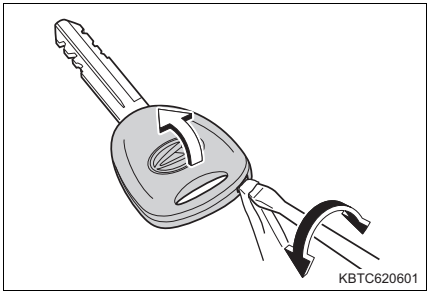
- CR1620（キーフリーシステム非装着車）
- CR2032（キーフリーシステム装着車）

電池交換のしかた

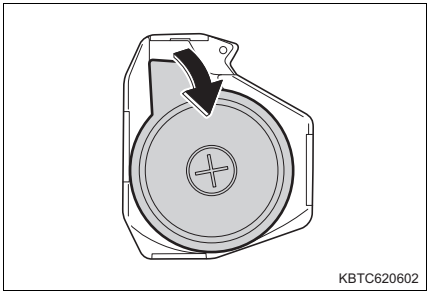
▶キーフリーシステム非装着車

1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。

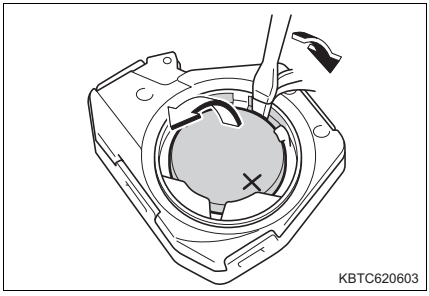


2 モジュール裏側のゴムカバーをはずす



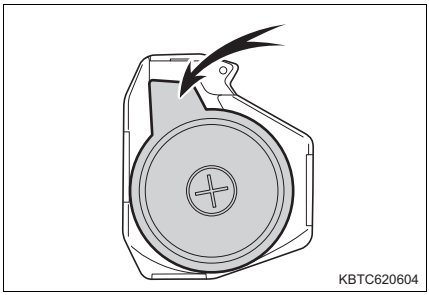
3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は＋極を上にして取り付けます。



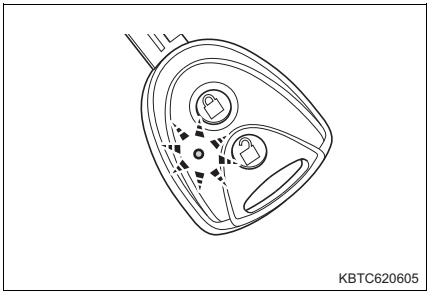
4 モジュールにゴムカバーを取り付ける

ゴムカバーをはめ込むときは、突起部からはめ込み、全体を均等に押さえてください。ゴムカバーが確実にはめ込まれていないと、水、ほこりなどが入り、故障の原因になるおそれがあります。


KBTC620604

5 カバーを取り付ける

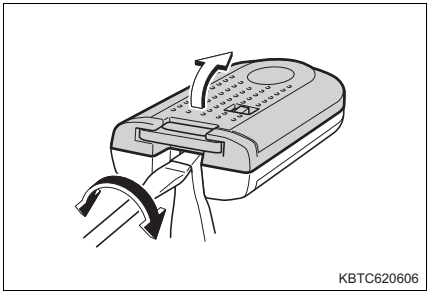
スイッチを押したとき、インジケーターが点滅することを確認してください。


KBTC620605

▶キーフリーシステム装着車

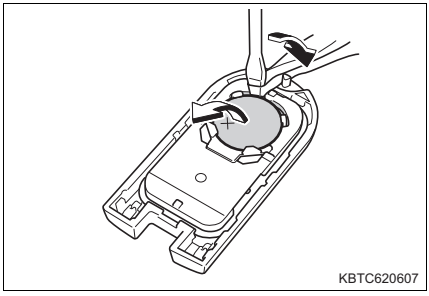
1 カバーをはずす

ダイハツマーク側を上にしてはずしてください。
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。


KBTC620606

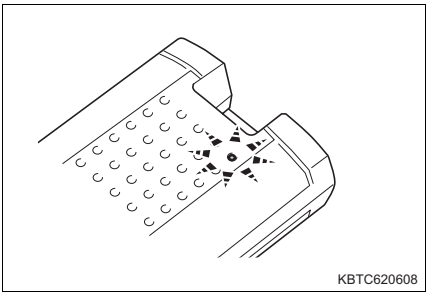
2 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子カードキーのモジュール（基板）が貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子カードキーのモジュール（基板）をひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。
新しい電池は＋極を上にして取り付けます。


KBTC620607

3 カバーを取り付ける

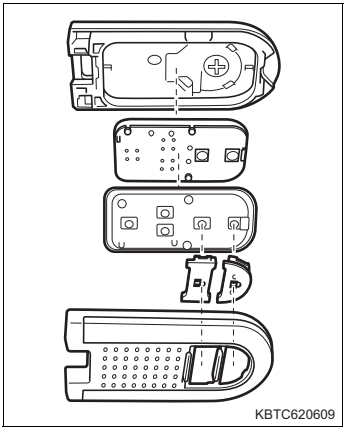
スイッチを押したとき、インジケーターが点滅することを確認する



知識

■ **電子カードキー★の部品がばらけたときは**

図を参考に組み付けてください。



■ **リチウム電池の入手**

電池はダイハツサービス工場・時計店およびカメラ店などで購入できます。

- キーフリーシステム非装着車：CR1620
- キーフリーシステム装着車：CR2032

■ **電子カードキー★の電池が消耗していると**

次のような状態になります。

- キーフリーシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

警告

■ **取りはずした電池と部品について**

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ **交換後、正常に機能させるために**

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヒューズの点検・交換

⚠ 警告

■ **車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずダイハツ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

電球（バルブ）の交換

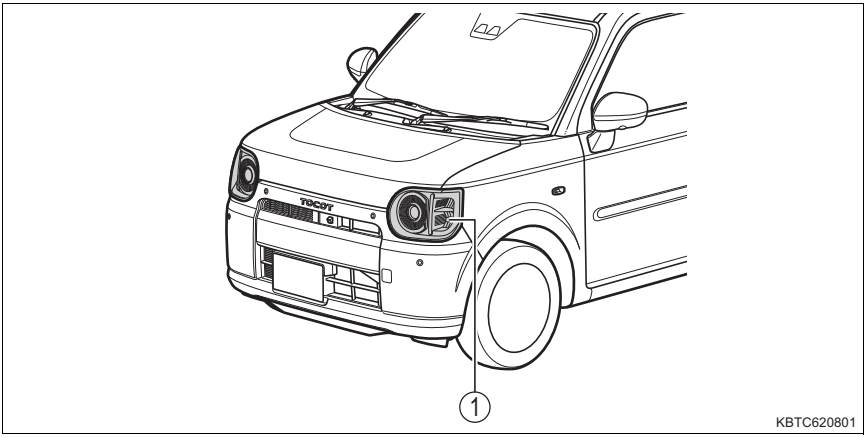
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、ダイハツサービス工場で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 187）

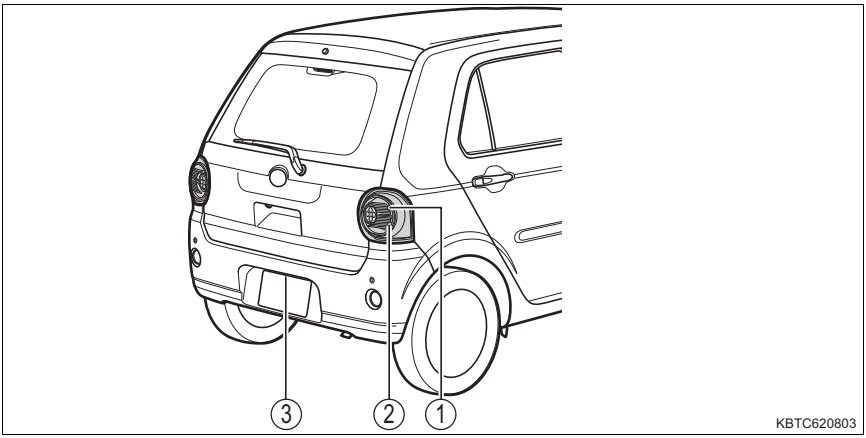
バルブ位置

■ **フロント**



① フロント方向指示／非常点滅灯

■ リヤ



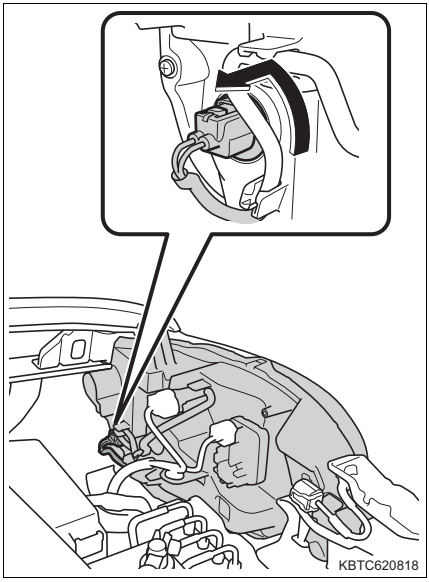
① リヤ方向指示／非常点滅灯
② 後退灯
③ 番号灯

電球交換のしかた

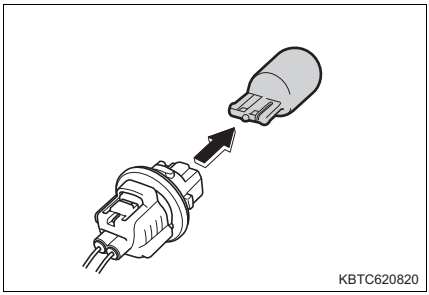
フロント方向指示／非常点滅灯はボンネットを開けてから作業してください。

■ **フロント方向指示／非常点滅灯**

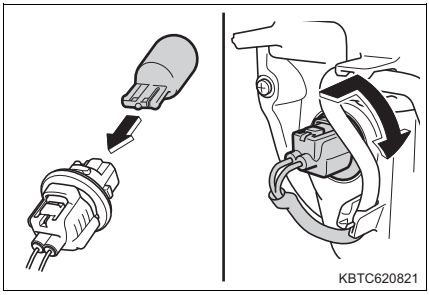
1 ボンネットを開けて、ソケットをまわして取りはずす



2 電球を取りはずす

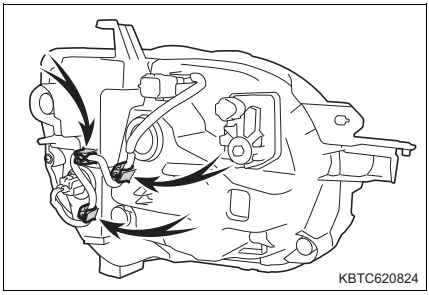


3 新しい電球を取り付け、ソケットをまわして取り付ける



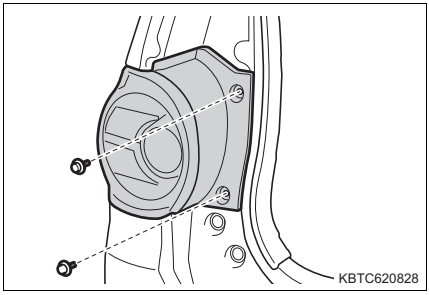
4 配線がランプ本体に確実に取り付けられていることを確認する

配線を取り付けるときは、クランプに元どおり取り付けてください。

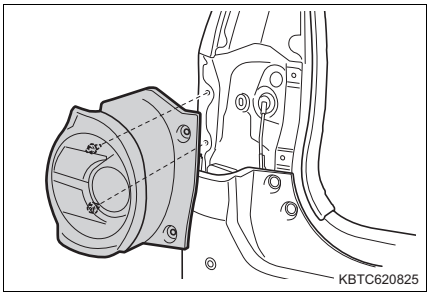


■ 後退灯・リヤ方向指示／非常点滅灯

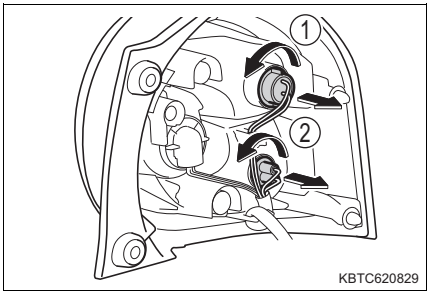
1 バックドアを開けて、ボルト（2 本）をはずす



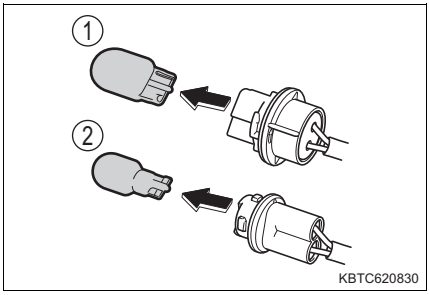
2 ランプ本体をまっすぐ後方に引き、内部にあるかん合をはずす
ランプ本体は、ピン（1ヶ所）とクリップ（1ヶ所）で固定されています。



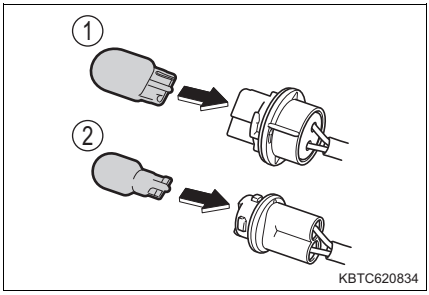
3 ソケットを取りはずす
① リヤ方向指示／非常点滅灯
② 後退灯



4 電球を取りはずす
① リヤ方向指示／非常点滅灯
② 後退灯



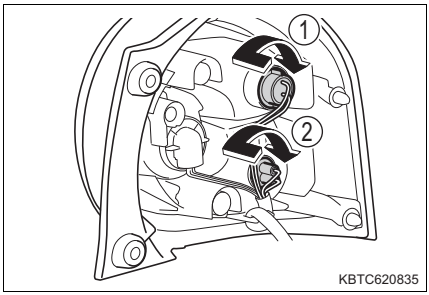
5 電球を交換し取り付ける
① リヤ方向指示／非常点滅灯
② 後退灯



6 ソケットを取り付ける

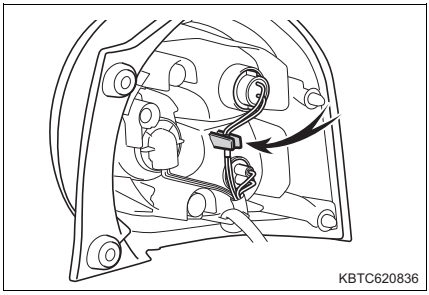
① リヤ方向指示／非常点滅灯

② 後退灯

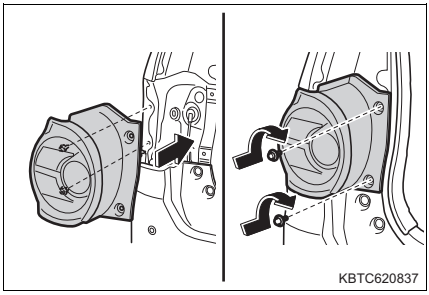


7 配線がランプ本体に確実に取り付けられていることを確認する

配線を取り付けるときは、クランプに元どおり取り付けてください。

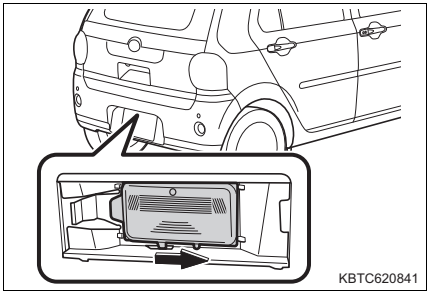


8 車両側とランプ本体のクリップの位置を合わせてランプ本体を取り付け、ボルト（2 本）で固定する

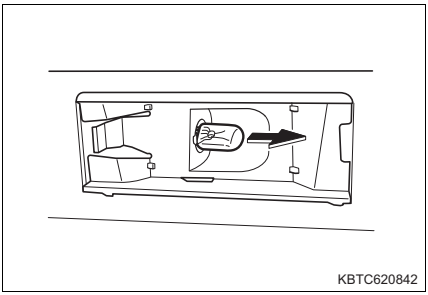


■ 番号灯

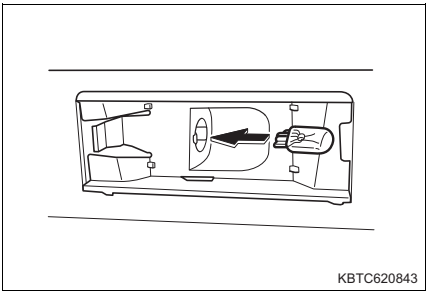
1 レンズをスライドして取りはずす



2 電球を取りはずす

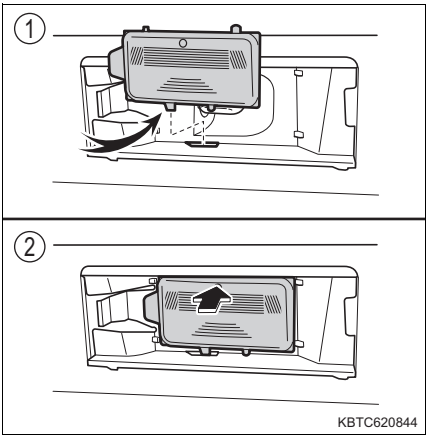


3 新しい電球を取り付ける



4 レンズを取り付ける

レンズの突起部をランプ本体の溝に入れ（①）、矢印の方向に押して（②）取り付ける



■ その他の電球

次の電球が切れたときは、ダイハツサービス工場で交換してください。

●ヘッドランプハイビーム／ロービーム

●車幅灯

●サイド方向指示／非常点滅灯

●制動灯／尾灯

●ハイマウントストップランプ

知識

■LED ランプについて

制動灯／尾灯・ハイマウントストップランプは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、ダイハツサービス工場で交換してください。

⚠ 警告

■ 電球を交換するときは

- ランプは消灯してください。消灯直後は電球が高温になっているため、交換しないでください。
  やけど・感電をするおそれがあり危険です。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
  やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
  また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。
  感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お車の故障や火災を防ぐために

- 電球が正しい位置にしっかり取り付けられていることを確認ください。
- 発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

万一の場合には 7

7-1. まず初めに

発炎筒 …… 152
車両を緊急停止するには … 152
水没・冠水したときは …… 153

7-2. 緊急時の対処法

けん引について …… 153
フューエルポンプシャットオフシステム …… 154
警告灯がついたときは …… 154
警告メッセージが表示されたときは …… 158
「スマアシ停止」が表示されたときは …… 165
パンクしたときは …… 167
エンジンがかからないときは …… 176
電子カードキーが正常に働かないときは（キーフリーシステム装着車）…… 177
バッテリーがあがったときは …… 178
オーバーヒートしたときは …… 180
スタックしたときは …… 182

発炎筒

⚠ 警告

■ **発炎筒を使用してはいけない場所**
次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。
- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ **発炎筒の取り扱いについて**
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかり踏み続ける
ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶シフトレバーが N に入った場合

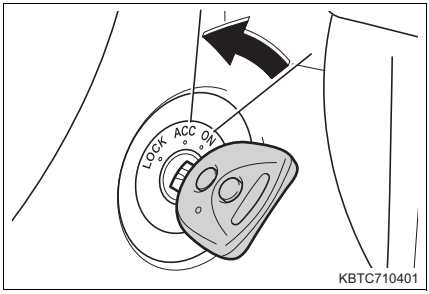
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 エンジンを停止する

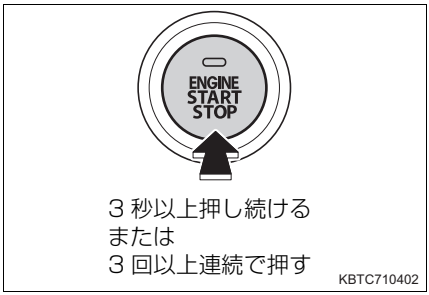
▶シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 キーフリーシステム非装着車：エンジンスイッチを "ACC" にして、エンジンを停止する



キーフリーシステム装着車：エンジンスイッチを 3 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

警告

■ **走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき**

- ブレーキの効きが悪くなると共にハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。
- キーフリーシステム非装着車：キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。
  車外の水位がドアの高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■ **水位がフロアを超えると**

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■ **緊急脱出用ハンマー ※ の使用について**

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。
この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

※ 詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

警告

■ **走行中の警告**

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

7-2. 緊急時の対処法

けん引について

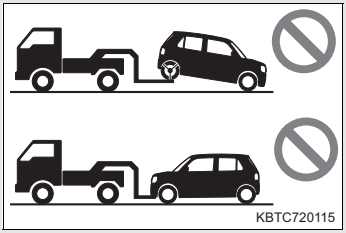
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **レッカー車でけん引するとき**

▶ FF 車

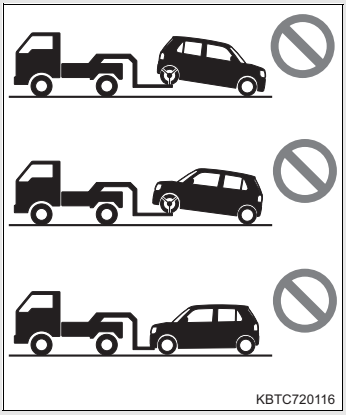
必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。



警告

▶ 4WD 車

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



■ **他車にけん引してもらうときの運転について**

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などをさけてください。
  けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- エンジンスイッチを "OFF" にしないでください。
  ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。
- 他車をけん引する能力はありません。車体のいずれかにロープをかけるなどのけん引はしないでください。

■ **けん引フックを車両に取り付けるとき**

指定の位置にしっかり取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないと、けん引時にフックがはずれるおそれがあります。

フューエルポンプシャットオフシステム

外部から強い衝撃を受けてエンジンが止まってしまった場合、フューエルポンプシャットオフシステムが作動している可能性があります。フューエルポンプシャットオフシステムはエンジンへの燃料の供給を停止させることにより火災などの二次災害を防止する装置です。

システム作動後にエンジンを再始動するには

1 エンジンスイッチを "ACC" または "OFF" にする

2 エンジンを再始動する

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ブレーキ警告灯（警告ブザー ※1） • ブレーキ液の不足 • ブレーキ系統の異常 → **ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。走行を続けると危険です。**

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	充電警告灯 充電系統の異常 → **ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。**
	油圧警告灯 エンジンオイルの圧力異常 → **ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。**
（赤色点滅または点灯）	**高水温警告灯（警告ブザー）** エンジン冷却水温の異常（水温の上昇にともない、点滅から点灯にかわります。→ P. 180） → **ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。**
	エンジン警告灯 • エンジン電子制御システムの異常 • 電子制御スロットルの異常 → **ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
CVT **（点滅）**	**CVT 警告灯** CVT 電子制御システムの異常 → **ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 • SRS エアバッグシステムの異常 • プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → **ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
	ABS 警告灯 ABS の異常 → **ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
（赤色）	**パワーステアリング警告灯（警告ブザー）** EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 → **ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
※2 **（黄色）**	**パワーステアリング警告灯（警告ブザー）** 電圧不足・パワーステアリングのオーバーヒート → **ハンドル操作が重くなりますので、しばらくハンドル操作をひかえてください。約 10 分経過すると通常の重さにもどります。**
（黄色）	**オートハイビーム警告灯★** オートハイビームの異常 → **ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
OFF OFF ※3 スマアシ 故障	**スマートアシスト OFF 表示灯** **車線逸脱警報 OFF 表示灯** **マスターウォーニング** **マルチインフォメーションディスプレイに「スマアシ故障」が表示** スマートアシストⅢの異常 **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
	コーナーセンサー表示灯（警告ブザー） **マスターウォーニング** コーナーセンサーの異常 **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
（点灯）	**スリップ表示灯** • ブレーキアシストの異常 • VSC システムの異常 • TRC システムの異常（VSC・TRC 作動時は点滅します→ P. 122） • ヒルホールドシステムの異常 **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
OFF （点滅）	**eco IDLE OFF 表示灯** • eco IDLE システムの異常 • スターターの交換時期（eco IDLE 非作動時は点灯します→ P. 108） **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
※4 OFF （点滅→消灯）	**eco IDLE OFF 表示灯** バッテリーの交換時期（eco IDLE 非作動時は点灯します→ P. 108） **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
	ブレーキオーバーライドシステム警告灯★ ブレーキオーバーライドシステムの作動時 **→ アクセルペダルから足を離す**
	半ドア警告灯 ※5 ★ いずれかのドアが確実に閉まっていない **→ 全ドアを閉める**
	燃料残量警告灯（警告ブザー） 燃料の残量が 2WD 車は約 4.5L 以下、4WD 車は約 5.5L 以下になった **→ 燃料を補給する**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
（点滅）	▶マルチインフォメーションディスプレイ装着車 **運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告灯** ※6（警告ブザー ※7） 運転席・助手席シートベルトの締め忘れ **→ シートベルトを着用する** ▶TFT マルチインフォメーションディスプレイ装着車 **運転席シートベルト締め忘れ警告灯（警告ブザー** ※7） 運転席シートベルトの締め忘れ **→ シートベルトを着用する**
PASSENGER （点滅）	**助手席シートベルト締め忘れ警告灯** ※6★（警告ブザー ※7） 助手席シートベルトの締め忘れ **→ シートベルトを着用する**
	後席シートベルト締め忘れ警告灯 ※8、9（警告ブザー ※10） 後席シートベルトの締め忘れ **→ シートベルトを着用する**
	パーキングブレーキ未解除警告灯（警告ブザー ※11） パーキングブレーキがかかっているとき **→ パーキングブレーキを解除する**

※1 ブレーキ液警告ブザー：
警告灯が点灯している状態で、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。ブザーが鳴ったときは、ブレーキ液の不足が考えられます。

※2 パワーステアリング警告灯（黄色）：
消灯しない場合、繰り返し点灯する場合はダイハツサービス工場で点検を受けてください。

※3 「スマアシ故障」の表示：
ステレオカメラ、ソナーに異常があると、マルチインフォメーションディスプレイ★に表示されます。

※4 eco IDLE OFF 表示灯：
エンジン始動時に、数秒間点滅します。

※5 半ドア警告灯：
開いているドアがマルチインフォメーションディスプレイ★に表示されます。

※6 助手席シートベルト締め忘れ警告灯の乗員検知センサー：
助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

※7 運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告ブザー：
運転席・助手席シートベルトが締め忘れたまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトが締め忘れたままだと、ブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

※8 インナーミラー上部に表示されます。

※9 後席シートベルト締め忘れ警告灯：
後席シートベルトが非装着の状態で、エンジンスイッチを “ON” にしたとき、もしくは後席シートベルトをはずすと点灯します。
後席シートベルトを着用する、または走行後約 30 秒経過すると消灯します。
また、走行後、後席シートベルトをはずした状態でリヤドアを開閉すると点灯します。

※10 後席シートベルト締め忘れ警告ブザー：
車速が約 5km/h 以上で乗員が後席シートベルトをはずすと約 30 秒間鳴り続けます。一度警告ブザーが鳴ると、約 5km/h 以下で走行しても約 30 秒間鳴り続けます。
後席シートベルトを着用する、もしくはリヤドアを開閉すると、ブザーが停止します。

※11 パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ただちに処置してください

それぞれの対処方法に従って処置し、eco IDLE 表示灯が消灯するのを確認してください。

警告ブザー（車内）	警告灯	警告内容・対処方法
連続音（約 5 秒間）	（高速点滅）	**eco IDLE 表示灯** eco IDLE によるエンジン停止中に運転席ドアを開けた **→ 運転席ドアを閉める**
連続音（約 5 秒間）	（高速点滅）	**eco IDLE 表示灯** eco IDLE によるエンジン停止中に運転席シートベルトをはずした **→ 運転席シートベルトを着用する**
連続音（約 5 秒間）	（高速点滅）	**eco IDLE 表示灯** eco IDLE によるエンジン停止中にボンネットを開けた **→ ボンネットを閉めたあと、シフトレバーを P にして、エンジンスイッチでエンジンを始動する**

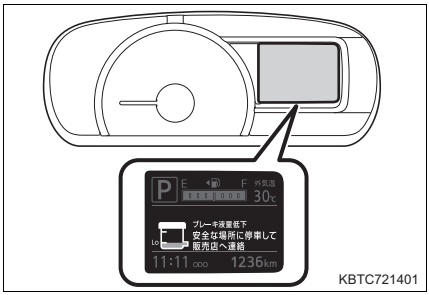
⚠ 警告

■ **パワーステアリング警告灯が点灯したとき**

黄色に点灯したときは操舵力補助が制限され、赤色に点灯したときは操舵力補助がなくなるため、ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかり持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは★

TFT マルチインフォメーションディスプレイ★に警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。



処置後に再度メッセージが表示されたときは、ダイハツサービス工場へご連絡ください。

メッセージと警告作動

警告メッセージ	警告内容・対処方法
ブレーキ液量低下 安全な場所に停車して 販売店へ連絡 Lo	**ブレーキ液の不足** 車速が約 5km/h をこえたときには警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。走行を続けると危険です。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
ブレーキシステム故障 安全な場所に停車して 販売店へ連絡	ブレーキ系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。
充電システム故障 安全な場所に停車して 販売店へ連絡	充電系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。
エンジン油圧低下 安全な場所に停車して 販売店へ連絡	エンジンオイルの圧力異常 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。
エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して 販売店へ連絡 （赤色）	エンジン冷却水高温異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。
エンジンシステム異常 販売店で点検を 受けてください	エンジン電子制御システムの異常 電子制御スロットルの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
CVT CVTシステム異常 販売店で点検を 受けてください CVT （点滅）	CVT 電子制御システムの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
SRSエアバッグ故障 販売店で点検を 受けてください	SRS エアバッグシステムの異常 プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
ABS ABS故障 販売店で点検を 受けてください ABS	ABS の異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
パワーステアリング故障 販売店で点検を 受けてください （赤色）	**EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常** 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
パワーステアリング機能低下 ハンドルが重くなります （黄色）	**電圧不足・パワーステアリングのオーバーヒート** 警告ブザーが鳴ります。 → ハンドル操作が重くなりますので、しばらくハンドル操作をひかえてください。約 10 分経過すると通常の重さにもどります。
キーフリー故障 販売店で点検を 受けてください	**キーフリーシステムの異常** → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
オートハイビーム故障 販売店で点検を 受けてください （黄色）	**オートハイビームの異常** → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
スマートアシスト故障 販売店で点検を 受けてください OFF OFF	**スマートアシストⅢの異常** → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
コーナーセンサー故障 販売店で点検を 受けてください	**コーナーセンサーの異常** 警告ブザーが鳴ります。 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
コーナーセンサー 機能低下	**コーナーセンサー機能低下** 警告ブザーが鳴ります。 → 雨、雪、氷、汚れなどがバンパーのソナーに付着していないか確認し、取り除いてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
VSC故障 販売店で点検を 受けてください	**ブレーキアシストの異常** **VSC システムの異常** **TRC システムの異常** **ヒルホールドシステムの異常** **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
アイドリングストップ故障 販売店で点検を 受けてください OFF **（点滅）**	**eco IDLE システムの異常** **スターターの交換時期** **バッテリーの交換時期** バッテリーの交換時期の場合は、数秒間表示されます。 **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
ブレーキとアクセルが 両方踏まれています	**ブレーキオーバーライドシステムが作動** **→ アクセルペダルから足を離してください。**
車両通信システム異常 販売店で点検を 受けてください	**車両通信システムの異常** **→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。**
ドアが開いています	**いずれかのドアが確実に閉まっていない** 開いているドアが表示されます。 **→ 全ドアを閉める**
給油してください	**燃料の残量が 2WD 車は約 4.5L 以下、4WD 車は約 5.5L 以下になった** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 燃料を補給する**
シートベルトを 装着してください **（点滅）** PASSENGER **（点滅）**	**シートベルト締め忘れ** 警告ブザーが鳴ります。 運転席、助手席は車速が約 20km/h をこえたときに表示されます。 後席は車速が約 5km/h をこえてシートベルトをはずしたときに表示されます。 **→ シートベルトを着用する**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
パーキングブレーキを解除してください	**パーキングブレーキが解除されていない** パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5km/h をこえたときには警告ブザーが鳴ります。 **→ パーキングブレーキを解除する**
スマートアシスト作動 前方注意！！ ※1	**衝突警報機能（対車両・対歩行者）が作動** **衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）が作動** **誤発進抑制制御機能（前方）が作動** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする**
スマートアシスト作動 後方注意！！ ※2	**誤発進抑制制御機能（後方）が作動** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする**
スマートアシスト作動 先行車が発進しました	**先行車発進お知らせ機能が作動** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 周囲の安全を確認し、車両を発進させる**
スマートアシスト作動 車線逸脱警報が作動しました	**車線逸脱警報機能が作動** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 周囲の安全を確認し、ハンドルを操作して車両を車線内にもどす**
コーナーセンサー作動 周辺注意	**コーナーセンサー作動** 作動しているソナーの箇所が表示されます。 警告ブザーが鳴ることがあります。 **→ 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする**
VSCが作動しました （点滅）	**VSC が作動** **→ 特に慎重な運転をする**
ライトを消してください	**車幅灯点灯時に、運転席ドアを開けた** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 車幅灯を消灯する**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
タイヤが左を向いています タイヤが右を向いています	**停車時、ハンドルが左、または右に操作されている** **→ タイヤの向きを確認し、安全に車両を発進させる**

※1 衝突回避支援ブレーキ機能の 1 次ブレーキ・2 次ブレーキ、誤発進抑制制御機能（前方）のエンジン出力抑制制御が作動したとき点灯します。

※2 誤発進抑制制御機能（後方）のエンジン出力制御が作動したとき点灯します。

ただちに処置してください。

それぞれの対処方法に従って処置し、キーフリーシステムの警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
—	—	キーが見つかりません	電子カードキーを携帯していない状態でエンジンを始動しようとした **→ 電子カードキーを携帯する** ※1
5 回	3 回	キーが見つかりません	エンジンスイッチが“ ACC ”または“ ON ”のときにいずれかのドアを開けて、電子カードキーを車外に持ち出し、ドアを閉めた • 警告ブザーが鳴ります。 **→ 電子カードキーを携帯して乗車する**
—	1 回	車内にキーがあります	車内に電子カードキーを置いたまま、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチでドアを施錠しようとした **→ 車内から電子カードキーを取り出したあと、再度施錠する**
—	1 回	車内にキーがあります	車内に電子カードキーを置いたまま、運転席ドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした **→ 車内から電子カードキーを取り出したあと、再度施錠する**
—	—	ブレーキを踏みながらキーでエンジンスイッチに触れてください	電子カードキーを携帯していない状態で 2 回エンジンをかけようとした **→ 電子カードキーを携帯する** ※1
—	—	バッテリー保護のため自動で電源をOFFにしました	自動でエンジンスイッチが“OFF”になった • エンジンスイッチが“ACC”のときは 1 時間以上、“ON”のときは 20 分以上経過すると表示されます。 **→ 次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約 5 分間その回転を保持しバッテリーを充電する**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
3 回	—	キーの電池残量が残りわずかです	電子カードキーの電池切れが近いときにエンジンスイッチを“OFF”にした ※2 • 警告ブザーが鳴ります。 → **新しい電池に交換する（→ P. 142）**
—	—	ハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチを押してください	エンジンスイッチを押してハンドルロックが解除できなかった → **ブレーキペダルを踏んでハンドルを左右にまわしながらエンジンスイッチを押す**
—	—	Pレンジに入れて電源をOFFにしてください	シフトレバーが P 以外の状態でエンジンスイッチを“OFF”にしようとした → **シフトレバーを P にする**
—	1 回	電源をOFFにしてください	エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチでドアを施錠しようとした → **エンジンスイッチを“OFF”にして施錠する**

※1 電子カードキーが車内にあってもエンジンが始動しない場合は、電池が切れている可能性があります。（→ P. 142）

※2 電池切れが近い状態を継続すると、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたときも表示されます。

ただちに処置してください。

それぞれの対処方法に従って処置し、eco IDLE の警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告ブザー（車内）	警告メッセージ	警告内容・対処方法
連続音（約 5 秒間）	シートベルトが外れたためエンジンを再始動しました （高速点滅）	eco IDLE によるエンジン停止中に運転席シートベルトをはずした • 警告ブザーが鳴ります。 → **運転席シートベルトを着用する**
連続音（約 5 秒間）	ドアが開いたためエンジンを再始動しました （高速点滅）	eco IDLE によるエンジン停止中に運転席ドアを開けた • 警告ブザーが鳴ります。 → **運転席ドアを閉める**

「スマアシ停止」が表示されたときは

スマートアシストⅢの機能が停止すると、「スマアシ停止」と機能停止コードがディスプレイに表示されます。表示された場合は、次のように対処してください。
また、TFT マルチインフォメーションディスプレイ装着車は、機能停止のメッセージを表示することができます。（→ P. 49）

機能停止コード一覧

機能停止コード	メッセージ ※2	警告内容・対処方法
※1 スマアシ停止 11E ※2 11E スマアシ停止	11E カメラ視界不良 スマートアシストの一部機能を停止します	ステレオカメラが視界不良により前方を認識できない → **原因状態が解消されると復帰**
※1 スマアシ停止 12E ※2 12E スマアシ停止	12E スマートアシストを停止します	ステレオカメラ（車両前側）内が高温になった → **原因状態が解消されると復帰** エンジン始動後、2 次ブレーキが 3 回作動した → **安全な場所に停車し、エンジンスイッチを“OFF”にしたあと、再度エンジンスイッチを“ON”にする**
※1 スマアシ停止 14E ※2 14E スマアシ停止	14E 初期学習中につきスマートアシストを停止します	スマートアシスト初期学習中 → **しばらく走行すると復帰**

機能停止コード	メッセージ ※2	警告内容・対処方法
※1 スマアシ 停止 15E ※2 15E スマアシ停止	15E ソナー汚れにより スマートアシストの 一部機能を停止します	雨、雪、氷、汚れなどがフロントソナー部 ※3 またはリヤソナー部 ※4 に付着している → **ソナー部を清掃し、原因状態が解消されると復帰**
※1 スマアシ 停止 16E ※2 16E スマアシ停止	16E 悪天候により スマートアシストを 停止します	フロントワイパーを“高速”で作動させている → **原因状態が解消されると復帰**

※1 マルチインフォメーションディスプレイ装着車
※2 TFT マルチインフォメーションディスプレイ装着車
※3 シフトレバーが D・S・B のとき
※4 シフトレバーが R のとき

知識

■ **機能停止コードについて**

- 処置をしても、機能停止コードが表示されたままのときは、システムに異常があるおそれがあります。
  通常の走行に支障はありませんが、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- 機能停止コード「15E」「16E」は、車速が上がると消灯します。
- 「11E」はシフトレバーが R 以外、「15E」「16E」はシフトレバーが P または N 以外のときに表示します。
- 「15E」が表示されていても、「スマアシ停止」が表示されないことがあります。
- シフトレバーが D・S・B のときは、フロントワイパーを“高速”で作動させていても、「16E」、「スマアシ停止」、警告メッセージが表示されないことがあります。

パンクしたときは

この車両には、スペアタイヤが搭載されていません。
タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理セットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク修理剤ボトル 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）パンクしたタイヤの損傷状況により、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理できない場合があります。（→ P. 167）
タイヤパンク応急修理セットで応急修理したタイヤの修理・交換については、ダイハツサービス工場にご相談ください。タイヤパンク応急修理セットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

警告

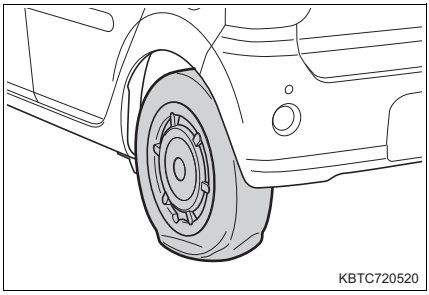
■ **タイヤがパンクしたときは**
パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

●地面が固く平らで安全な場所に移動する
●パーキングブレーキをかける
●シフトレバーを P に入れる
●エンジンを停止する
●非常点滅灯を点滅させる
●タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- パンク修理剤がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

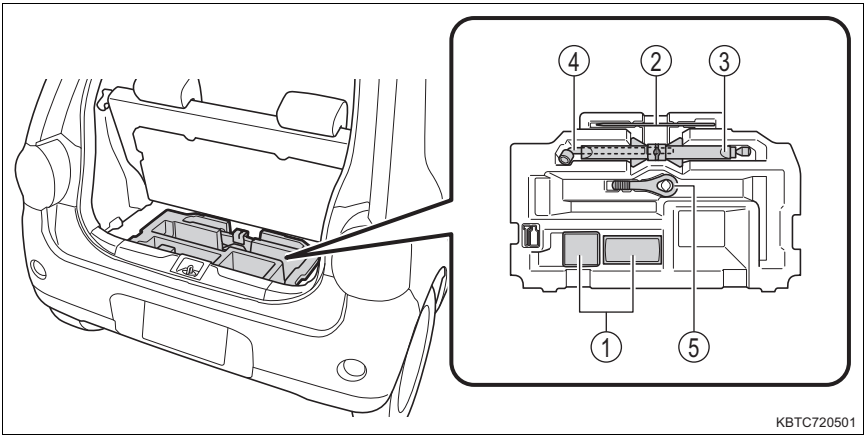


知識

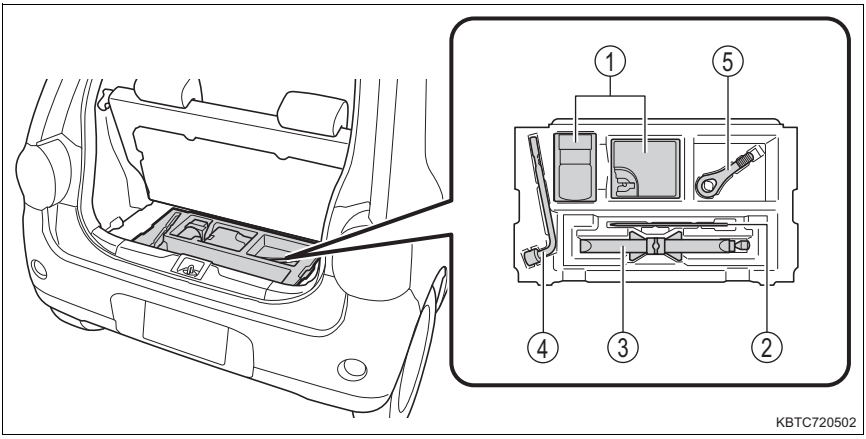
■ **タイヤパンク応急修理セットで修理できないパンク**
次の場合は、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理できません。ダイハツサービス工場にご連絡ください。
●タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
●タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
●タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
●タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
●ホイールが破損しているとき
●2 本以上のタイヤがパンクしているとき
●1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
●修理剤の有効期限が切れているとき

タイヤパンク応急修理セット・工具の搭載位置

▶FF 車（前輪駆動）



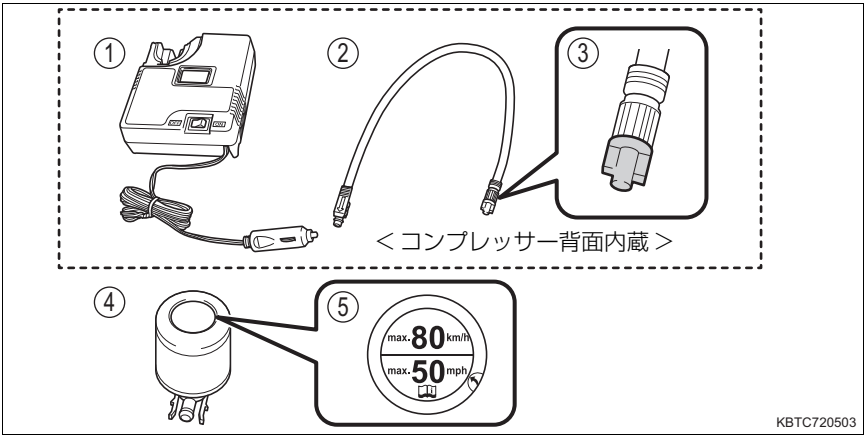
▶4WD 車（4 輪駆動）



① タイヤパンク応急修理セット
② ジャッキハンドル ※
③ ジャッキ
④ ホイールナットレンチ
⑤ けん引フック

※ ジャッキの使い方（→ P. 138）

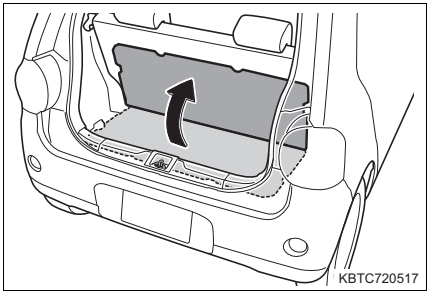
タイヤパンク応急修理セットの内容／各部の名称



① コンプレッサー
② ホース
③ ホース栓
④ 修理剤ボトル
⑤ 速度制限シール

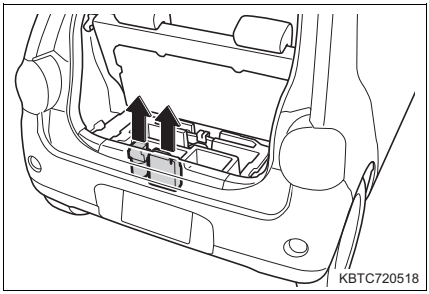
タイヤパンク応急修理セットの取り出し方

1 デッキボードを持ち上げる

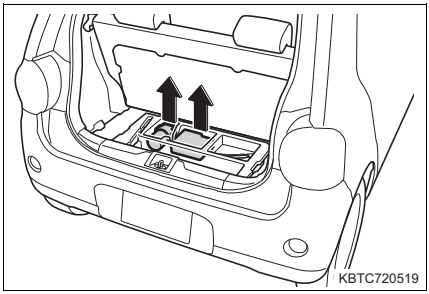


2 タイヤパンク応急修理セットを取り出す

▶FF 車（前輪駆動）



▶4WD 車（4 輪駆動）

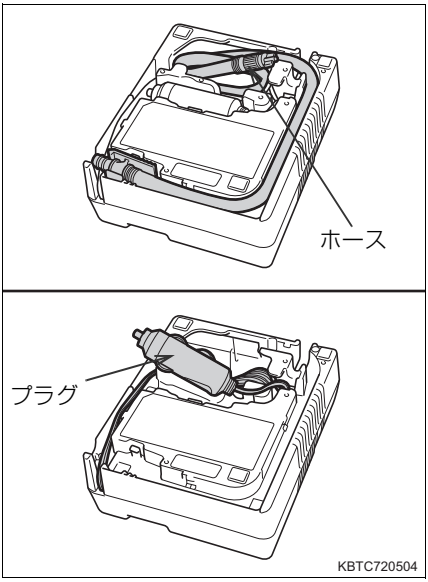


応急修理するとき

1 パンク修理剤ボトルとコンプレッサーを取り出す

緩衝材（スポンジ）が入っている場合は、応急修理後に破棄しないよう注意してください。
（交換用修理剤ボトルには、緩衝材が入っていませんので再使用してください）

2 コンプレッサーからホースと電源プラグを取り出す

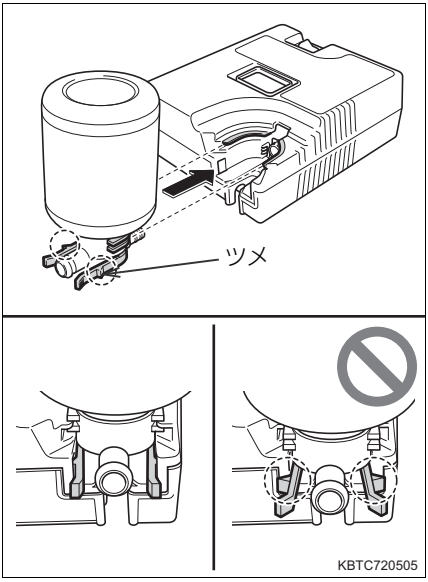


3 修理剤ボトルをよく振る

修理剤ボトルはホース、およびコンプレッサーに固定する前に振ってください。

4 コンプレッサーに修理剤ボトルを強く押し込み固定する

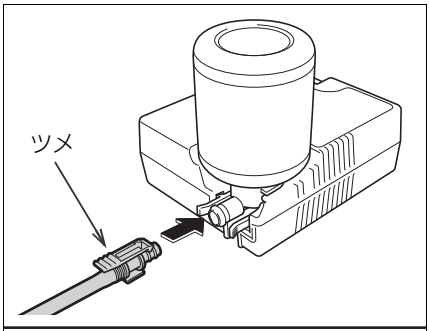
ボトルのツメが固定されるまで、しっかり押し込んでください。

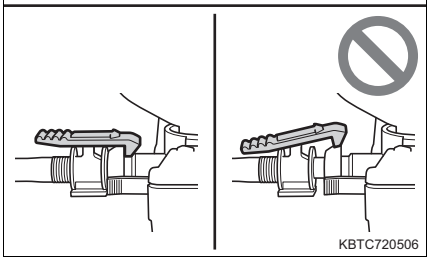


5 修理剤ボトルにホースを差し込む

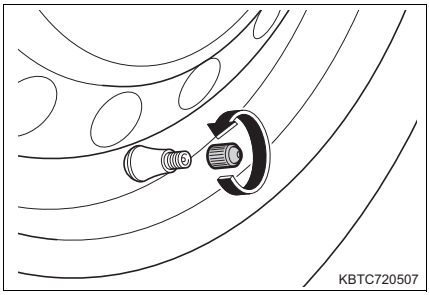
ホースのツメが固定されるまでしっかり差し込んでください。

接続部が確実に固定されていることを確認してください。

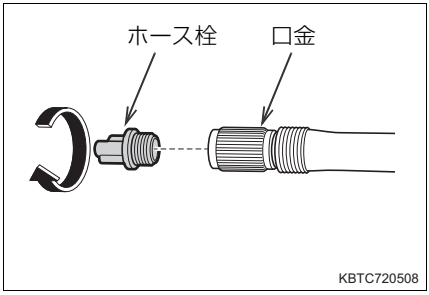




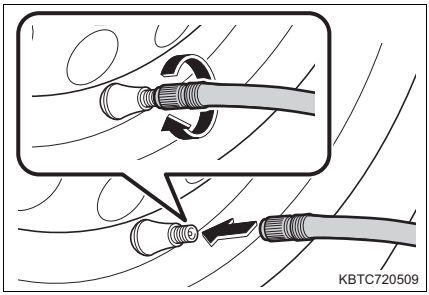
6 パンクしたタイヤのバルブキャップを取りはずす



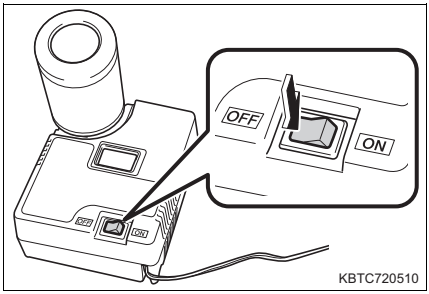
7 ホースの口金からホース栓を取りはずす



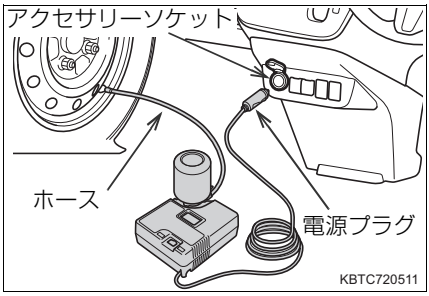
8 ホースの口金をパンクしたタイヤのバルブに接続する
ホースの口金をまわして最後までしっかりねじ込みます。



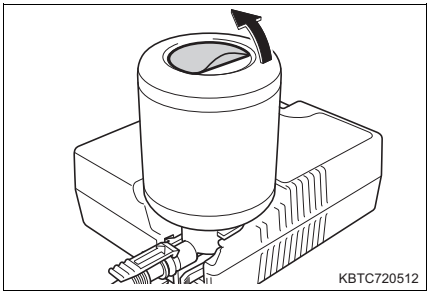
9 コンプレッサーの電源が“OFF”になっていることを確認する



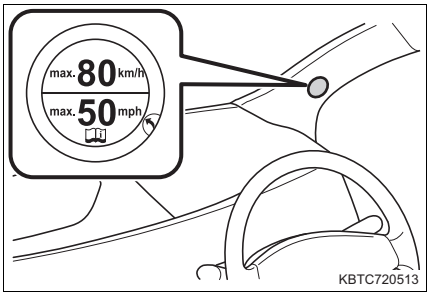
10 コンプレッサーの電源プラグを車両のアクセサリーソケットに差し込む
手順 9 までの作業を終えてから、アクセサリーソケットに差し込んでください。



11 修理剤ボトルの速度制限シールをはがす



12 速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼る



13 タイヤの指定空気圧を確認する

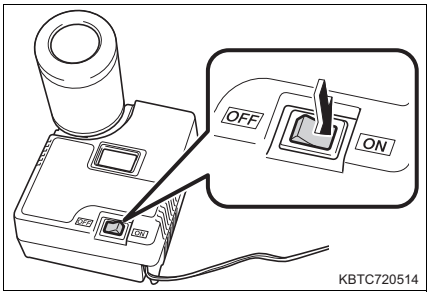
タイヤの指定空気圧は、運転席側ドア開口部のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

14 エンジンを始動する

15 コンプレッサーの電源を“ON”にし、修理剤と空気を充填する

5 分以内に昇圧し始めない場合、タイヤをジャッキで浮かせて手で 2 ～ 3 回以上まわし、修理剤をタイヤ全体にいきわたらせてから、再度昇圧操作を行ってください。

（ジャッキの使い方→ P. 138）



16 空気圧ゲージで確認しながら、指定空気圧になるまで昇圧する

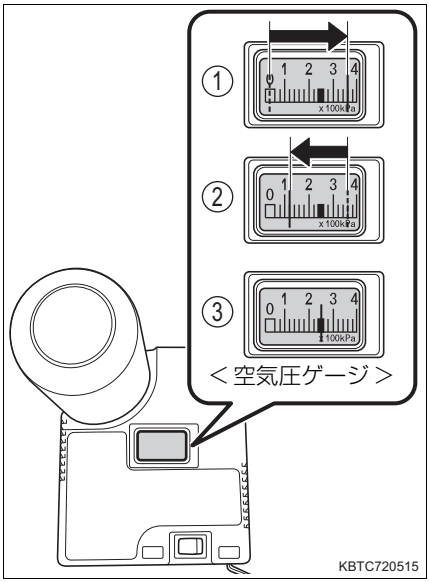
① コンプレッサーの電源を“ON”にしたあと、しばらくは修理剤を注入するため、一時的に空気圧ゲージが約 300 ～ 400kPa まで上がります。

② 1 分程度（低温の場合は 5 分程度）で実際の空気圧表示になります。

③ 指定空気圧になるまで昇圧します。

次の場合は、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があるため、タイヤパンク応急修理セットで修理することができません。ダイハツサービス工場、または JAF などにご連絡ください。

- 修理剤が 5 分以内に充填できない
- 25 分以内に指定空気圧まで上がらない



17 指定の空気圧まで昇圧できれば、コンプレッサーの電源を “OFF” にする

18 アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースの口金を取りはずす

ホースの口金を取りはずすときに修理剤がもれることがあります。

19 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

20 ホースの口金にホース栓を取り付ける

21 いったんボトル、コンプレッサー、ホースを接続したまま、ラゲージルームに収納する

コンプレッサーに取り付けた修理剤ボトル、ホース、ホース栓は取りはずさないでください。取りはずすとボトル内に残った修理剤がこぼれるおそれがあります。

22 空気が抜けるのを防ぐため、すみやかに走行を開始する

急加速・急ブレーキ・急ハンドルをさけ、80km/h 以下で慎重に運転してください。

23 約 5km 程度走行後、交通のさまたげにならない安全な場所に停車し、エンジンスイッチを "OFF" にする

24 タイヤの空気圧を空気圧ゲージで確認する

- コンプレッサーを車両に接続する
- エンジンを始動する
- コンプレッサーの電源を "ON" にして作動させたあと、電源を "OFF" にして空気圧ゲージで確認する

25 指定空気圧であれば、パンク応急修理を完了する

▶ 空気圧が 130kPa 以上で指定空気圧に満たない場合

手順 6 ～ 23 を繰り返し行って、指定空気圧まで昇圧してください。

▶ 空気圧が 130kPa 以下に低下していた場合

タイヤパンク応急修理セットによる修理はできません。走行を中止し、ダイハツサービス工場、または JAF などにご連絡ください。

26 異常がなければ、すみやかにダイハツサービス工場まで走行する

- 急加速・急ブレーキ・急ハンドルをさけ、80km/h 以下の車速で慎重に運転してください。
- 100km 以上の距離を走行しないでください。

知識

■ 応急修理後のタイヤのバルブについて

タイヤパンク応急修理セットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■ タイヤパンク応急修理セットの点検について

- パンク修理剤の有効期限の確認は定期的に行ってください。
  有効期限はボトルに表示されています。
- 有効期限が切れたパンク修理剤は使用しないでください。タイヤパンク応急修理セットによる修理が正常にできない場合があります。
- 有効期限が切れる前に交換してください。交換については、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- タイヤ空気圧充填用コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込み、エンジンスイッチを "ACC" にして、作動の確認をしてください。

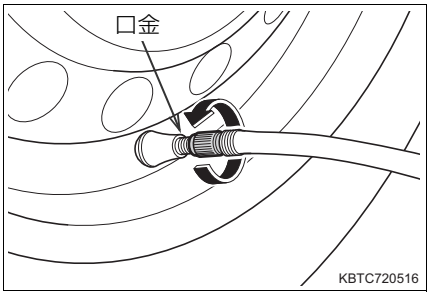
■ タイヤパンク応急修理セットについて

- タイヤパンク応急修理セットは自動車タイヤの空気充填用です。
- タイヤパンク応急修理セットのパンク修理剤ボトルは、1 本のタイヤを一度だけ応急修理できます。使用したパンク修理剤ボトルの交換は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- 外気温度が－ 30 ℃～ 60 ℃のときに使用できます。
- タイヤパンク応急修理セット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク修理剤が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク修理剤がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- タイヤ空気圧充填用コンプレッサー作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧充填用コンプレッサーをタイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。
- 新しい修理剤は、ダイハツサービス工場でご購入ください。

知識

■ **空気を入れすぎてしまったとき**

ホースの口金をゆるめて空気を抜いてください。



警告

■ **タイヤパンク応急修理セットについて**

- タイヤパンク応急修理セットは指定の位置に収納してください。

  急ブレーキ時などにタイヤパンク応急修理セットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- タイヤパンク応急修理セットはお客様のお車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ **パンク修理剤について**

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■ **パンクしたタイヤを応急修理するとき**

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。

  走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤ空気圧充填用コンプレッサーは、長時間作動させると過熱する可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。
- タイヤ空気圧充填用コンプレッサーの使用中に、作動が鈍くなったり、本体が熱くなったりしたときは、ただちに電源を “OFF” にし、30 分以上放置してください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に速度制限シールを貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。また、メータやウインドウガラスなど、運転のさまたげになるようなところに貼らないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ **パンク修理剤を均等に広げるための運転について**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
  - タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
  - 空気圧を確認してください。130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠ 注意

■ 応急修理をするとき

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
  取り除いてしまうと、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- タイヤパンク応急修理セットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■ タイヤパンク応急修理セットについて

- タイヤパンク応急修理セットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- タイヤパンク応急修理セットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- タイヤパンク応急修理セットは砂埃や水をさけて収納してください。
- タイヤパンク応急修理セットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステム★に異常がある可能性があります。（→ P. 34）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 178）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合（キーフリーシステム装着車）

- 電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 177）
- ハンドルロックに異常がある可能性があります。

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 178）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電子カードキーが正常に働かないときは（キーフリーシステム装着車）

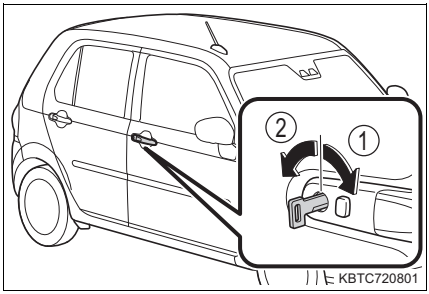
電子カードキーと車両間の通信がさまたげられたり（→ P. 60）、電子カードキーの電池が切れたときは、キーフリーシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

エマージェンシーキーを使って次の操作ができます。

① 全ドア施錠

② 全ドア解錠

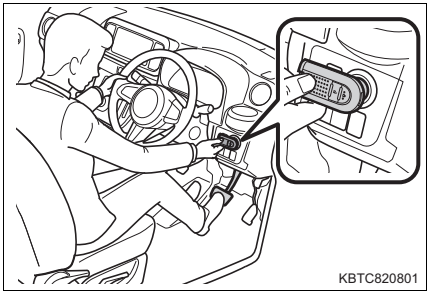


エンジン始動の方法

1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む

2 電子カードキーのダイハツエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる

- エンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯します。
- セキュリティアラームの作動が停止します。（→ P. 35）



3 エンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

知識

■ **エンジンの停止方法**

通常のエンジン停止のしかたと同様、シフトレバーを P にしてエンジンスイッチを押します。

■ **電池交換について**

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→ P. 142）

■ **エンジンスイッチモードの切りかえ**

エンジン始動方法の手順 3 で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→ P. 76）

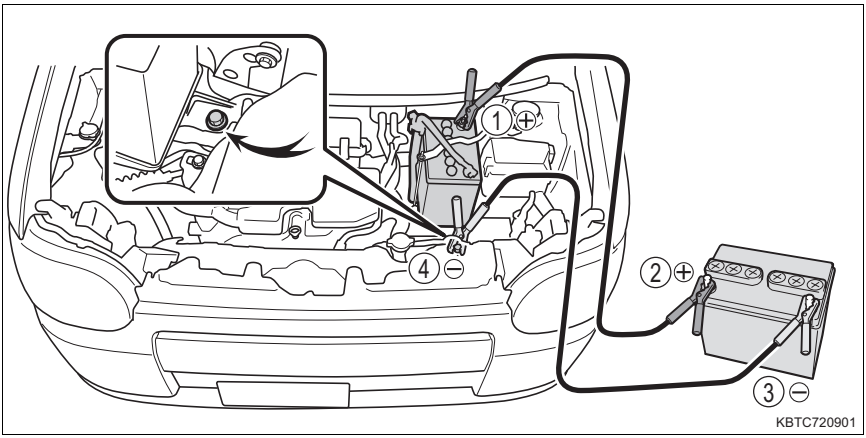
バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

1 バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ
② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ
③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ
④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をミッションマウントのボルト（図に示す部分）につなぐ



2 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

3 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったん“ON”にしてから自車のエンジンをかける

4 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンがかかっても、早めにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

知識

■ **バッテリーあがりのときの始動について**

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ **バッテリーがあがったときは**

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ **バッテリーの充電について**

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

■ **バッテリーあがりのときや取りはずし時など（キーフリーシステム装着車）**

- バッテリーがあがった直後はキーフリーシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはエマージェンシーキーで施錠・解錠を実施してください。
- バッテリーがあがったあとの、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2 回目以降のエンジン始動は正常に作動しますので、問題ではありません。

知識

- 車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがりのとき、バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを“OFF”にしてから行ってください。
  バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

■ **バッテリーを交換するとき**

装着されているバッテリーは、eco IDLE 専用品です。

同等の性能のものと交換してください。

適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。

詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。

警告

■ **バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

救援車のバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ **バッテリーの取り扱いについて**

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

■ **車の損傷を防ぐために**

車両を押したり、引いたりして始動させないでください。

触媒コンバーターが過熱し、火災の原因になるおそれがあります。

注意

■ **バッテリーあがりを防止するために**

- エンジンがかかっていないときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ **ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。
●高水温警告灯（→ P. 155）が赤色に点滅または点灯した
●TFT マルチインフォメーションディスプレイ装着車：「エンジン冷却水高温」の警告メッセージ（→ P. 159）が表示された
●エンジンの出力が低下した（スピードが出ないなど）
●エンジンルームから蒸気が出る

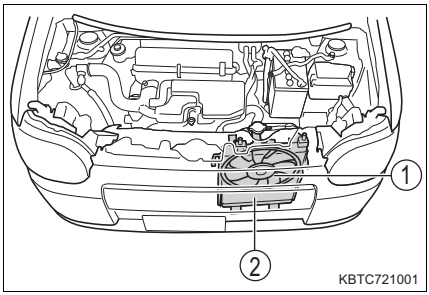
対処方法

■ 高水温警告灯が点滅または点灯したとき

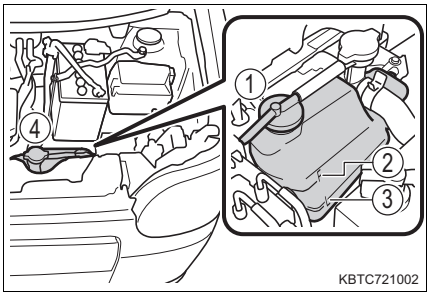
1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

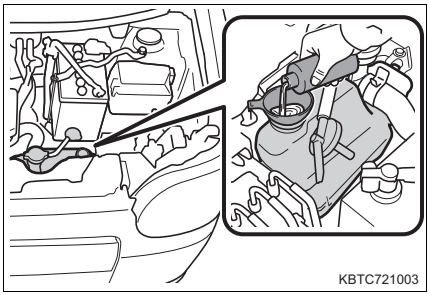
3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する
① ファン
② ラジエーター
多量の冷却水もれがある場合は、ただちにダイハツサービス工場に連絡してください。



4 冷却水の量がリザーバータンクの“F”（上限）と“L”（下限）のあいだにあるかを点検する
① リザーバータンク
② “F”（上限）
③ “L”（下限）
④ ラジエーターキャップ



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する
冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF を繰り返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、ダイハツサービス工場に連絡する
ファンが作動している場合：
最寄りのダイハツサービス工場で点検を受ける

⚠ 警告

■ エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合はラジエターキャップおよび冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

⚠ 注意

■ 冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてから入れてください。

冷却水はゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にして、エンジンを停止する
2 タイヤ前後の土や雪を取り除く
3 タイヤの下に木や石などをあてがう
4 エンジンを再始動する
5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む

VSC・TRC の作動で脱出しにくいときは、TRC または VSC・TRC を停止してください。（→ P. 122）

⚠ 警告

■ **脱出するとき**

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突をさけるため周囲に何もないことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ **シフトレバーを操作するとき**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。

車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ **トランスミッションやその他の部品への損傷をさけるために**

- タイヤが空転するのをさけ、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）…… 184
8-2. カスタマイズ機能
カスタマイズ機能一覧 …… 187

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。
お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）
無鉛レギュラーガソリン 無鉛プレミアムガソリン	30

エンジンオイル

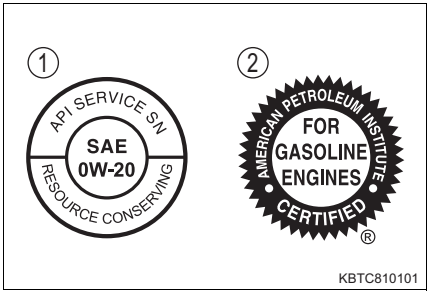
指定銘柄	エンジン	容量［L］（参考値）	
		オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨：アミックス EXTRA 0W-20 適合：アミックス EXTRA 5W-30	KF-VE	2.7	2.9

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ **指定エンジンオイル**

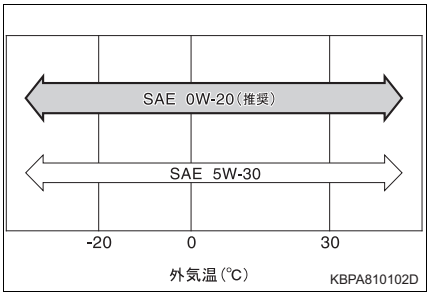
API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

① API マーク
② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

次の図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

●0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

●0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	エンジン	容量［L］（参考値）
アミックスロングライフクーラント （高防錆力タイプ） 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12 ℃ 濃度 50%　－ 35 ℃	KF-VE	3.2

トランスミッション

指定銘柄	容量［L］（参考値 ※1）
アミックス CVT フルード -DFE※2 または DC	5.7

※1 容量は参考値です。交換が必要な際はダイハツサービス工場にご相談ください。

※2 省燃費性に優れるオイルです。

トランスファー（4WD 車）

指定銘柄（推奨粘度）	容量［L］（参考値）
アミックスディファレンシャル ハイポイドギヤオイル （API GL-5 SAE 80W-90）	0.57

リヤディファレンシャル（4WD 車）

指定銘柄（推奨粘度）	容量［L］（参考値）
アミックス ATF D3-SP	0.73

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
アミックスブレーキフルード（DOT3 相当）

■ ブレーキペダル

項目	基準値［mm］
遊び	0.5 ～ 3
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	73.8 以上

※ エンジン回転時に 294 N（30 kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 踏力 245N（25kgf）のときのノッチ ※ 数	5 ～ 7

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ” という音）のことです。

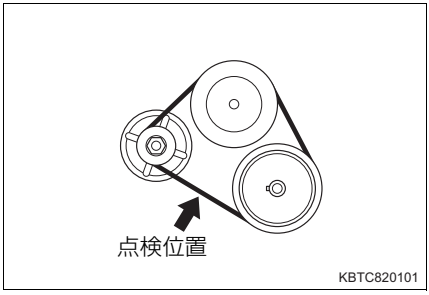
バッテリー

形式
M-42

ウォッシャー

容量［L］（参考値）
1.5

V リブドベルト

項目	エンジン	基準値［mm］
たわみ量  押力 98N（10kgf）（冷間時）	KF-VE	7.9 ～ 9.7

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
		前輪	後輪
155/65R14 75S	14×4.5J	260（2.6）	260（2.6）

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	フロント方向指示／非常点滅灯	21
	サイド方向指示／非常点滅灯	5
	リヤ方向指示／非常点滅灯	21
	後退灯	16
	番号灯	5
車内	フロントパーソナルランプ（LED タイプを除く）	5
	ルームランプ	8

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
LA550S	KF-VE（ガソリン）	FF（前輪駆動）
LA560S	KF-VE（ガソリン）	4WD（4 輪駆動）

8-2. カスタマイズ機能

カスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてダイハツサービス工場で作動内容を変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはダイハツサービス工場へお問い合わせください。

カスタマイズ設定一覧

■ **キーフリーシステム★、ワイヤレスドアロック共通（→ P. 56, 62）**

機能の内容	初期設定	変更後
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
作動の合図（音量）	標準	大きい
		小さい
		鳴らない

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ キーフリーシステム★（→ P. 56）

機能の内容	初期設定	変更後
キーフリーシステムの作動	あり	なし

■ ドアロック

機能の内容	初期設定	変更後
車速感応オートドアロック	あり	なし
シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠 （シフト操作連動ドアロック）	なし	あり
シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠 （シフト操作連動アンロック）	あり	なし
エンジンスイッチを “ACC” または “OFF” にしたときの全ドア解錠 （エンジンスイッチ “OFF” 連動オートドアアンロック）	なし	あり

■ バックドア（→ P. 63）

機能の内容	初期設定	変更後
バックドアの右側スイッチ★操作による作動	施錠のみ	施錠・解錠

■ スマートアシストⅢ（先行車発進お知らせ機能）（→ P. 106）

機能の内容	初期設定	変更後
先行車発進お知らせ機能の発進告知タイミング	遅い	標準
		早い

■ オートエアコン★（→ P. 127）

機能の内容	初期設定	変更後
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない

■ ランプ（→ P. 79）

機能の内容	初期設定	変更後
ランプ消し忘れ防止機能	エンジンスイッチと連動	運転席ドアと連動

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ イルミネーション

機能の内容	初期設定	変更後
ドア開閉後に点灯している室内灯が自動で消灯するまでの時間	15 秒	7.5 秒
エンジンスイッチ “OFF” 後の室内灯自動点灯機能	あり	なし

■ ドアミラー（キーフリーシステム装着車）

機能の内容	初期設定	変更後
ドアミラースイッチの操作による格納・復帰	エンジンスイッチが “ACC” または “ON” で格納・復帰	エンジンスイッチが “ON” で格納・復帰
エンジンスイッチの操作と連動して復帰	エンジンスイッチが “ACC” または “ON” で復帰	エンジンスイッチが “ON” で復帰

■ フロントワイパー（車速感応式間欠ワイパー装着車）（→ P. 84）

機能の内容	初期設定	変更後
車速感応間欠作動機能	する	しない

■ リヤワイパー＆ウォッシャー★（→ P. 85）

機能の内容	初期設定	変更後
リバース連動機能	する	しない
間欠作動時間の調整	標準	早い
		遅い
間欠作動開始時に 4 秒間の低速作動	する	しない
リヤウォッシャー連動機能	しない	する

■ 方向指示レバー（→ P. 78）

機能の内容	初期設定	変更後
レバーを途中まで動かしたときの 3回点滅する機能	する	しない
逆方向にレバーを操作して点滅を中止させるときの、逆方向の 3 回点滅が始まるまでのレバー保持時間	レベル 2	レベル 1 ～ 4
右左折後に消灯させるハンドルの角度調整	レベル 3	レベル 1 ～ 9

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
お近くのダイハツ販売会社、または
ダイハツお客様コールセンターまでお願いいたします。

お問い合わせには、あらかじめ下記の事項について確認のうえ、ご連絡願います。

⑴車名および型式、登録番号
⑵ご購入年月日
⑶走行距離
⑷お客様のご住所、お名前、電話番号

●印刷＝2021年7月23日　●発行＝2021年7月30日

210730-1

01999-B2531

ダイハツ工業株式会社

お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
お近くのダイハツ販売会社または下記までお願いいたします。

ダイハツお客様コールセンター

フリーコール　0800-500-0182
受付時間　9：00～17：00
〒563-8651　大阪府池田市ダイハツ町1番1号

弊社におけるお客様の個人情報の取り扱いについては、ダイハツ工業株式会社ホームページにて掲載しております。（https://www.daihatsu.com/jp/privacy.html）

シートベルトを締めましょう

●車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。